授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護理論	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	休波茂子、有家香
授業概要	実践科学としての看護学とその発展について、看護モデル及び看護理論を中心に歴史的・特性的・学際的に把握する。さらに、看護モデル及び看護理論に関わる看護知識体系の構造を理解し、看護実践や教育・研究に効果的に活用できる能力を養うために、著名な看護モデルや理論についてクリティークを行う。
到達目標	1．看護理論に関する看護知識体系の構造について説明することができる。 2．看護理論を看護実践、教育、研究に活用する方法について説明することができる。 3．看護モデルまたは看護理論のクリティークができる。 4．看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献について述べられる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	
1	理論とは何か、看護理論の開発の流れについて	休波
2	看護知識体系の開発の流れについて、主要な看護理論について	休波
3	中範囲理論について	有家・休波
4	看護モデルおよび看理理論のクリティークの方法について	休波
5	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティークの実際(1) (Roy 適応看護モデルの理論分析)	休波
6	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティークの実際(2) (Roy 適応看護モデルの理論分析)	休波
7	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティーク 大理論：ニード論(ヘンダーソン)	有家・休波
8	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティーク 大理論：人間関係論(トラベルビー、オーランドなど)	休波
9	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティーク 大理論：システム論(オレム、キング、M.ニューマンなど)	休波
10	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティーク 大理論：ケアリング理論(ベナー、ワトソンなど)	休波
11	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティーク 中範囲理論：ローゼンストックの保健信念モデルなど	休波
12	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティーク 中範囲理論：ラザルスのストレス・コーピングなど	休波
13	特定の看護モデルまたは看護理論のクリティーク 中範囲理論：バンデューラーの自己効力感など	休波
14	看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献(1) 興味・関心ある看護理論及び看護モデルの臨床領域への活用	休波
15	看護理論及び看護モデルの看護実践への貢献(2) 興味・関心ある中範囲理論の看護実践への活用	休波

教科書	なし
参考書	・J.Fawcett ／太田喜久子ら監訳(2008)：看護理論の分析と評価　改訂版、医学書院 ・L.C.Walker ら／中木高夫他訳(2008)：看護における理論構築の方法、医学書院 ・S.C.Roy ／松木光子監訳(2010)：ザ・ロイ適応看護モデル第２版、医学書院 ・看護理論家の業績と理論評価(2015)：筒井真優美編集、医学書院
評価方法･基準	プレゼンテーション及び討議(60%)、課題レポート(40%)から総合的に評価する。
事前･事後学習	事前学習：①各自興味関心ある看護理論及び看護モデルについて選択しクリティークして授業に臨むこと。②事前に各自興味関心ある理論の分析評価、研究と実践への応用についてまとめ授業時に配布すること。③効果的なプレゼンテーションを行うために理論の分析評価の方法について必ず理解しておくこと。 事後学習：①その日に行った理論については、看護実践及び看護研究にどのように応用できるのかまとめておくこと。②担当した理論についてはレポートしてまとめ提出すること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護研究	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子、足立智孝、中島洋一
授業概要	専門的知識や技術の開発など、看護の質の向上をはかるために必要な研究の役割、研究プロセス、研究方法および研究倫理について修得し、文献検索、クリティーク、および文献の看護実践への活用についての理解を深める。
到達目標	１．研究疑問・問題を根拠づける文献のクリティークを実践できる。 ２．研究における概念と研究方法を表現できる。 ３．倫理申請書類を模擬作成できる。 ４．研究計画書作成の方法、研究報告、論文作成の方法について理解する。 ５．研究文献の看護実践への活用を討議できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	授業概要、研究プロセス、研究問題、文献検索	中島
2	文献検索、文献の取集・分析・整理の方法	中島
3	文献のクリティーク、文献レビュー　量的研究：研究デザイン、データ収集と分析	中島
4	文献のクリティーク、文献レビュー　量的研究：研究デザイン、データ収集と分析	中島
5	研究における倫理審査申請について	足立
6	研究計画書作成、研究報告、論文作成	中島
7	研究計画書作成、研究報告、論文作成	中島
8	質的研究：研究プロセス、倫理的問題、面接、参加観察	田中
9	質的研究：研究プロセス、倫理的問題、面接、参加観察	田中
10	質的研究：記述民俗学	田中
11	質的研究：グラウデッドセオリー	田中
12	質的研究：アクションリサーチ	田中
13	質的研究：ナラティヴリサーチ	田中
14	発表：文献（質的研究と量的研究）のクリティーク 討議：文献の実践への活用	田中・中島
15	発表：文献（質的研究と量的研究）のクリティーク 討議：文献の実践への活用	田中・中島

教科書	Polit, D.F. & Beck, C.T., 近藤潤子（監訳）（2010）．看護研究－原理と方法（第２版）、医学書院. Holloway, I. & Wheeler, S.　野口美和子監訳（2006）．ナースのための質的研究入門－研究方法から論文作成まで（第２版）、医学書院. 前田樹海、江藤裕之（2013）．APA に学ぶ看護系論文執筆のルール、医学書院
参考書	アメリカ心理学会、前田樹海他（訳）（2011）．APA 論文作成マニュアル（第２版）．医学書院. Burns, N. & Grove, S.K. 黒田裕子、中木高夫、小田正枝、逸見功（監訳）（2015）．バーンズ＆グローブ看護研究入門－実施・評価・活用、エルゼビアジャパン. 山川みやえ、牧本清子（編著）（2014）．研究手法別のチェックシートで学ぶよくわかる看護研究論文のクリティーク、日本看護協会出版会.
評価方法・基準	講義および討議への参加度（20％）、倫理審査申請書模擬作成（20％）、 文献のクリティーク（レポート50％；口頭発表10％）
事前・事後学習	事前に示す資料や教科書を読んでくること。事後には疑問点を整理し、さらに関連した文献などを読み理解を深める。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
コンサルテーション論	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一、千葉恵子、松谷典洋、飯塚裕美、黒田宏美
授業概要	コンサルテーションの基本概念、タイプ、プロセス等を学び、高度実践看護師の役割機能の一つであるコンサルテーションの方法について、さまざまな専門領域のコンサルテーションに応用できる技能を獲得する。
到達目標	1．高度実践看護師が実施するコンサルテーションの基本概念、タイプ、プロセス等について学び、実践への応用のための基本的技能を習得する。 2．さまざまな専門領域のコンサルテーションの事例を検討することを通して、それぞれの専門領域のコンサルテーションの特徴を把握するとともに、具体的展開方法について学ぶ。 3．組織変革のための管理的コンサルテーションの実際について学ぶ。 4．実際にコンサルテーションを模擬的に実施し、体験から学ぶ。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1-2	コンサルテーションの基本概念、タイプ、プロセスについて講義とディスカッションを通して理解を深める	田中
3-4	がん看護におけるコンサルテーション事例(診断・治療期にあるがん患者)を検討し、その特徴と具体的展開方法について学ぶ	黒田
5-6	がん看護におけるコンサルテーション事例(再発・終末期にあるがん患者)を検討し、その特徴と具体的展開方法について学ぶ	千葉
7-8	クリティカルケアにおけるコンサルテーション事例を検討し、その特徴と具体的展開方法について学ぶ	飯塚
9-10	精神科におけるコンサルテーション事例を検討し、その特徴と具体的展開方法について学ぶ	松谷
11-12	リエゾン精神看護におけるコンサルテーション事例を検討し、その特徴と具体的展開方法について学ぶ	松谷
13	組織変革のための管理的コンサルテーションについて、病院組織での組織変革と、地域組織での組織変革の事例を通して学ぶ	中島
14	組織変革のための管理的コンサルテーションについて、病院組織での組織変革と、地域組織での組織変革の事例を通して学ぶ	中島
15	コンサルテーションを模擬的に実施し、体験から学ぶ。	田中

教科書	特に指定せず。
参考書	Hamric,A.B., Hanson, C.H., Tracy, M.F.et.al　中村美鈴、江川幸二監訳：高度実践看護　統合的アプローチ、ヘルス出版、2017. 宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009. 野末聖香編：リエゾン精神看護－患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版、2004.
評価方法・基準	講義および討議への参加度30％(1時間程度)、レポート70％とし、総合的に評価する(2時間程度)。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと(1時間程度)。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること(2時間程度)。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護教育論	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	大野知代、休波茂子、有家香、安田友惠
授業概要	看護実践の場で教育を担う看護職者が、その教育的機能と役割を果たすために必要な知識や技術を学ぶ。看護教育制度の課題、人材育成における課題、現任教育における課題と展望について探求する。
到達目標	1．わが国の看護教育制度の課題について説明できる。 2．人材育成における課題について説明できる。 3．看護職者の特性と学習ニードに応じた現任教育について考案できる。 4．現任教育における課題と展望について提案し討議できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	看護学教育のなかの看護継続教育の位置づけ	大野・休波
2	わが国の看護教育制度と諸外国の看護教育制度(1)	大野
3	わが国の看護教育制度と諸外国の看護教育制度(2)	大野
4	事例検討(1)：わが国の看護教育制度の課題	大野・休波
5	看護教育と看護継続教育	休波
6	看護継続教育に活用できる学習理論	休波
7	新卒看護師の教育の現状と課題	有家
8	中堅看護師の教育現状と課題	有家
9	中・高年看護師の教育の現状と課題	休波
10	事例検討(2)：人材育成における課題：看護継続教育の課題	休波・有家
11	現任教育における教育の展開(1)　講義(計画・実施・評価のプロセス)	安田
12	現任教育における教育の展開(2)　演習 所属する施設内教育(OJT と Off-JT)の問題と解決策を検討	有家・休波
13	現任教育における教育の展開(3)　演習 所属する施設内教育(OJT と Off-JT)に対応した研修案を作成	有家・休波
14	現任教育における教育の展開(4)　発表・討議	有家・休波
15	事例検討(3)：現任教育における課題と展望	休波・有家・大野

教科書	なし
参考書	舟島なをみ監修(2011)．院内教育プログラムの立案・実施・評価、医学書院 P.ベナー他(2010)／草野 ZITO 真佐子訳(2011)．ベナー　ナースを育てる、医学書院
評価方法･基準	プレゼンテーション(30%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(50%)から総合的に評価する。
事前･事後学習	事前学習：課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと 看護基礎教育と継続教育における自己の課題を明確にして臨むこと 事後学習：講義やディスカッションで得た学びを振り返っておくこと
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護倫理	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	足立智孝、岡本明美、長江弘子、中島洋一、吉野妙子、下睦子
授業概要	看護実践の中で看護職が日常的に直面している倫理的問題及び葛藤について明確化し、それについて関係者間で倫理的調整を行なうための基盤的知識を習得する。授業では、原則に基づくアプローチ、系統的手順に基づくアプローチ、ナラティヴ・アプローチについて、具体的な事例をもとに学ぶ。
到達目標	1．倫理への接近法として、原則に基づくアプローチ、系統的なアプローチ、ナラティヴ・アプローチを理解する。 2．倫理的問題を分析するための基本的概念や原則について理解する。 3．各看護学領域における倫理的諸課題を理解する。 4．臨床における諸問題について、倫理的に推論し分析することができる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	看護倫理総論	足立
2	倫理理論各論：功利主義、義務論、徳倫理	足立
3	看護倫理の方法論１：原則論と物語論、手順論	足立
4	看護倫理の方法論２：まとめ	足立
5	看護倫理の基本的概念：ケアリングとアドボカシー	足立
6	倫理的意思決定：AD, ACP, SDM	足立
7	ウィメンズ看護学領域における倫理的問題	下
8	小児看護学領域における倫理的問題	吉野
9	成人看護学領域における倫理的問題	岡本
10	老年看護学領域における倫理的問題	長江
11	精神看護学領域における倫理的問題	中島
12	看護実践で遭遇した倫理的問題の検討１(事例ライティングとワーク)	足立
13	看護実践で遭遇した倫理的問題の検討２(事例ライティングとワーク)	足立
14	看護実践で遭遇した倫理的問題の検討３(事例発表と討議)	足立
15	看護実践で遭遇した倫理的問題の検討４(事例発表と討議)	足立

教科書	特に指定しない
参考書	宮坂道夫『医療倫理学の方法　第３版』(2016)フライ、ジョンストン『看護実践の倫理第３版』(2010)、清水哲郎監修『看護倫理実践事例46』(2014)トム・L・ビーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス『生命医学倫理』(2009)
評価方法・基準	事例検討課題(70%)、授業内発表および討論への参加(30%)により評価する。
事前・事後学習	事前学習：課題に関連する文献を熟読し理解を深めておくこと 看護基礎教育と継続教育における自己の課題を明確にして臨むこと 事後学習：講義やディスカッションで得た学びを振り返ること
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
医療人間学	1	後期	2	講義30時間

担当教員	足立智孝
授業概要	医療・看護・福祉領域が、総合的で全体的な人間観を要請するようになり、人間をめぐる基本的問題、すなわち人間とは何か、人間はどのように理解されるべきか、人間の抱える苦悩とは何か、人間らしい医療のあり方とは何か、生と死をめぐる諸問題への正しい答えはあるのか等、具体的な問いへの人間学的な取り組みが改めて求められている。この講義では、文学の立場からの「ナラティヴ」を通じた人間理解について修得する。
到達目標	1．医療ナラティヴについて説明できる 2．病者の抱える諸問題について人間学的に理解できる。 3．人間の生と苦悩の多様なあり様を理解できる。 4．医療者としての自己を人間学的に省察できる。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容 1　イントロダクション―なぜ看護で人間学を学ぶのか 2　ナラティヴ・アプローチとは何か 3　メディカル・ナラティヴとは何か1 4　メディカル・ナラティヴとは何か2：田嶋華子の場合 5　病者になるとは1：柳澤桂子の場合 6　病者になるとは2：多田富雄の場合 7　病者になるとは3：照川貞喜の場合 8　中間課題発表―ケース・プレゼンテーション 9　苦悩をもつとは1：福島智の場合 10　苦悩をもつとは2：フランクルの場合 11　死に向かうとは1：トルストイの場合 12　死に向かうとは2：キュブラー＝ロスの場合 13　死に向かうとは3：岸本英夫の場合 14　人生ナラティブの作成とケア 15　期末課題発表
教科書	柳澤桂子『認められぬ病』、多田富雄『寡黙なる巨人』、V.E.フランクル『夜と霧』、トルストイ『イワン・イリイチの死』、岸本英夫『死を見つめる心』
参考書	アーサー・クラインマン『病いの語り』、ジョイス・トラベルビー『人間対人間の看護』、野口裕二『物語としてのケア』
評価方法・基準	中間課題：ケース・プレゼンテーション(40%)、期末課題(40%)、教科書レポートおよび討議への参加状況(20%)
事前・事後学習	事前学習：各回に配布する資料あるいは教科書を指示するので事前に準備する(90分)。 事後学習：授業内容の振り返りをする(60分)。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
医療統計学	1	後期	2	講義30時間

担当教員	桝本輝樹
授業概要	医療における量的研究の内容理解と研究計画に求められる知識の修得をはかる。
到達目標	1．医療における研究のデザインを理解する。 2．基本的な統計処理方法を理解する。 3．研究目的に応じた適切な研究デザインを選択できる。 4．研究論文に用いるサンプルサイズ、尺度の信頼性・妥当性、データ分析方法を理解する。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容 1　量的研究と統計学 2　医療における研究の始め方 3　研究デザイン 4　記述統計(平均値、中央値、標準偏差) 5　仮説検定の考え方 6　治療効果・曝露効果の指標と95%信頼区間 7　２群の比較 8　ノンパラメトリック検定 9　分散分析 10　相関と回帰分析 11　ロジスティック回帰 12　サンプルサイズ設計 13　多変量検定 14　テキストマイニング 15　評価尺度の信頼性と妥当性
教科書	指定しない。適宜印刷物を配布する。
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価方法･基準	講義回ごとの演習と講義の参加度(60%)、最終レポート(40%)で評価する
事前･事後学習	既習内容をふまえた講義となるので、講義ごとの演習時に自分の理解度のチェックと復習を行うこと。目安として２時間程度を想定している。 最終レポートとして扱う内容は、予定する研究テーマをふまえ、研究計画書の解析部分に相当する部分とする。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
フィジカルアセスメント	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、川上裕子、松本幸枝、千葉恵子、中島洋一、路璐
授業概要	複雑な健康問題を持った対象者の健康状態を包括的に判断するために必要なフィジカルアセスメントの知識と方法を学ぶ。
到達目標	1．看護に必要なフィジカルアセスメントの視点について説明できる。 2．臨床判断に必要なフィジカルエグザミネーションが実施できる。 3．複雑な健康問題を有する臨床事例の身体面・精神面で生じている状態の解釈ならびに必要なケアについて判断できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	フィジカルアセスメントの理解、フィジカルアセスメントとフィジカルエグザミネーション、フィジカルアセスメントと看護フィジカルアセスメントの基本技術(問診、視診、触診、聴診、打診)に関する講義	岡本
2	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント1 呼吸器疾患のフィジカルイグザミネーションに関する講義・技術演習	松本
3	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント2 呼吸系の症状に対応した診察の進め方、異常所見と病態についての発表・討議	松本
4	循環器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント1 循環器疾患のフィジカルイグザミネーションに関する講義・技術演習	松本
5	呼吸器系・循環器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント2 循環器系の症状に対応した診察の進め方、異常所見と病態についての発表・討議	松本
6	消化器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント1 消化器疾患のフィジカルイグザミネーションに関する講義・技術演習	岡本・路
7	消化器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント2 消化器系の症状に対応した診察の進め方、異常所見と病態についての発表・討議	岡本・路
8	脳・神経系、感覚器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 脳・神経系、感覚器系疾患のフィジカルイグザミネーションに関する講義・技術演習	松本
9	腎臓・泌尿器系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 腎臓・泌尿器系疾患のフィジカルイグザミネーションに関する講義・技術演習	松本
10	筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント1 筋・骨格系疾患のフィジカルイグザミネーションに関する講義・技術演習	千葉
11	筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント2 筋・骨格系の症状に対応した診察の進め方、異常所見と病態についての発表・討議、 筋・骨格系の症状に対応した診察の進め方、異常所見と病態に関する発表・討議	千葉
12	乳房・腋窩のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 乳房・腋窩のフィジカルイグザミネーションに関する講義・技術演習	千葉
13	代謝・内分泌系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 腎臓・泌尿器系疾患のフィジカルイグザミネーションに関する講義・技術演習	千葉
14	高齢者のフィジカルアセスメント 加齢による身体的・心理的変化をふまえたフィジカルイグザミネーションに関する講義	川上
15	精神状態のアセスメント 精神状態の症状に対応した診察の進め方、特に精神疾患と身体状態の診察に関する討議	中島

教科書	特になし
参考書	Bickley, LS(著)、有岡宏子、井部俊子、山内豊明(監訳)(2022)：ベイツ診療法(第3版)、メディカル・サイエンス・インターナショナル 山内豊明(2011)：フィジカルアセスメントガイドブック(第2版)、医学書院 医療情報科学研究所(編集)(2019)：看護がみえる vol.3　フィジカルアセスメント、メディックメディア
評価方法・基準	各授業におけるプレゼンテーション(60%)とディスカッションへの参加状況(40%)で評価する。
事前・事後学習	事前学習：下記の DVD の中から授業内容に該当する巻を視聴して講義に臨む。山内豊明(2005)：山内豊明教授のフィジカルアセスメント(全10巻) 事後学習：疑問点を整理し、参考書等で調べることにより理解を深める。
備考	基本的なフィジカルイグザミネーションについては自己学習を行う。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
病態生理学	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、橋本裕二、亀田俊明、金子教宏、仲地健一郎、白鳥俊康、桝澤政広、竹内正美、小原まみ子、細川直登、宮地康僚、関根龍一、安藤哲朗、六反田諒、髙野海哉
授業概要	主に内科的な疾患を系統的に当該領域の専門医師から学習する。主要な疾患の症状や病態生理、治療目的・手段を理解することで、様々な疾患の病態やその評価に基づく臨床看護判断力、適切な治療介入を選択する能力を養う。
到達目標	高度な看護実践をおこなうためには対象者の複雑な健康状態、予後を正確に把握する必要があり、このために必要な比較的頻度の高い内科的疾患、病態に焦点を当て、症状や病態生理を当該疾患の専門医から系統的に学ぶ。さらに医学的のみならず社会的・倫理的に求められる治療目的や治療方法を学習し、臨床上の高い理解力と判断力を身につける。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	看護に活かす解剖生理と病態の知識	髙野
2	呼吸器系疾患の病態生理と診断・治療	金子
3	循環器系疾患の病態生理と診断・治療 心不全、不整脈、冠動脈疾患、高血圧	橋本
4	消化器系疾患の病態生理と診断・治療 消化管	仲地
5	消化器系疾患の病態生理と診断・治療 肝・胆・膵臓	白鳥
6	内分泌疾患の病態生理と診断・治療	桝澤
7	代謝疾患の病態生理と診断・治療	亀田
8	血液・造血器疾患の病態生理と診断・治療	竹内
9	腎尿路系疾患の病態生理と診断・治療	小原
10	神経系疾患の病態生理と診断・治療	安藤
11	感染症、寄生虫疾患の病態生理と診断・治療	細川
12	リウマチ性疾患、アレルギー疾患、免疫不全の病態生理と診断・治療	六反田
13	悪性新生物の病態生理と診断・治療	宮地
14	緩和医療	関根
15	看護の視点からみた事例検討	岡本

教科書	特になし
参考書	福井次矢(監修)(2017)：ハリソン内科学第５版、メディカル・サイエンス・インターナショナル 矢崎義男他(編集)(2022)：内科学第12版、朝倉書店
評価方法･基準	事例検討での質疑応答及び課題レポートにより総合的に判定する。
事前･事後学習	各講師が事前に提示する資料を予習する。学び取った知識を事例検討、課題レポートに反映させ、必要に応じて自ら文献検索を行い、文献的検討も行う。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
ケアシステム論	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	鶴岡章子、田中美恵子、大野知代、岡本明美、栗栖千幸、川上裕子、松丸直美
授業概要	地域における包括的ケアを実現するための原理と基本的考え方を学び、既存の事例について分析・考察する。また、実際に必要と考えられる状況について、システム構築をシュミレーションしてみる。それらを通して、その事例の課題と今後の展開について、継続的・実効的な活動になるための検討を行う。
到達目標	1．地域包括ケアシステム構築に必要な基本的知識・理論を習得する。 2．地域におけるケアコーディネーターとして、保健医療福祉関連職の専門性に基づき、調整・統合を行い、組織的にケア提供システムを機能させる概念や仕組みを理解できる。 3．地域包括ケアシステムとしての地域資源のデザイン・活用・開発ができる。 4．地域包括ケアシステムの質向上に必要な政策等について提言できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	地域包括ケアシステムの構成要素と基本理念や概念の理解	鶴岡
2	地域包括ケアシステムの構築・評価過程	鶴岡
3	地域包括支援センター・地域ケア会議の運営と評価	鶴岡
4	モデル地域にみる地域包括ケアシステムと課題	鶴岡
5	地域包括ケアシステムの展開と課題：高齢者ケア	川上
6	地域包括ケアシステムの展開と課題：成人慢性疾患患者のケア	岡本
7	地域包括ケアシステムの展開と課題：精神疾患患者のケア	田中・松丸
8	地域包括ケアシステムの展開と課題：小児慢性疾患患者のケア	大野
9	地域包括ケアシステムの展開：母子のケア	大野
10	地域包括ケアシステムの展開：事業所・学校におけるケア	川上
11	地域包括ケアシステムの展開と課題：在宅療養患者のケア	栗栖
12	事例検討：地域包括ケアシステムの展開と課題	栗栖
13	事例検討：地域包括ケアシステムの展開と課題	栗栖
14	課題：地域包括ケアシステムに関する研究の動向	栗栖
15	発表：地域包括ケアシステムに関する研究の動向	栗栖

教科書	特に指定しない。
参考書	毎回の授業で、次回授業のテーマに沿って提示する。
評価方法・基準	授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(40%) 各学生の専門領域における地域ケア課題のレポート内容を基に成績を評価する(60%)
事前・事後学習	事前学習：事前に提示する課題・資料等を予習して授業に臨む。また、各単元の事前学習を行い意見交換ができるようしておく。 事後学習：授業での学習内容を自己学習により深め、課題レポートに反映させる。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護管理論	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	休波茂子、栗栖千幸、渡邉八重子
授業概要	看護管理とその歴史的背景や看護管理に必要な知識体系について広く概観し、看護組織における組織文化とリーダーシップについて課題と対策について探求する。またリスクマネジメントと医療安全の取り組み、看護の質保証とその評価について学び、保健医療福祉施設に携わる多職種と調整について学びを深める。看護管理と経営についての理解を深め、看護組織における経営上の問題について探求する。
到達目標	1．看護管理と歴史的背景について説明できる。 2．看護サービスと質保証及び評価について説明できる。 3．リスクマネジメントと医療安全の取り組みについて説明できる。 4．組織文化と組織理念、組織分析の方法について説明できる。 5．看護組織におけるリーダーシップの課題と対策について提案できる。 6．保健医療福祉施設に携わる多職種との調整のあり方について理解する。 7．看護組織における経営上の課題と対策について提案できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	看護管理とは、看護管理の歴史的背景	休波
2	看護サービスと看護政策、看護制度と法	渡邉
3	リスクマネジメントと医療安全の取り組み	休波
4	看護の質保証とその評価	渡邉
5	組織文化とは、組織文化と組織理念	渡邉
6	組織文化とマネジメント　―組織分析の方法―	渡邉
7	看護組織におけるリーダーシップ	渡邉
8	事例検討：看護組織におけるリーダーシップの課題と対策	渡邉・休波
9	保健医療福祉施設におけるチーム医療と多職種との調整	休波
10	保健医療福祉施設における役割拡大と多職種との調整	休波
11	事例検討(1)：自施設における多職種との調整の現状と問題	休波
12	看護管理と経営：病院経営と財務環境	栗栖
13	看護管理と経営：財務諸表の見かた、指標分析と活用	栗栖
14	看護管理と経営：原価計算、バランススコアカード(BSC)	栗栖
15	看護組織における経営上の課題	栗栖

教科書	特になし。必要に応じて提示する。
参考書	参考文献は随時提示する。
評価方法・基準	プレゼンテーション(30%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(50%)から総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：各授業の内容についての関連文献を読み討議ができるようにして臨むこと。 事後学習：終了後に学びを整理しまとめておくこと。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
臨床薬理学	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	舟越亮寛、千葉恵子、北原加奈之、鈴木正論
授業概要	対象者の健康問題に応じた薬物治療について、薬剤動態を理解したうえで、薬剤使用の判断、作用・副作用の観察を含め投薬後のモニタリング、生活調整、回復力の促進、対象者の服薬管理能力の向上へ向けた看護援助等の観点から学び、薬物療法を受ける対象者への高度な看護実践のための知識と技術を修得する。
到達目標	1．薬物の動態、作用・副作用・相互作用を説明でき、薬剤使用の判断とモニタリングに活かすことができる。 2．薬物治療に伴う生活調整、回復力の促進のための援助など、生活の視点から、薬物療法を受ける患者への看護援助について理解を深める。 3．服薬管理能力の向上へ向けた看護援助に関する知識と技術を修得する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	薬理学総論、薬物の動態、健康問題に応じた薬剤使用の判断、作用・副作用、相互作用とモニタリング	舟越
2	呼吸器系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原
3	消化器系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原
4	循環器系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原
5	内分泌系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原
6	中枢神経系に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原
7	腎・泌尿器に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原
8	免疫系・感染症に作用する薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原
9	抗がん剤と化学療法と生活調整の特徴	鈴木・北原
10	緊急・応急処置に用いられる薬剤と生活調整の特徴	鈴木・北原
11	小児期患者と高齢患者への薬物療法と生活調整の特徴	鈴木・北原
12	周産期医療の薬物療法と生活調整の特徴	鈴木・北原
13	精神疾患患者への薬物療法と生活調整の特徴	鈴木・北原
14	【事例検討】薬物療法を受ける対象者への看護 薬物療法における高度実践看護師の役割	千葉
15	【事例検討】薬物療法を受ける対象者への看護 薬物療法における高度実践看護師の役割	千葉

教科書	なし
参考書	丸山敬(2018)：FLASH 薬理学、羊土社. 高久史麿、矢崎義雄(2020)：治療薬マニュアル2020、医学書院 田中千賀子、加藤隆一(編)(2017)：NEW 薬理学(改訂第7版)、南江堂 吉尾隆他(2019)：薬物治療学、南山堂.
評価方法・基準	授業の参加状況(50%)と課題レポート(事例)(50%)で評価する。
事前・事後学習	事前に提示する課題・資料を予習して授業に臨む。 事後学習として、授業での学習内容を自己学習で深め、課題レポートに反映させる。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護管理学特論Ⅰ（看護組織論）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	休波茂子、足立智孝
授業概要	看護組織を理解するうえで必要な組織マネジメント、組織文化、リーダーシップについて理解を深める。さらに、看護組織における倫理のあり方について考察する。
到達目標	1．マネジメントの概念と関連理論について説明できる。 2．看護組織におけるマネジメントの必要性について説明できる。 3．リーダーシップの概念や諸理論ついて説明できる。 4．看護組織における倫理のあり方について説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	組織とマネジメント マネジメントの概念と理論、組織開発の理論と実際	休波
2	ドラッカーのマネジメント論(1)	休波
3	ドラッカーのマネジメント論(2)	休波
4	事例検討(1)：「看護組織におけるマネジメント」についての課題	休波
5	マネジメントとリーダーシップ	休波
6	組織文化とリーダーシップ：リーダーシップ理論(1)	休波
7	組織文化とリーダーシップ：リーダーシップ理論(2)	休波
8	リーダーシップに関する研究の動向	休波
9	看護倫理とは何か：その倫理的視座・倫理的問題	足立
10	看護管理者の役割と倫理的リーダーシップ	足立
11	意思決定について：個人的意思決定プロセスモデル	足立
12	看護管理者の倫理的意思決定プロセスモデル	足立
13	組織倫理に関する研究の動向(1)	足立
14	組織倫理に関する研究の動向(2)	足立
15	事例検討(2)：意思決定プロセスモデルの活用	足立

教科書	・Peter F.Drucker／上田惇生訳(2006)．エッセンシャル版　マネジメント　基本と原則、ダイヤモンド社
参考書	・Peter F.Drucker／上田惇生訳(2006)．現代の経営 上・中・下、ダイヤモンド社 ・Stephen P.Robbins／高木晴夫訳(2004)．組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社 ・勝原裕美子(2016).組織で生きる：意志決定プロセスモデルの活用、医学書院
評価方法・基準	プレゼンテーション(30%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(50%)の内容から総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。 事後学習：各単元の終了後に学びを整理しまとめておくこと。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護管理学特論Ⅱ（人材育成と活用）	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	休波茂子、有家香、鵜沢淳子
授業概要	看護組織におけるキャリア特性、人材の育成と活用、継続教育について学び、看護組織における人材育成と活用の現状と課題について考察し、さらに、人材育成計画のあり方を探究する。
到達目標	1．キャリア特性やキャリア開発について説明できる。 2．キャリア理論に関する諸理論から人材育について説明できる。 3．人材育成の方法としての継続教育のあり方について説明できる。 4．人材育成に関連する研究の動向について説明できる。 5．人材の育成と活用、その現状と課題について説明できる
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	事前課題発表	休波
2	看護専門職とは 専門職としてのキャリアとは	休波
3	キャリア理論(1)(2)	休波
4	キャリア理論(3)(4)	休波
5	事例検討(1)：キャリア支援における課題 キャリアに関する研究疑問	休波
6	人材育成と継続教育	有家
7	継続教育における研究の動向	有家
8	事例検討(2)：自施設の人材育成における継続教育の課題 継続教育における研究疑問	有家・休波・鵜沢
9	人材育成と人間関係に関する理論	休波
10	人材育成とモチベーション、自己効力感	鵜沢
11	人材育成と必要なストレスマネジメント	鵜沢
12	人材育成に必要な概念の探求(1)	休波
13	人材育成に必要な概念の探求(2)	休波
14	人材育成に関する研究の動向	有家
15	事例検討(3)：我が国における人材育成における課題 人材育成に関する研究疑問	休波・有家・鵜沢

教科書	特になし
参考書	・E.H.Schein ／三善勝代ほか監訳(1991)．キャリアダイナミック、白桃書房 ・渡辺三枝子編(2018)．キャリアの心理学第２版、ナカニシア出版
評価方法･基準	プレゼンテーション(30%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(50%)の内容から総合的に評価する。
事前･事後学習	事前学習：各単元の事前学習を行い討議ができるようにして臨むこと。 事後学習：各単元の終了後に学びを整理し研究的視点でまとめておくこと。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護管理学特論Ⅲ（安全管理学）	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	休波茂子、渡邉八重子
授業概要	医療における安全管理に関わる基礎的理解を深め、現在の医療システムに関わる医療事故の問題と課題を明確にし、看護におけるセーフティマネジメントと医療事故防止について追求する。医療安全教育の問題と課題を明確にし、対策を論じる。
到達目標	1．看護技術のもつ特殊性から事故のリスクについて説明できる。 2．安全管理における国の資源、取り組み、また法規の実際の影響について分析し、説明できる。 3．事故発生のメカニズムについて説明できる。 4．事故の予防及び再発防止に必要な分析手法や戦略について説明できる。 5．事故発生の背景・要因について分析し、改善策を提案できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	安全管理に関する社会の注目と拡大	休波
2	看護技術のもつ特殊性と事故(1)	休波
3	看護技術のもつ特殊性と事故(2)　グループ討議	休波
4	看護技術のもつ特殊性と事故(3)　発表	休波
5	安全マネジメント	渡邉
6	事故発生メカニズム、事故分析方法	渡邉
7	事故分析方法の使い方や特徴(1)	渡邉
8	事故分析方法の使い方や特徴(2)　発表	渡邉
9	技術事故・ヒューマンエラー・組織事故	渡邉
10	組織の安全文化と安全文化の醸成	渡邉
11	国の安全管理における取り組みと法規	渡邉
12	米国看護大学の質と安全教育（QSEN）	渡邉
13	事例検討：医療事故の分析と改善策	渡邉・休波
14	医療安全に関する研究の動向(1)	休波
15	医療安全に関する研究の動向(2)　発表	休波

教科書	特になし
参考書	・J.Reason ／塩見弘監訳（1999）．組織事故、日科技連 ・IOM（1999）．人は誰でも間違える（IOM 医療の質シリーズ各報告書） ・AHRQ（2005）．Team STEPPS
評価方法・基準	プレゼンテーション（30％）、討議への参加度（20％）、課題レポート（50％）の内容から総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：各単元に必要な文献を入手し事前学習を行い発表や討議ができるようにして臨むこと。 事後学習：各単元の終了後に学びを整理し実践に応用できるよう検討すること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護管理学演習	2	前期	2	演習 60時間

担当教員	休波茂子、足立智孝
授業概要	学習した理論や概念を用いて組織と看護管理の課題を分析することにより管理者としての能力を養う。
到達目標	1．保健、医療、福祉における看護管理に関するテーマを選択し、組織の課題を分析し、説明することができる。 2．看護管理の文献から現状や課題を分析的・批判的に考察することにより、説明することができる。 3．看護管理に関する課題を明らかにしたうえで、各自の研究疑問から研究課題を明確にすることができる
履修条件	看護管理論、看護管理学特論Ⅰ・Ⅱを履修していること
授業計画	回　内容　担当教員 1-2　看護管理全般における問題と課題　休波・足立 3-4　関心ある看護管理領域の文献のクリティーク　組織文化とリーダーシップに関する研究　休波・足立 5-6　関心ある看護管理領域の文献のクリティーク　看護師のキャリア、看護継続教育に関する研究　休波・足立 7-8　関心ある看護管理領域の文献のクリティーク　看護組織における倫理に関する研究　足立・休波 9-20　フィールドワーク　休波・足立 1．以下のテーマから選択し看護組織における問題の分析、課題と解決策の提案 1)人的資源管理 2)看護継続教育 3)組織文化とリーダーシップ 4)組織倫理 2．各自の研究課題の明確化 3．課題学習 21-22　発表　足立・休波 23-28　研究計画書の作成(研究疑問、研究の動機、文献検討)　足立・休波 29-30　発表　休波・足立
教科書	特になし
参考書	特になし
評価方法・基準	プレゼンテーション(40%)、討議への参加度(20%)、課題レポート(40%)の内容から総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：フィールドワークに臨むために課題を明確にする。 事前に関心のある看護管理に関する文献のクリティークを行い演習に臨む。 事後学習：演習での学びを研究的視点でまとめ、各自の研究的課題を見出すための資料とする。
備考	フィールドワークは、これまで特論Ⅰ～Ⅲにより明らかになった各自の課題に対して対策を提案し実施・評価する。自施設(所属部署)でのフィルードワークとする。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
看護管理学特別研究	1・2	後期・通年	8	演習 240時間

(概要)
看護管理学の特論・演習で学習した知識の活用や文献検討を踏まえて研究課題を設定し、修士論文を作成する。

(休波茂子)
看護管理と安全管理に関する研究指導を行う。

(足立智孝)
看護組織における倫理に関する研究指導を行う。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
実践看護学特論Ⅰ（成人看護）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、青山美紀子、千葉恵子、松本幸枝
授業概要	慢性的な健康問題のある青年期～高齢期にある人とその家族を看護の対象と捉え、健康問題の予防、発症期、安定期、終末期における身体的、心理社会的側面を理解し、慢性看護を支える理論と慢性看護で用いられる研究方法やその視点について修得する。
到達目標	1．慢性的な健康問題をもつ人と家族をとりまく社会状況と問題の多様性を説明できる。 2．慢性的健康問題の発症から終末期に至るまでの看護に関する理論を修得し実践への適用について議論できる。 3．慢性的健康問題のある人と家族への看護に関連する研究の方法や視点について説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	慢性疾患を持つ人と家族を取り巻く社会情勢と問題	岡本
2	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本
3	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本
4	セルフケア理論の理解と活用	岡本
5	セルフケア理論の理解と活用	岡本
6	自己効力感の理解と活用	岡本
7	自己効力感の理解と活用	岡本
8	慢性疾患を持つ人と家族への看護	千葉
9	慢性疾患を持つ人と家族への看護	千葉
10	終末期にある人と家族への看護	千葉
11	終末期にある人と家族への看護	千葉
12	慢性疾患が急性増悪した人と家族への看護	松本
13	慢性疾患が急性増悪した人と家族への看護	松本
14	回復期リハビリテーションにおける看護	青山
15	認知症のある人と家族への看護	青山

教科書	特になし
参考書	野川道子：看護実践に活かす中範囲理論第３版、メジカルフレンド社、2023.
評価方法・基準	プレゼンテーション(60%)、討議の参加状況(40%)で評価する。
事前・事後学習	事前学習：毎回の授業で、次回授業の事前学習課題を提示する。各自課題に取り組み、プレゼンテーション用資料を作成する。 事後学習：疑問点を整理し、参考書等で調べることにより理解を深める。また、看護実践への適用について検討する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
実践看護学特論Ⅱ（精神保健看護）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一、下睦子、松丸直美、松谷典洋
授業概要	精神健康に問題を抱える人々と家族を包括的に評価・アセスメントする視点と方法、および看護実践の質向上に向けた看護援助に関する知識と技法の開発に資する理論と研究方法の修得をはかる。
到達目標	1．世界および日本における精神保健問題と施策の動向について説明できる。 2．精神疾患の体系と精神保健問題の概要について理解できる。 3．精神健康に問題をもつ人の評価・アセスメント方法を説明できる。 4．援助関係の形成技法を説明できる。 5．精神科薬物療法の基本を理解できる。 6．様々な精神保健問題について理解できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	世界および日本における精神保健問題と施策の動向	田中・松丸
2	精神疾患の疾患体系と精神保健問題	田中
3	主要精神疾患の理解	田中
4	精神機能の評価とアセスメント（MSE）	田中
5	援助関係の形成技法 （観察と面接、面接者の態度と感性、来談者中心療法）	田中
6	援助関係の形成技法（精神分析療法、認知行動療法、集団精神療法）	田中
7	精神科薬物療法	中島
8	精神科リハビリテーション、訪問看護、当事者活動	田中・松丸
9	せん妄	松谷
10	物質依存	中島
11	自殺防止	田中
12	周産期メンタルヘルス	下
13	子どものメンタルヘルス	松丸
14	災害とメンタルヘルス	田中
15	精神障害者のための地域包括ケアと多職種連携	田中・松丸

教科書	特になし
参考書	授業時に紹介
評価方法・基準	課題レポート（60％）と口頭発表（40％）に基づき、各自の専門分野においてこれまでに経験した精神保健問題について、事例分析をもとに評価し、看護の視点から課題を明確にできているかによって評価する。
事前・事後学習	事前学習：自分の専門分野における精神保健問題を明確に意識化しておく（1時間程度）。 事後学習：講義での学びを、実践に活かす方策について熟慮し、実践する（1時間程度）。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
実践看護学特論Ⅲ（小児看護）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	大野知代
授業概要	乳幼児期から思春期までの子どもと家族を理解するための理論をもとに、包括的なヘルスアセスメントと看護実践に求められる知識と研究について探求する。
到達目標	1．子どもへの看護に求められる諸理論を理解し説明できる。 2．子どもと家族を包括的に捉えるヘルスアセスメントのための方法と理論を修得できる。 3．保健・医療・福祉・教育の側面での小児看護のあり方を関連する研究を用いて討議できる。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容 1　小児をとりまく社会状況と健康課題に関する研究の動向 2　発達理論における基本的概念と方法 ①フロイトによる自我発達論 ②エリクソンによる漸成的発達理論 ③ピアジェによる思考発達理論 3　発達理論における基本的概念と方法 ①フロイトによる自我発達論 ②エリクソンによる漸成的発達理論 ③ピアジェによる思考発達理論 4　家族に関する諸理論と方法 5　乳幼児期の発達とヘルスアセスメントの理論と方法 6　学童期の発達とヘルスアセスメントの理論と方法 7　思春期の発達とヘルスアセスメントの理論と方法 8　急性的健康問題をもつ子どもと家族への看護と研究 9　慢性的健康問題をもつ子どもと家族への看護と研究 10　子どもの喪失と家族の悲嘆に関する研究 11　子どもの虐待（発達障害含む）および家族に関する研究 12　終末期にある子どもと家族への看護と関連する研究 13　地域社会における子どもの実態と地域包括支援のあり方 14　小児看護学の実践に伴う教育と指導に関する研究 15　討議：これからの小児看護と研究の方向性
教科書	特になし
参考書	授業内容に応じて、資料の配布および文献の紹介を行う。
評価方法・基準	課題レポート（50%）、討議の参加状況（30%）、口頭発表（20%）について評価する。
事前・事後学習	事前に提示する課題および資料・文献を予習して授業に臨む。さらに、提示された課題については準備をして発表すること。事後学習では、学習内容を次の授業および課題レポートにつながるよう自己学習を深める。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
実践看護学特論Ⅳ（在宅看護）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	栗栖千幸、佐々木真弓、吉野有美子、伊藤陽子、鈴木玲子
授業概要	健康問題のある在宅療養者と家族に対する看護支援の現状と課題を認識し、療養者と家族の在宅生活を支援する医療・福祉・教育機関と事業所における看護に関する知識と看護の質向上にむけた方策を、知識と関連する研究を用いて探究する。
到達目標	1．地域の様々な場で展開される看護実践を、主要概念・理論・モデルを用いて説明できる。 2．在宅療養者と家族を支える看護の質向上に向けた方策を討議できる。 3．地域看護学および在宅看護学に関する研究の動向を探求できる。
履修条件	
授業計画	

回	内容	担当教員
1	在宅療養者をとりまく社会状況	栗栖
2	在宅療養を支える法・制度	栗栖
3	在宅療養者と家族の包括的アセスメントの方法	栗栖
4	介護保険制度におけるケアマネージメント	栗栖
5	在宅療養者と家族を支える専門職連携	伊藤
6	在宅療養者と家族を支える看護実践	伊藤
7	長期透析患者の将来治療選択	鈴木
8	誤嚥性肺炎予防に焦点を当てた訪問看護実践	佐々木・鈴木
9	在宅療養者の権利擁護	栗栖
10	在宅看取りへの訪問看護	来栖
11	医療機関における退院支援の実際	吉野
12	在宅療養者と家族を支える看護管理と経営	栗栖
13	事例検討：在宅療養者と家族に関する支援への課題	栗栖・鈴木
14	課題：在宅療養者と家族に関する研究の動向	栗栖・鈴木
15	発表：在宅療養者と家族に関する研究の動向	栗栖・鈴木

教科書	なし
参考書	授業内容に応じて、資料の配布又は文献の紹介を行う。
評価方法・基準	討議への参加状況（30%）、課題レポート（50%）、口頭発表（20%）
事前・事後学習	事前に提示する課題・資料を予習して授業に臨む。 事後学習として、授業での学習内容を自己学習で深め、課題レポートに反映させる。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
実践看護学演習	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	栗栖千幸、大野知代、田中美惠子、岡本明美、中島洋一
授業概要	健康問題をもつ人と家族への看護実践の質向上をめざし、医療・福祉機関・事業所の学習者(職員)または看護教育機関にての学習者(学生)の教育・研修ニーズを包括的にアセスメントし、教育・研修計画を立案・実施・評価する。
到達目標	1．医療・福祉機関又は看護教育機関における対象者の学習ニーズを把握する。 2．学習ニーズに応じた教育・研修計画を立案・実施・評価する。 3．看護支援の質向上に向けた教育・研修について討議する。
履修条件	

授業計画

回	内容	担当教員
1	講義：医療・福祉・教育機関の学習ニーズ	栗栖
2	講義：教育・研修形態、技法、教材	栗栖
3	講義：教育・研修の評価	栗栖
4	演習：教育・研修準備の補助	栗栖・大野・田中 岡本・中島 (学生の選択領域において各領域の担当教員が実施する)
5	演習：教育・研修実施の見学	
6-9	演習：学習ニーズの把握・分析	
10-11	演習：教育・研修計画立案	
12-13	演習：教育・研修実施準備(教材作成など)	
14-15	演習：教育・研修の模擬実施	
16-17	演習：教育・研修の模擬実施の評価	
18-19	演習：教育・研修計画の修正と準備	
20-21	演習：教育・研修の実施	
22-23	演習：教育・研修の評価	
24-25	発表準備	
26-28	発表：医療・福祉・教育機関における教育・研修	
29-30	討議：健康問題をもつ人と家族への看護実践の質向上にむけた教育・研修	

教科書	なし
参考書	演習内容に応じ、文献・資料を紹介する。
評価方法・基準	学習ニーズ把握・分析(30%)、教育・研修計画立案・実施・評価(50%)、発表・討議への取り組み状況(20%)で評価する。
事前・事後学習	事前に、実践看護学特論で修得した知識を復習し、担当教員と演習を行う機関・事業所における対象者を相談しておく。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
実践看護学特別研究	1・2	後期・通年	8	演習 240時間

（概要）
自己の興味・関心のある健康問題に関する研究課題を見出し、主体的に文献検討、研究計画書および倫理審査申請書類作成に取組み、研究を実施し、修士論文を作成する。

（田中美恵子）
精神的な健康に関連した問題を抱え、医療・福祉機関において保健医療福祉的なサービスを受けている人、または精神的な問題を抱えながら適切な支援・サービスを受けていない人への看護的援助に関連する研究への取り組みについて指導を行う。

（岡本明美）
がん患者とその家族への援助、がん看護に関わる看護師の実践能力の向上など、がん看護領域における看護の質向上に寄与する研究指導を行う。

（栗栖千幸）
看護サービス実践が地域で医療提供をしている施設（病院、施設、訪問看護ステーション等）の経営に与える影響に関する研究指導を行う。

（大野知代）
子どものライフスタイルや健康を取り巻く環境（家庭、地域、学校等）の特性および実態に基づき、子どもの生涯を通じてのよりきめ細やかな健康課題と健康教育の看護的支援に関する研究指導を行う。

（鶴岡章子）
在宅療養者とその家族の QOL 維持・向上を目指す看護援助に関する研究指導を行う。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学特論Ⅰ（がん病態治療学）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、宮地康憭、草薙洋、立花由梨、関未来、庄司一寅、関根龍一、大上俊彦
授業概要	腫瘍の発生・進展、がんの診断に必要な種々の検査方法およびがんに対する最新治療や症状管理など、高度な臨床判断とがん看護実践の基盤となる医学的専門知識を深める。
到達目標	1．がんの罹患の動向やわが国のがん対策について説明できる。 2．がんの病態と診断、最新の治療法について説明できる。 3．がん治療における手術療法・薬物療法・放射線療法の治療戦略、有害事象のマネジメントについて説明できる。 4．がん・がん治療に伴う身体症状に対する緩和医療における臨床判断について説明できる。 5．がん治療に伴う心理社会的症状に対するサイコオンコロジーアプローチについて説明できる。
履修条件	特になし
授業計画	

回	内容	担当教員
1	がん看護における腫瘍学知識の活用 がん医療の動向と対策 がんの疫学、がん対策基本法、がん予防・がん検診	岡本
2－3	がんの病理学 がんの発生、がん遺伝子、がん細胞の増殖・分化 浸潤・転移、病理学的診断	立花・関
4－5	手術療法における最新の知見	草薙
6－7	がん薬物療法における最新の知見	宮地
8－9	放射線療法における最新の知見	庄司
10-11	がん・がん治療に伴う身体症状に対する緩和医療 がん性疼痛および身体症状に関する臨床判断プロセスと治療戦略、効果判定	関根
12-13	がん・がん治療に伴う心理社会的苦痛に対するサイコオンコロジー サイコオンコロジーとは、患者・家族の一般的な反応、不安・抑うつ等のアセスメントと治療的介入	大上
14-15	腫瘍の病態生理とがん治療に関する発表・討議 各自の興味関心に合わせて、消化器がん・乳がん・造血器腫瘍・肺がん・泌尿器がん・婦人科がん・骨軟部腫瘍・脳神経腫瘍・頭頸部がんのうち、２つの癌腫を選択し学習する。	岡本

教科書	特になし
参考書	佐藤隆美他編集：がん治療エッセンシャルガイド、第4版、南山堂、2019.
評価方法・基準	授業での討論内容(60%)、作成資料(20%)、プレゼンテーション(20%)を総合して評価する。
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行う。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学特論Ⅱ（がん看護理論）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子
授業概要	がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論についての理解を深め、実践への活用について探究する。
到達目標	1．がん患者とその家族を理解するための概念・理論について説明できる。 2．がん患者とその家族を理解するための概念・理論、最新の看護研究結果を用いて、看護実践について検討できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本
2	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本
3	危機理論の理解と活用－フィンクの危機理論	岡本
4	危機理論の理解と活用－フィンクの危機理論	岡本
5	危機理論の理解と活用－アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本
6	危機理論の理解と活用－アギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本
7	セルフケア理論の理解と活用	千葉
8	セルフケア理論の理解と活用	千葉
9	自己概念の理解と活用	千葉
10	自己概念の理解と活用	千葉
11	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉
12	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉
13	自己効力感の理解と活用	岡本
14	自己効力感の理解と活用	岡本
15	がん患者とその家族の個別の問題解決を図るための概念・理論の実践への適用する上での課題	岡本

教科書	なし
参考書	野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、第３版、メヂカルフレンド社、2023. 小島操子：看護における危機理論・危機介入　フィンク／コーン／アグィレラ／ムース／家族の危機モデルから学ぶ、第4版、金芳堂、2018.
評価方法･基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評価する。
事前･事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学特論Ⅲ（がん看護援助論）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子、宮津珠恵、黒田宏美、伊藤淳子
授業概要	がん診断期、治療期、再発期、終末期における患者とその家族の体験を理解し、高度な倫理観及び包括的アセスメントに基づいた看護介入について探究する。
到達目標	1．診断期・治療期・再発期・終末期においてがん患者が抱えるトータルペインについて説明できる。 2．がん治療を受ける患者とその家族の特徴と包括的アセスメント、看護実践について説明できる。 3．がんサバイバーの特徴とアセスメント、支援について説明できる。 4．がん看護における倫理的課題について理解し、がん患者への看護実践について検討できる。 5．がん看護専門看護師の役割および機能について理解し、自己の課題を明確にできる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1－2	がん患者が抱えるトータルペインと包括的アセスメント	岡本
3	がん患者の家族の特徴とアセスメント、看護介入	岡本
4－5	がん手術療法を受ける患者の特徴と術前、術後のアセスメント、看護介入、評価	宮津
6	がん放射線療法を受ける患者の特徴と治療前・中・後のアセスメント、看護介入、評価	岡本
7	がん放射線療法を受ける患者の特徴と有害事象へのセルフケア支援および評価	岡本
8	がん薬物療法を受ける患者の特徴と治療前・中・後のアセスメント、看護介入、評価	伊藤
9	がん薬物療法を受ける患者の特徴と有害事象へのセルフケア支援および評価	伊藤
10	がん患者と家族に対する意思決定支援	千葉
11	がん患者に対する療養支援・療養の場の選択と退院支援 退院調整と社会資源、地域医療連携	千葉
12	がん看護実践における倫理的課題と医療者への教育的アプローチ	千葉
13-14	がんサバイバーの特徴とアセスメント、がんサバイバーシップに基づく看護介入	岡本
15	がん看護専門看護師の役割および機能 ・専門看護師制度の目的、歴史的変遷 ・がんチーム医療におけるがん看護専門看護師の役割および機能	黒田

教科書	なし
参考書	大西和子他編集：がん看護学―臨床に活かすがん看護の基礎と実践、ヌーヴェルヒロカワ、2018.
評価方法・基準	授業への参加状況（20％）、作成資料（40％）、プレゼンテーション（40％）を総合して評価する。
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。
備考	宮津の講義は遠隔で実施する。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学特論Ⅳ（がん薬物療法看護論）	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、荻津佳奈江、吉岡多美子、濵道彩、深山直実、安室修、伊勢崎竜也、小倉宏之
授業概要	がん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法について探究する。また、がん薬物療法を継続することを支える援助方法について探究する。
到達目標	1．がん薬物療法を受ける患者の特徴、アセスメントおよび援助方法について説明できる。 2．がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象について説明できる。 3．がん薬物療法を受ける患者の療養生活を支援するための臨床判断ができる。 4．がん薬物療法の有害事象による日常生活への影響、ガイドライン、支持療法を理解し、有害事象に対する臨床診断方法や治療中の生活の質を高めるためのセルフケア能力を高めるための援助方法について討議する。
履修条件	特になし
授業計画	

回	内容	担当教員
1－2	がん薬物療法を受ける患者の特徴、アセスメント、看護目標、看護実践と評価	岡本
3	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：細胞障害性抗がん薬	安室
4	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：分子標的薬	安室
5	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：内分泌療法薬	伊勢崎
6	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：免疫チェックポイント阻害薬	小倉
7	外来通院しながらがん薬物療法を受ける患者の特徴と看護	吉岡
8	がん薬物療法を受ける肺がん患者の看護	岡本
9	がん薬物療法を受ける大腸がん患者の看護	岡本
10	がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護	岡本
11	がん薬物療法を受ける造血器腫瘍患者の看護	荻津
12-13	がん薬物療法における有害事象とセルフケア支援：骨髄抑制、消化器症状、末梢神経障害、皮膚障害	深山
14-15	がん薬物療法を受ける患者の治療継続を支える支援	濵道

教科書	なし
参考書	日本臨床腫瘍学会編集：新臨床腫瘍学－がん薬物療法専門医のために、第６版、2021.
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評価する。
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。
備考	荻津、吉岡の講義は遠隔で実施する。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学特論Ⅴ（がん緩和ケア論）	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子、黒田宏美、田中優子
授業概要	がん患者に生じやすい身体的苦痛の発生機序・病態を理解し、臨床判断に基づいた症状マネジメントについて探究する。また、緩和ケアを必要とするがん患者とその家族が抱える心理・社会的・霊的苦痛を理解し、それらを緩和するための包括的な看護介入について探究する。
到達目標	1．がん患者に見られる苦痛症状の発生機序、治療法について説明できる。 2．がん患者の抱える苦痛症状を緩和するための援助方法について説明できる。 3．緩和ケアにおけるコミュニケーションの問題の具体例を取り上げ、その解決方法について説明できる。 4．複雑な心理・社会・霊的問題を抱えるがん患者の具体例を取り上げ、その解決方法について説明できる。 5．がん患者の代替療法・補完療法について説明できる。 6．緩和ケアの臨床で利用可能なリソースの活用方法について説明できる。 7．がん患者のエンドオブライフケアおよび家族のグリーフケアについて説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	緩和ケアの概念と歴史的変遷	岡本
2	がんの症状マネジメント：がん性疼痛	千葉
3	がんの症状マネジメント：消化器症状	千葉
4	がんの症状マネジメント：呼吸器症状、呼吸困難等	千葉
5	がんの症状マネジメント：代謝・神経障害	黒田
6	がんの症状マネジメント：倦怠感	黒田
7	がんの症状マネジメント：皮膚障害	黒田
8	がんの症状マネジメント：症状緩和と鎮静	黒田
9	がんの代替療法・補完療法と看護	千葉
10	緩和ケアを必要とする患者・家族とのコミュニケーション	千葉
11	緩和ケアにおける心理社会的支援	田中
12	緩和ケアにおける心理社会的支援	田中
13	緩和ケアにおけるリソース活用方法	田中
14	緩和ケアにおけるリソース活用方法	田中
15	がん患者のエンドオブライフケア・家族のグリーフケア	黒田

教科書	なし
参考書	適宜紹介する。
評価方法・基準	授業への参加状況（20%）、作成資料（40%）、プレゼンテーション（40%）を総合して評価する。
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。
備考	田中の講義は遠隔で実施する。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学演習Ⅰ	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子、黒田宏美、荻津佳奈江
授業概要	がん薬物療法看護における様々な臨床上の問題について、エビデンスに基づいた看護が実践できるよう、文献を活用し看護実践を探究する力を養う。がん薬物療法を受ける患者に対する効果的な看護介入方法および高度な看護技術を習得すると共に、がん看護専門看護師の役割・機能について学修する。また、がんサバイバーへの支援方法を探究する。
到達目標	1．がん薬物療法看護における最新の知見や課題について説明できる。 2．がん薬物療法を受けるがん患者の抱える問題について、文献をクリティークできる。 3．文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について検討できる。 4．がん薬物療法を受ける患者に対する患者教育を計画・実施・評価できる。 5．がん薬物療法をサブスペシャリティに活動しているがん看護専門看護師の役割および役割開発を理解する。 6．がんサバイバーに対するグループサポートにおける看護の役割と今後の展望について考察する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1－3	がん薬物療法看護における最新の知見や課題	岡本
4－6	がん薬物療法を受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか 討議する。	岡本
7－10	がん薬物療法のうち、内分泌療法または分子標的薬による治療を 受けている患者が抱えている問題を解決するための看護介入 文献を整理し、発表・討議を行う。	岡本
11-15	がん薬物療法を受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討 各自の体験事例を用いて検討する	千葉
16-17	がん看護専門看護師の役割 がん薬物療法をサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の 活動の実際	荻津
18-24	がん薬物療法を受ける患者のセルフケア能力向上のための患者教育 亀田総合病院化学療法センターにおいて、がん薬物療法を受ける患 者を受け持ち、学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案し、 患者教育を行い、評価する。	黒田
25-30	乳がんサバイバーのサポートグループに参加し、がんサバイバーに 対する支援に関する看護の役割と今後の展望について考察する。	岡本

教科書	なし
参考書	適宜紹介する。
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、演習内容の分析(40%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。
備考	＊高度実践看護師コース(がん看護学)の学生のみ履修可。亀田総合病院、乳がんサポートグループでの演習日時・方法などについては、別途説明する。 ＊荻津の講義は遠隔で実施する。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学演習Ⅱ	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子、黒田宏美、吉岡多美子
授業概要	緩和ケアを受けるがん患者に対する様々な臨床上の問題について、エビデンスに基づいた看護が実践できるよう、文献を活用し看護実践を探究する力を養う。また、緩和ケアを受ける終末期がん患者に対する効果的な看護介入方法および高度な看護技術を習得すると共に、がん看護専門看護師の役割・機能について学修する。
到達目標	1．緩和ケアにおける最新の知見や課題について説明できる。 2．緩和ケアを受けるがん患者の抱える問題について、文献をクリティークできる。 3．文献検討の結果を考察し、看護ケアの改善や看護実践の発展について検討できる。 4．がん患者の抱える症状を緩和するための看護技術を実践できる。 5．緩和ケアをサブスペシャリティに活動しているがん看護専門看護師の役割および役割開発を理解する。 6．がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する相談技術について、分析・評価できる。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容　担当教員 1-3　緩和ケアにおける最新の知見や課題　岡本 4-6　緩和ケアを受けるがん患者に対する EBP とクリティークの方法　岡本 文献をクリティークした結果をどのように看護実践に活用できるか討議する。 7-10　緩和ケアを受けている終末期がん患者に対する看護介入(症状管理・援助技術)の探究　岡本 がん性疼痛など終末期がん患者が抱える全人的苦痛を軽減するための看護介入について、文献を整理し、発表・討議を行う。 11-15　緩和ケアを受ける患者の事例の分析と看護援助方法の検討　千葉 各自の体験事例を用いて検討する。 16-17　がん看護専門看護師の役割　吉岡 緩和ケアをサブスペシャリティにしているがん看護 CNS の活動の実際 18-24　症状緩和のための看護介入　千葉 アロマテラピー、複合的理学療法を習得するための演習を行う。 25-30　亀田総合病院において、がん看護専門看護師が行うがん患者と家族に対する看護相談の実際の場面を見学し、相談技術について、分析・評価する。　黒田
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、演習内容の分析(40%)、課題レポート(40%)を総合して評価する。
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。
備考	＊高度実践看護師コース(がん看護学)の学生のみ履修可。亀田総合病院での演習日時・方法については、別途説明する。 ＊吉岡の講義は遠隔で実施する。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学実習Ⅰ（役割機能実習）	1	後期	2	実習 90時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子
授業概要	がん看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）をがん看護専門看護師と共に実践することで、がん看護専門看護師の役割理解を深めるとともに、自身ががん看護専門看護師としての役割機能を発揮する能力を習得する上での課題と方法を明確にする。
到達目標	1．がん看護専門看護師が患者・家族に提供する高度な実践の目的や内容について述べることができる。 2．がん看護専門看護師が行っている教育活動の目的や内容について述べることができる。 3．がん看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴や具体的方法を述べることができる。 4．がん看護専門看護師が行う多職種との調整を必要とする問題や調整上の留意点、具体的方法について述べることができる。 5．がん看護専門看護師が携わる倫理的問題とその対応について述べることができる。 6．がん看護専門看護師が実施・指導している研究活動の目的や内容について述べることができる。 7．見学したがん看護専門看護師の行う看護実践、教育、相談、連携・調整等を分析し、専門看護師として活動する上での自己の課題について述べることができる。
履修条件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。
授業計画	1　実習内容 がん看護専門看護師が勤務する施設で、CNS 活動のシャドーイングを通して以下の専門看護師の６つの役割機能について理解を深める。 ①実践、②コンサルテーション、③調整、④倫理調整、⑤教育、⑥研究・社会貢献 2　実習方法 ・がん看護専門看護師に必要とされる６つの能力を効果的に理解できるように、実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・がん看護専門看護師が看護師を含むケア提供者に行うコンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整の場に参加する。 ・がん看護専門看護師の実践状況の見学や講義を受ける。 ・日々の実習での学びをフィールドノートに記載する。 ・カンファレンスや事例検討を通して、専門看護師の６つの役割や機能について理解する。 ・がん看護専門看護師として活躍するうえでの自己の課題等について考察し、レポートを作成する。 ・中間カンファレンスと終了カンファレンスを計画し実施する。 3　実習施設 亀田総合病院 千葉県がんセンター 4　実習時期と期間 １年次後期～２年次前期　２週間
教科書	なし
参考書	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱで使用した文献 Hamric, A.B., Hanson, C.H., Tracy, M.F.et.al　中村美鈴、江川幸二監訳：高度実践看護　統合的アプローチ、ヘルス出版、2017. 専門看護師の倫理調整の役割と実践、日本看護倫理学会誌、１(1)、12-16、2008.
評価方法・基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護専門看護師による評価（10%）、カンファレンス内容（20%）、最終レポート（70%）を総合して評価する。
事前・事後学習	事前学習：今までの学修内容を確認し、実習における課題を明確にする。 事後学習：実習記録およびレポートを作成する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学実習Ⅱ（診断治療実習）	2	前期	2	実習 90時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子
授業概要	関心領域のがん患者のフィジカルアセスメントに基づく診断・治療に関して、医師の診察・治療場面に同席し、患者に必要な医療を判断し提供する能力を養う。また、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、診療内容と臨床判断プロセスを修得する。さらに変化する保健医療制度の中で、より質の高いケアを提供するために、多職種と協働する能力を養う。
到達目標	1．関心領域のがん診療の場で医師と共にがん患者の診察を行い、診断・治療方針の決定に至る思考プロセスを説明できる。 2．様々な診療技術やがんの病態生理学的知識及び臨床薬理学的知識を活用して、がん患者の徴候や症候をアセスメントできる。 3．医学アセスメントをもとに、がんやがん治療ががん患者の生活に及ぼす影響を看護の立場からアセスメントし、多職種と協働しながら問題解決への方略を検討できる。 4．在宅療養をしているがん患者の状態を臨床的に判断し、身体管理方針について述べることができる。 5．がん患者の診断・治療に必要な実践・連携等を通して、がん看護専門看護師として活躍する上での自己の課題を明確にできる。
履修条件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。
授業計画	1　実習内容 関心領域のがん患者の診療場面に同席し、病態把握のためのフィジカルアセスメントの実施と評価、それらに基づく検査・医療処置、処方の選択に関して学ぶ。 関心領域のがん患者の診断・治療に必要な実践・連携を通して、がん看護専門看護師として活躍する上での自己の課題を探究する。 また、終末期にあるがん患者の在宅診療に医師と同行し、診療内容と臨床判断プロセスについて学ぶ。 2　実習方法 ・実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・関心領域のがん患者に対して行われる診断・治療場面に同席し、フィジカルアセスメント、診断・治療過程の見学と講義を受ける。 ・関心領域のがん患者に行われるフィジカルアセスメント、それらに基づく検査・医療処置、処方に関して指導医の指導を受けながら事例検討を行う。 ・指導医の指導の下、関心領域のがん患者に行われるフィジカルアセスメント、それらに基づく検査・医療処置、処方の実践と、その過程における多職種連携を学ぶ。 ・在宅診療を受ける終末期がん患者を１名担当し、在宅医の指導の下にフィジカルアセスメント、医療処置、処方の実践と、その過程における多職種連携を学ぶ。 ・がん看護専門看護師として活躍する上での臨床判断および、薬物、検査、処置の選択や管理の実施および診断・治療に必要な多職種連携について考察し、レポートを作成する。 ・中間カンファレンスと終了カンファレンスを計画し実施する。 3　実習施設　　亀田総合病院 4　実習時期と期間　２年次前期　２週間
教科書	なし
参考書	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱで使用した文献 その他、適宜紹介する。
評価方法・基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護専門看護師による評価（10%）、カンファレンス内容（20%）、最終レポート（70%）を総合して評価する
事前・事後学習	事前学習：実習計画書を作成する。今までの学修内容を確認し、実習における課題を明確にする。 事後学習：実習記録およびレポートを作成する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学実習Ⅲ（療養支援実習）	2	前期	2	実習 90時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子
授業概要	がんの急性期病院から在宅へ療養の場を移行する時期、ならびに在宅療養に移行したがん患者・家族へのシームレスな医療・看護を実践するために必要なヘルスケアシステムについて学ぶ。また、在宅療養、施設療養をしているがん患者の症状マネジメントや緩和ケアを経験豊富な訪問看護師、施設看護師と共に実践することで、包括的がん医療におけるがん看護専門看護師としての役割と基礎的能力を養う。
到達目標	1．在宅療養にかかわる多職種の連携・協働において、がん看護専門看護師の果たす役割を理解する。 2．地域医療連携におけるがん治療の連携、相談支援の実際を理解する。 3．治療期、在宅療養への移行期、在宅・施設療養期、在宅・施設終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題を理解する。 4．治療期、在宅療養への移行期、在宅・施設療養期、在宅・施設終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題を解決するために必要な専門的知識・技術、臨床判断に基づいた支援の実際を理解する。 5．がん患者とその家族の在宅・施設療養を支えるうえでのがん看護専門看護師の役割と課題を探究する。
履修条件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。
授業計画	1　実習内容 がんの急性期病院で行われている地域医療連携および退院支援、がん患者と家族が在宅療養を継続する上で必要な支援について理解を深める。がん患者の在宅ケア、施設ケアについて豊富な経験を持つ訪問看護師、施設看護師、がん看護専門看護師、指導教員のスーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師としての役割と実践上の課題を探究する。 2　実習方法 ・実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・主治医、在宅医、受け持ち看護師、訪問看護師、保健師等との退院支援カンファレンスに参加し、連携を目指した視点から、がん患者と家族が在宅療養を続けるうえで必要な支援と調整について考察する。 ・訪問看護師の訪問に同行し、在宅療養におけるがん患者の症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶ。 ・がん患者やその家族の健康問題が在宅療養に及ぼす影響についてアセスメントし、よりよい療養生活を送るための多職種連携や協働に関する計画を立案し、訪問看護師と共に実施、評価する。 3　実習施設 亀田総合病院　在宅診療部、訪問看護ステーション 有限会社　小規模多機能施設　フローラ 4　実習時期と期間 ２年次前期～後期　２週間
教科書	なし
参考書	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱで使用した文献 その他、適宜紹介する。
評価方法･基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護専門看護師による評価(10%)、カンファレンス内容(20%)、最終レポート(70%)を総合して評価する
事前･事後学習	事前学習：目標達成のためにふさわしい実習施設を選び、受け入れの打診をする。実習計画書を作成する。今までの学修内容を確認し、実習における課題を明確にする。 事後学習：実習記録およびレポートを作成する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学実習Ⅳ（統合実習）	2	前期	4	実習 180時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子
授業概要	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだこととがん看護学実習Ⅰ～Ⅲを統合し、複雑で対応困難な問題を持つがん患者の医学アセスメントおよび患者とその家族の包括的アセスメント、直接的支援、多職種との連携、病棟看護師へのコンサルテーションや教育活動などを実践し、専門看護師として活動するための実践力を養う。また、実施した活動を内省し、がん看護専門看護師として活躍する上での課題を探究する。
到達目標	１．複雑で対応困難な問題を持つがん患者の医学的アセスメントができる。 ２．複雑で対応困難な問題を持つがん患者とその家族を包括的にアセスメントすることができる。 ３．問題を解決するための具体的な援助計画を立案することができる。 ４．立案した援助計画を実施し、専門看護師の役割・機能に照らし合わせながら科学的に評価することができる。 ５．がん患者とその家族が抱える問題を解決するために、多職種と連携することができる。 ６．病棟看護師に対するコンサルテーションができる。 ７．患者・家族が直面する倫理的課題を調整することができる。 ８．病棟の看護の質向上に寄与する教育を企画実践することができる。
履修条件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。
授業計画	１　実習内容 １）複雑で対応困難な問題を持つがん患者とその家族への直接的支援（３週間） ・医学的アセスメント ・包括的アセスメント ・援助計画立案・実施・評価 ２）がん看護専門看護師としての役割実践（１週間） ・病棟看護師に対するコンサルテーション ・患者・家族が抱える倫理的課題の調整 ・臨床看護師への研究指導 ・多職種との連携や調整 ・病棟の看護の質向上を目指した学習会の企画・実施　など ２　実習方法 ・複雑で対応困難な問題を持つがん患者を２名以上受け持ち、ケアを提供する。 ・受け持ち患者の医学的アセスメントについて担当医と討議する。 ・対象への看護やモデルの評価・修正を行うための事例検討会を定期的に開催する。 ・患者への直接的ケアを実施した病棟で働く看護師に対して、専門看護師としての役割を実践する。実践計画は臨床指導者や教員および多職種からの助言を受けながら作成し、コンサルテーション、倫理調整、研究指導、調整、教育活動のうち１つを行う。 ・実施した内容を評価し、レポートを作成する。 ・実習を通してがん看護専門看護師として活躍する上での課題について考察し、レポートを作成する。 ・中間カンファレンスと終了カンファレンスを計画し実施する。 ３　実習施設 亀田総合病院 順天堂大学医学部附属順天堂医院 ４　実習時期と期間 ２年次前期～後期　４週間
教科書	なし
参考書	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱで使用した文献 その他、適宜紹介する。
評価方法･基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護専門看護師による評価（10%）、カンファレンス内容（20%）、最終レポート（70%）を総合して評価する
事前･事後学習	事前学習：目標達成のためにふさわしい実習施設を選び、受け入れの打診をする。実習計画書を作成する。今までの学修内容を確認し、実習における課題を明確にする。 事後学習：実習記録およびレポートを作成する。
備考	実習場所：亀田総合病院、 順天堂大学医学部付属順天堂医院

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学課題研究	2	通年	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子
授業概要	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を踏まえて、自身の専門領域に関わる看護実践の中からがん患者とその家族の抱えている問題を取り上げ、文献的に研究を行う能力を養う。
到達目標	1．自身の専門領域に関わる看護実践の中からがん患者とその家族の抱えている問題を取り上げ、系統的な文献の検討を行い、研究動向を把握する。 2．自身の専門領域に関わる看護実践の中からがん患者とその家族の抱えている問題について、文献的に実証し、論文にまとめる。
履修条件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。
授業計画	回　内容　担当教員 1-15　文献検討と個別面談　岡本・千葉
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。
評価方法・基準	研究プロセス(20%)、完成した論文(80%)、発表(10%)
事前・事後学習	
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学特論Ⅰ（歴史・法制度論）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子
授業概要	精神保健医療・看護の歴史、法制度の変遷、国際的な動向などを、文献を通して踏まえ、現行の精神保健医療制度を批判的観点から把握するとともに、わが国における精神保健問題の現況を把握し、今後の精神保健医療において看護職が果たすべき役割について展望する。
到達目標	1．近代精神医学の成立から現代の精神医学に至る精神医療史を学び、歴史に胚胎する諸問題を批判的観点から理解する。 2．古代から現代に至るまでの日本の精神医療史を学び、歴史に胚胎する諸問題を批判的観点から理解する。 3．現代日本の精神医療保健福祉制度について学び、今後に求められる制度と看護の役割についての見解を持つ。 4．世界の精神保健医療福祉制度の動向について学び、日本の諸制度の向かうべき方向性についての展望を獲得する。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容 1-2　近代精神医学史：精神医学の成り立ちについて文献を通して理解する。 3-4　病院精神医学の成立：病院精神医学の成立について文献を通して理解する。 5-6　大学精神病院の成立：大学精神病院と精神医学の成立について文献を通して理解する。 7-8　戦争と精神医学：戦争と精神医学の関りについて文献を通して理解する。 9-10　古代日本精神医療史：古代の日本の精神医療について文献を通して理解する。 11-12　近代日本精神医療史：近代日本の精神医療史について文献を通して理解する。 13-14　精神保健医療福祉制度：日本の精神保健医療福祉制度について文献等を通して理解する。 15　世界の精神保健福祉：世界の精神保健福祉制度について、文献等を通して調べ、日本の精神保健医療看護の課題を整理する。
教科書	小俣和一郎：近代精神医学の成立、人文書院、2002 八木剛平・田辺英：日本精神病治療史、金原出版、2002
参考書	岡田靖雄：日本精神科医療史、医学書院、2002 立岩真也：造反有理、精神医療現代史へ、青土社、2013 他、適宜紹介
評価方法・基準	プレゼンテーション準備度20%、講義および討議への参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示す資料を読んでくること（1時間程度）。事後には疑問点を整理し、さらに関連した文献等を調べ、理解を深める（2時間程度）。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学特論Ⅱ（精神看護理論）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子
授業概要	精神分析理論、精神病理学理論、対象関係論等、精神看護学を構成する基礎的理論を学び、対象をメタサイコロジカルな観点および病理学的な観点からアセスメントし、介入するための理論的基盤を養う。
到達目標	１．精神分析の基礎理論について学び、重要概念を理解する。 ２．対象関係論について学び、重要概念を理解する。 ３．力動的精神医学について学び、DSM と精神分析概念を併用したアセスメント・介入技術のための理論的基盤を養う。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容 1－2　精神分析理論：局在論について文献を通して理解する。 3－4　精神分析理論：構造論について文献を通して理解する。 5－6　精神分析理論：精神性的発達について文献を通して理解する。 7－8　精神分析理論：防衛機制について文献と自らの体験に照らし理解する。 9－10　対象関係論：対象関係論の主要理論について文献を通して理解する。 11-12　力動精神医学：理論編として、基本原則(無意識。心的決定論・転移・逆転移・抵抗等)、について文献を通して理解する。 13-14　力動精神医学：臨床編として、統合失調症、気分障害、不安障害、物質関連障害、摂食障害等への力動精神医学的アプローチについて文献を通して理解する。 15　事例検討：文献を通して、事例を取り上げ、精神分析的治療アプローチの実際について理解する。
教科書	土居健郎：精神分析と精神病理、第2版、医学書院、1970 G.O.ギャバード：精神力動的精神医学①理論編、岩崎学術出版、1998
参考書	G.O.ギャバード：精神力動的精神医学②臨床編：Ⅰ軸障害、岩崎学術出版、1998 G.O.ギャバード：精神力動的精神医学③臨床編：Ⅱ軸障害、岩崎学術出版、1998 小此木啓吾他編：精神分析セミナーⅠ～Ⅴ、岩崎学術出版、1981～1988 小此木啓吾：精神分析の成り立ちと発展、弘文堂、1985 小此木啓吾：精神分析の基礎理論、弘文堂、1985 前田重治：図説　臨床精神分析学　誠信書房、1985
評価方法･基準	プレゼンテーション準備度20%、講義および討議への参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。
事前･事後学習	事前に示す資料を読んでくること(１時間程度)。事後には、疑問点を整理し、さらに関連文献を読み、理解を深める(２時間程度)。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学特論Ⅲ（精神看護倫理・当事者論）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子、畠山卓也
授業概要	精神看護倫理の基礎理論、当事者論等を学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリカバリーを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。さらに当事者が求める精神保健医療・看護について、リカバリーモデルおよびストレングスモデルを基盤に洞察する。
到達目標	1．精神看護倫理の基礎理論を学び、実践を倫理的観点からみるための基礎を養う。原則論、臨床倫理（手順論）、ナラティヴ倫理を扱うとともに、隔離拘束に伴う倫理について学ぶ。 2．手順論、ナラティヴ倫理をもとにして、倫理的事例検討を行う。 3．リカバリーモデル・ストレングスモデルなど、当事者中心のモデルについて理解する。 4．当事者の手記、当事者の視点に焦点を当てた研究等を読み、当事者体験を理解する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1－2	倫理理論の基礎：原則論等、基礎的倫理理論について学ぶ。	田中
3－4	臨床倫理・ナラティヴ倫理：臨床倫理とナラティヴ倫理の理論について学ぶ。	田中
5－6	隔離拘束に伴う倫理：隔離拘束に関わる倫理について事例を通して学ぶ。	畠山
7－8	事例検討：手順論を使って、倫理的事例検討を行う。	畠山
9－10	事例検討：ナラティヴ倫理を使って、倫理的事例検討を行う。	田中
11-12	当事者論：リカバリーモデルの思潮、概念について学ぶ。	田中
13-14	当事者論：ストレングスモデルの理論と応用について学ぶ。	田中
15	当事者論：当事者の手記・体験記を読み、当事者体験を理解することの意義について洞察する。	田中

教科書	特に指定せず。
参考書	宮坂道夫：医療倫理学の方法　原則・手順・ナラティヴ、第2版、医学書院、2011. 鶴若麻理、麻原きよみ：ナラティヴでみる看護倫理、南江堂、2013. マーク・レーガン著、前田ケイ監訳：ビレッジから学ぶリカバリーへの道、金剛出版、2005. チャールズ・A・ラップ他、田中英樹監訳：ストレングスモデル　精神障害者のためのケースマネジメント、金剛出版、2008.
評価方法・基準	プレゼンテーション準備度20%、講義および討議への参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示す資料を読んでくること（1時間程度）。事後には、学んだことをもとに、臨床での事例について、当事者の視点および倫理の視点から考えてみる（1時間程度）。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学特論Ⅳ（リエゾン精神看護）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子、嵐弘美、山内典子、飯塚あつ子
授業概要	リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、活動の実際などについて、理論的に学習するとともに、実践レベルに応用できる力を養う。 ☆サブスペシャリティに応じて、特論ⅣかⅤのどちらかを選択。両方取ることも可能とする。
到達目標	1．精神看護学の一専門領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的・機能を理解する。 2．身体疾患をもつ患者の精神状態の特徴およびアセスメントの方法について理解する。 3．せん妄、抑うつ、怒り、不安の４つの精神状態について説明できる。 4．直接ケアの技法、およびコンサルテーションのプロセスや方法について理解する。 5．看護師のメンタルヘルスの特徴およびリエゾン精神専門看護師が行う支援について理解する。 6．組織変革者としてのリエゾン精神看護師の役割・機能について理解する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1－2	概論：リエゾン精神医学・看護成立の歴史、定義、位置づけ、目的、機能について理解する。	田中
3－4	直接ケアの技法：アサーションとリラクセーションの技法について、理論と演習で学ぶ。	飯塚
5－8	各論：せん妄・抑うつ・怒り・不安のアセスメントと援助について学ぶ。	山内
9－10	コンサルテーション：患者中心のコンサルテーションとコンサルティ中心のコンサルテーションの実際について事例を通して学ぶ。	嵐
11-12	看護師のメンタルヘルス支援：看護師のメンタルヘルス支援の方法と実際について学ぶ。	嵐
13-14	管理的コンサルテーション：管理的コンサルテーションの方法について理論と事例を通して学ぶ。	山内
15	組織変革へのアプローチ：組織変革へのアプローチについて理論と事例を通して学ぶ。	山内

教科書	野末聖香編著：リエゾン精神看護－患者ケアをナース支援のために、医歯薬出版
参考書	適宜紹介
評価方法・基準	プレゼンテーションの準備度20%、講義および討議への参加度10%、レポート70%とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと（１時間程度）。事後には、疑問点を整理し、さらに文献等を通して理解を深める（２時間程度）。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学特論Ⅴ（地域精神看護）	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一、松丸直美
授業概要	早期退院、退院促進、地域連携を強化することをねらいとした地域精神看護に必要な知識と技術、地域連携の実際を学び、高度実践看護師として卓越した看護実践ができる能力を養う。 ☆サブスペシャリティに応じて、特論ⅣかⅤのどちらかを選択。両方取ることも可能とする。
到達目標	1．救急・急性期患者の受け入れから、スムーズな地域移行までの一連の流れに着目し、病院内ケアと地域連携について学ぶ。 2．慢性期患者のストレングスに着目し、QOL を高めるセルフケア支援を実践する能力を養い、退院促進のための方略を習得する。 3．ACT（重症精神障害者の地域支援）の方法について学び、実践に応用できる能力を養う。 4．地域精神保健福祉の現状と課題、および地域包括ケアシステムについて理解する。 5．訪問看護の実際について学び、地域支援と連携強化に向けた実践について探求する。 6．セルフヘルプの理論、当事者活動の実際について理解し、当事者のリカバリーを支える看護について探求する。 7．安房地区の地域移行支援事業協議会の実際を把握し、この地区の地域移行の課題について把握する。
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みのこと

授業計画

回	内容	担当教員
1－2	急性期患者の入院から地域移行までの支援：急性期患者の地域移行について文献と事例を通して学ぶ。	田中
3－4	慢性期患者へのセルフケア支援と退院促進：慢性期患者のセルフケア支援と退院促進について、文献と事例を通して学ぶ。	田中
5－6	ACT と退院促進・地域連携：ACT の理論と退院促進・地域連携の実際について文献を通して学ぶ。	田中
7－8	地域包括ケアシステム：地域精神保健福祉の現状と課題、および精神障害者のための地域包括ケアシステムについて学ぶ。	田中
9－10	訪問看護：訪問看護の実際を、事例を通して学ぶ。	田中
11-12	セルフヘルプと当事者のリカバリー支援：安房地区のセルフヘルプの現状について調べ、当事者のリカバリー支援のための課題を把握する。	田中・松丸
13-14	千葉県安房地区の地域移行支援事業：安房地区の地域移行支援事業の現状について調べ、この地区の課題について整理する。	田中・中島・松丸
15	安房地区の精神障害者地域移行支援の現状と課題：調べたことをもとに発表し、ディスカッションを通して、課題を共有する。	田中・中島・松丸

教科書	特に指定せず。
参考書	適宜紹介。
評価方法・基準	講義および討議への参加度30％、レポート70％とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおく（1時間程度）。事後には、実践や講義で学んだことを応用すること（2時間程度）。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学演習Ⅰ（対象理解と自己理解）	1	前期	2	演習 60時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一、松丸直美、柚山香世子
授業概要	あらゆる年代を対象として、精神状態のアセスメントならびに個対個の関係の展開、集団における関係について、実践的な演習を通して学習し、対象理解と自己理解を深め、看護介入の基本となる精神状態のアセスメントの技術と対人関係的技術を習得する。
到達目標	1．精神状態のアセスメントのための理論を学び、実践への応用のための技術を習得する。 2．子どもの精神状態をアセスメントし、関係を展開するための理論と技術を習得する。 3．認知症のアセスメントについて学び、認知症を併発した精神疾患患者とその家族へのケアについて学ぶ。 4．治療的な対人関係を形成するための理論と技術、ならびに看護場面の再構成の方法を学び、実践に応用する技術を習得する。 5．集団力動理論を理解し、集団特有の心理を理解し、集団の中の自己を省察することを通して、自己理解と他者理解を深める。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1－3	精神状態のアセスメント：MSE を使った精神状態のアセスメントの理論を学ぶ。	田中
4－6	精神状態のアセスメント：診断面接の技術について理論と演習を通して学ぶ。	田中
7－9	子どもの精神障害：子どもの精神障害全体を把握し、精神状態をアセスメントするための基礎理論を学ぶ。	柚山
10–12	子どもの精神障害：子どもの精神障害をアセスメントするための方法を、演習を通して学ぶ。	柚山
13–15	認知症のアセスメント：特に精神疾患を有する患者の認知症をアセスメントするための理論と技術、患者と家族へのケアについて学ぶ。	松丸
16–17	対人関係の技法：コミュニケーション技法、カウンセリング技法について学び、関係を展開しながら、対象把握を行う精神看護の技術について演習を通して修得する。	田中
18	対人関係の技法：コミュニケーション技法、カウンセリング技法について学び、関係を展開しながら、対象把握を行う精神看護の技術について演習を通して修得する。	松丸
19–21	看護場面の再構成：看護場面の再構成の理論を理解する。	中島
22–24	看護場面の再構成：演習を通して、看護場面の再構成を行い、他者理解と自己理解の方法を修得する。	中島・松丸
25–27	集団力動理論：集団力動理論を理解し、集団特有の心理について学ぶ。	田中
28–30	グループワーク：グループワークを通して、集団の中の自己を省察し、自己理解と他者理解を深める。	田中

教科書	特に指定せず。
参考書	武藤教志：他科に誇れる精神科看護の専門技術　メンタルヘルスイグザミネーション、精神看護出版、2017. 神田橋條治：追補　精神科診断面接のコツ、岩崎学術出版、1990. 宮本眞巳：改訂版　看護場面の再構成、日本看護協会出版会、2019.
評価方法・基準	講義および討議への参加度30％、レポート70％とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと（1時間程度）。事後には講義で学んだ技術を日常に応用してみること（2時間程度）。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学演習Ⅱ（精神科治療技法）	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一、松谷典洋、小石川比良来、岡田佳詠、横山恵子、小山達也、田中友康、藤原雅司
授業概要	精神科薬物治療について学び、精神科薬物療法の効果をアセスメントし、看護援助につなげる能力を養う。さらに精神療法、心理教育・家族心理教育、認知行動療法など精神看護における教育治療的介入技法について演習を通して学習する。加えて、アディクション看護、自殺予防、精神科ターミナル、トラウマインフォームドケア、オープンダイアローグなど、精神看護の多様な実践技法を学び、専門看護師の役割・機能に統合する方法について探求する。
到達目標	1．精神科薬物治療の基礎理論について学び、その効果をアセスメントできる能力を養う。 2．外来診断面接見学とディスカッションを通して、医師による診断と処方の理論的根拠を理解する。 3．心理教育、家族心理教育、認知行動療法の理論を学び、実践に応用するための基礎を培う。 4．アディクション看護、自殺予防、精神科ターミナル、トラウマインフォームドケア、オープンダイアローグ、精神看護の多様な実践における介入方法について学ぶ。
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと

授業計画

回	内容	担当教員
1－2	精神科薬物治療論概論：精神科薬物療法の基礎について、その歴史、薬の種類、主要な薬の機序、作用・副作用等について学ぶ。	小石川
3－6	外来診断面接見学実習：医師の外来診断面接に見学参加し、診断と処方の実際、その理論的根拠について学ぶ。	小石川
7－8	個人精神療法・集団精神療法：個人精神療法、集団精神療法の理論と実際について、演習を通して学ぶ。	田中
9－10	身体疾患治療薬と精神症状：身体疾患治療薬と精神症状の関係について学ぶ。	松谷
11-12	服薬心理教育：服薬心理教育の理論と実際	松谷
13-15	家族心理教育と家族ケア：家族心理教育の理論と技法、家族ケアの基本について学ぶ。	横山
16-18	認知行動療法：認知行動療法の理論と実際について学ぶ。	岡田
19-21	アディクション看護：アディクション看護の理論と実際、治療的介入技法について学ぶ。	中島
22-24	自殺予防：自殺の現状、各種施策、自殺予防のための理論・技法について学ぶ。	小山
25-26	精神科ターミナル：精神科におけるターミナルケアの基本的概念とケアについて学ぶ。	松谷
27-28	トラウマインフォームドケアの理論を学び、臨床への応用について探求する。	田中
29-30	オープンダイアローグの理論と技法を学び、臨床に応用する方法について探求する。	藤原

教科書	特に指定せず。
参考書	適宜紹介
評価方法・基準	講義および討議への参加度30％、レポート70％とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおく（1時間程度）。事後には疑問点を整理し、文献を通してさらに理解を深める（2時間程度）。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学演習Ⅲ（精神看護援助方法）	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一、松丸直美
授業概要	専門的知識と技術に基づいた高度な看護実践を提供できるようになるために、オレム・アンダーウッドセルフケアモデルを理論的ベースにして、精神力動理論やこれまで学習してきた理論・技法を用いながら、さまざまな精神疾患に対する看護援助の実際について学習する。また多職種連携に基づく看護実践を学ぶ。加えて、各疾患の看護援助について、各自で文献学習を行い、高度実践看護師としてエビデンスに基づいた直接ケア・間接ケアが提供できる能力を養う。
到達目標	1．専門的知識と技術に基づいた高度な看護実践を提供できるようになるために、オレム・アンダーウッドセルフケアモデルを用いて、各精神疾患患者に対する看護援助について学習する。 2．安房地区地域移行支援事業協議会の事例検討会に参加し、地域における多職種連携の実際と看護実践を学ぶ。 3．上記の学習を踏まえ、高度実践看護師として精神看護援助で課題となる問題を見定め、文献学習を行い、各課題へのエビデンスに基づいた対応について検討する。
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みのこと

授業計画

回	内容	担当教員
1－2	オレム・アンダーウッド・セルフケアモデル(以下、SC モデル) ：SC モデルについて学習する。	田中
3－5	統合失調症への看護援助：SC モデルを活用した事例検討(２例程度)	田中
6－8	抑うつ障害患者への看護援助：SC モデルを活用した事例検討(２例程度)	田中
9－11	双極性障害患者への看護援助：SC モデルを活用した事例検討(２例程度)	田中
12-14	不安障害患者・強迫性障害患者への看護援助：SC モデルを活用した事例検討(２例程度)	田中
15-17	心的外傷および解離性障害患者への看護援助：SC モデルを活用した事例検討(２例程度)	田中
18-20	身体症状症および摂食障害患者への看護援助：SC モデルを活用した事例検討(２例程度)	田中
21-22	物質関連障害患者への看護援助：SC モデルを活用した事例検討(２例程度)	田中
23-24	パーソナリティ障害患者への看護援助：SC モデルを活用した事例検討(２例程度)	田中
25-26	ひきこもり、虐待への地域支援：ひきこもり、虐待に対する地域支援について、文献等を通して学習する。	田中
27-28	地域の多職種連携と看護実践：安房地区地域移行支援事業協議会の事例検討会に参加し、多職種連携と看護援助の実際について学ぶ。	田中・松丸
29-30	これまでの学習を踏まえ、精神看護援助で課題となる問題を見定め、文献学習を行い、その課題へのエビデンスに基づいた対応について検討し報告する。	田中・中島・松丸

教科書	特に指定せず。
参考書	適宜紹介
評価方法・基準	事例検討への参加度30％、レポート70％とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	各疾患の援助について事前学習しておくこと(１時間程度)。事後にはさらに文献学習を進めること(２時間程度)。
備考	特になし

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学実習Ⅰ（高度実践看護役割･機能の実習）		1	後期	2	実習 90時間
担当教員	田中美恵子、中島洋一、松丸直美				
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、実習Ⅰでは特に、CNS の役割と機能を学習し、精神看護専門看護師としての実践能力の基礎を養う。				
到達目標	1．精神科医療施設における CNS の役割と機能について参加観察を通して学習する。 2．各自の関心テーマに基づいて、独自に実習の焦点を定め、それに基づいて実習中に参加観察を行う。				
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みのこと				
授業計画	1．CNS の役割と機能について、病院 CNS からオリエンテーションを受け、CNS の活動に同行し、相談・調整・教育などの CNS の役割と機能について参加観察を通して学習する。 2．１日の終わりに、CNS とカンファレンスを実施し、その活動の意図について検討する。 3．最終カンファレンスにおいて、CNS の役割と機能について学習したところを発表し、ディスカッションを通して、学びを共有する。その際、学生は交代で司会を実施する。その他、各自の実習の焦点に合わせ、学びを発表し、実習全体の学びを相互に共有する。 ＊詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。				
教科書	特に指定せず。				
参考書	Hamric,A.B., Hanson, C.H., Tracy, M.F.et.al　中村美鈴、江川幸二監訳：高度実践看護　統合的アプローチ、ヘルス出版、2017. 野末聖香編：リエゾン精神看護　患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版、2004. 宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.				
評価方法･基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。				
事前･事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくこと（１時間程度）。自己の実習における課題について明確にしておくこと。事後は実習の振り返りを行うこと（２時間程度）。				
備考	授業場所：井之頭病院 実習場所：公益財団法人井之頭病院 実習期間：原則として２月～３月の２週間（４日/週×２週間：８日間）１限～４限 ＊但し、火・水・木・金とする。				

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学実習Ⅱ（直接ケア実習）		2	前期	4	実習 180時間
担当教員	田中美恵子、中島洋一、松丸直美				
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNSの役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。実習Ⅱでは、特に直接ケアの能力の向上に焦点を当てる。精神科診断・治療実習の内容も含めるものとする。				
到達目標	精神科医療施設において、直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。				
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、実習Ⅰを履修済みのこと				
授業計画	1．患者を２名程度受け持ち、精神症状の査定、精神力動の査定、精神療法的関係づくりを通して、直接的看護介入を実施する。 2．病棟において定期的にカンファレンスを実施し、病棟スタッフからケアに対する評価を得るとともに、看護チーム、医療チームとの調整・連携を行う。必要に応じて、プライマリーナース等へコンサルテーションを行う。 3．提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者(CNS)からスーパービジョンを受け、看護介入の意味を精神療法的な観点を踏まえ考察する。また実施した看護をカンファレンス等の場を通して伝え、継続看護につなげるようにする。 4．実習病棟または病院において参加観察を行い、病棟内力動を査定しながら、病棟カンファレンス等の場を通して病棟内力動に介入する。 5．学内において、事例のケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。その際、学生は交代で司会を実施し、事例検討の進行について体験的に学習する。 ＊詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。				
教科書	特に指定せず。				
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.				
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。				
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくこと（１時間程度）。自己の課題について明確にしておくこと。事後は実習の振り返りを行い、今後に向けての課題を明らかにすること（２時間程度）。				
備考	授業場所：東京都立松沢病院 実習場所：東京都立松沢病院 実習期間：原則として、４月～５月の間の４週間（４日/週×４週間：16日間）１限～４限				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学実習Ⅲ-A(リエゾン精神看護実習)	2	前期	2	実習 90時間

担当教員	田中美惠子、中島洋一、松谷典洋、木村允
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。実習Ⅲ－Ａは、リエゾン精神看護に焦点を当てる。
到達目標	リエゾン精神看護の対象および場の特徴を理解し、患者１名程度を通して、コンサルテーション、調整、倫理調整等を実施する。 ☆学生はサブスペシャリティに応じて、実習Ⅲ-A か実習Ⅲ-B のどちらかを選択する。
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、実習Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと
授業計画	１．精神科リエゾンチームの活動に同行し、参加観察を通して、リエゾン精神看護における対象および場の特徴を学習する。実践・コンサルテーション・調整・倫理調整・教育などの役割と機能について参加観察を通して学習する。１日の終わりに、臨床指導者および担当教員とカンファレンスを実施し、それぞれの活動の意図や方法について検討する。 ２．患者の同意を得て、心身両面の問題を有する患者１名程度を受け持ち、患者にかかわるプライマリーナース、病棟スタッフ、看護管理者等にコンサルテーションを実施する。その際、患者に対して、専門的知識を用いてケース理解を深めるとともに、対応を必要とする課題・課題へのアプローチ方法等について検討する。併せてコンサルテーションの実施に際し、臨床指導者および担当教員からスーパービジョンを受ける。必要に応じて、調整、倫理調整を行う。 ＊詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。
教科書	特に指定せず。
参考書	野末聖香編：リエゾン精神看護　患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版、2004.
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくこと(１時間程度)。自己の課題について明確にしておくこと。事後は実習の振り返りを行い、今後に向けての課題を明らかにすること(２時間程度)。
備考	授業場所：亀田総合病院 実習場所：亀田総合病院 実習期間：原則として、９月の２週間(４日/週×２週間：８日間)１限～４限

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学実習Ⅲ-B(地域精神看護実習)	2	前期	2	実習 90時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一、松丸直美
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNS の役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。実習Ⅲ-B は、地域精神看護に焦点を当てる。 ☆学生は、サブスペシャリティに応じて、実習Ⅲ-A か実習Ⅲ-B のどちらかを選択する。
到達目標	安定した地域生活を目指し、患者のセルフケアやストレングスを査定して直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、実施した看護介入を評価する。さらに受け持ちケースを中心に、コンサルテーション、調整(多職種連携)、倫理調整等を実施し、より専門的な高度看護実践能力を習得する。
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ。実習Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと
授業計画	1．三芳野会を利用し、三芳病院へ通院する患者１～２名程度受け持ち、安定した地域支援を目指して、患者のセルフケア能力やストレングスを査定しながら、直接的看護介入を展開するとともに、多職種連携を実践する。 2．カンファレンスを実施し、多職種チームからケアに対する評価を得るとともに、保健・医療・福祉チームの調整・連携を行う。 3．提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者からスーパービジョンを受け、看護介入の効果を評価し、課題を明らかにする。 4．実習期間内に、訪問看護への同行訪問、デイケア見学参加、必要に応じて外来実習などを行い、病院と地域との連携の実際について学ぶとともに、組織・地域の課題を明らかにする。 5．学内において、事例のケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。その際、学生は交代で司会を実施し、事例検討の進行について体験的に学習する。 ＊詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。
教科書	特に指定せず。
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.
評価方法･基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。
事前･事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくこと(１時間程度)。自己の課題について明確にしておくこと。事後は実習の振り返りを行い、今後に向けての課題を明らかにすること(２時間程度)。
備考	授業場所：三芳病院　三芳野会 実習場所：三芳病院　三芳野会(安房地域生活支援センター・グループホームみよしの・三芳ワークセンター・まほろば) 実習期間：原則として、９月の２週間(４日/週×２週間：８日間)１限～４限

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学実習Ⅳ（間接ケア実習）		2	後期	2	実習 90時間
担当教員	田中美恵子、畠山卓也				
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、施設内において相談・調整・倫理調整などの間接ケアを実際に体験し、専門看護師としての間接ケア能力を養う。				
到達目標	1．医療施設において、CNS の実施している相談・調整・倫理調整などの場面に同行し、その実際について学習する。 2．医療施設において、患者１名程度を受け持ち、病棟内力動を査定するとともに、相談・調整・倫理調整などを CNS の指導を受けながら実施する。				
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、実習Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと				
授業計画	1．受け持ち患者を１名程度持ち、病棟内力動を査定しながら、その患者を通して、CNS の指導を受けながら、相談・調整・倫理調整を実際に実施する。その際、教員および臨床指導者（CNS）よりスーパービジョンを受ける。相談（コンサルテーション）については、２例程度を目標とする。 2．学内カンファレンスにおいて、自分が行った間接ケアについて発表し、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。 ＊詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。				
教科書	特に指定せず。				
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.				
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。				
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくこと（１時間程度）。自己の課題について明確にしておくこと。事後は実習の振り返りを行い、今後の実践に向けて自己の課題を明らかにすること（２時間程度）。				
備考	授業場所：井之頭病院 実習場所：財団法人井之頭病院 実習期間：原則として、11月の間の2週間（４日/週×２週間）				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学課題研究	2	通年	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一
授業概要	精神看護学特論および演習で得た知識と技術をもとに、精神看護における直接的看護介入ならびに間接的看護介入に関する問題群の中から、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献の検討を行うことで、精神看護学の実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。
到達目標	1．各自のテーマを発見し、系統的な文献検討を行い、テーマに関する研究動向を把握する。 2．関心テーマにおける研究的なエビデンスを把握し、総説論文としてまとめる。
履修条件	看護研究、精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと
授業計画	回　内容　担当教員 1-15　文献検討と個別面談　田中・中島
教科書	指定せず
参考書	指定せず
評価方法・基準	課題研究の達成度によって評価する。
事前・事後学習	事前学習：2時間程度 事後学習：2時間程度
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学特論Ⅰ（危機とストレス）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	松本幸枝
授業概要	突然の出来事や衝撃的な体験により、ストレスや危機的状況に陥る対象者やその家族の反応や立ち直っていくプロセスを理解し、援助の方法を探索する。
到達目標	1．危機的状況にある対象者及びその家族について、理論を用いて説明することができる。 2．危機的状況にある対象者やその家族に必要な諸理論を理解し、理論を用いて援助することができる。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容　担当教員 1－2　ストレス理論/自尊感情/レジリエンス　松本 3－4　危機理論　松本 5－6　悲嘆/グリーフワーク　松本 7－8　病みの軌跡　松本 9－10　自己概念とボディイメージ　松本 11－12　自己効力感　松本 13　クリティカルケア状況下にある患者とその家族へ理論を活用した事例　松本 14－15　課題：第1－13回で学んだ知識を活用し、危機的状況の中にいる対象者及びその家族への介入事例を用い、自己の看護について考察する　松本
教科書	特に指定しない。
参考書	・小島操子(2018)：看護における危機理論・危機介入改正４版フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ、金芳堂 ・J. W. Worden/山本力監訳(2015)A Handbook for Mental Health Practitioner. 4th/臨床実践ハンドブック悲嘆カウンセリング、誠信書房 ・Barbara Resnick/任和子翻訳(2020)Practice of Geriatric Nursing to Enhance Self-Efficacy and Resilience/自己効力感とレジリエンスを高める看護の実践、学研 ・Ilene Morof Lubkin/黒江ゆり子監訳(2007)Chonic Illness Impact and Interventions、クロニックイルネス　人と病いの新たなかかわり、医学書院 ・Pierre Woog/黒江ゆり子監訳(1995)：THE CHRONIC ILLNESS TRAJECTORY FRAMEWORK/ 慢性疾患の病みの奇跡、医学書院
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示された資料を読んでくること。 事後学習：疑問点を整理し、関連した文献等を調べ、理解を深めること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学特論Ⅱ（フィジカルアセスメント）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	松本幸枝、中島洋一、路璐、水上暁、中路聡、安藤哲郎、小原まみ子、村上楽、吉田明人
授業概要	クリティカルケア領域におけるフィジカルアセスメントや臨床推論について学び、臓器機能不全がある対象者の看護実践や、回復過程にある対象者の支援に活かす。
到達目標	1．クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメントとイグザミネーションを習得し、看護実践に応用できる。 2．クリティカルケア領域での臨床推論・臨床判断について説明できる。 3．クリティカルケア領域での子どものフィジカルアセスメントするための知識と技術を習得する。 4．クリティカルケア領域での高齢者のフィジカルアセスメントをするための知識と技術を習得する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	臨床推論と臨床判断・フィジカルアセスメント	松本
2－3	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント：ACS・急性心不全	水上
4－5	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント：不整脈	水上
6	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント：消化器系疾患	中路
7	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント：呼吸不全	松本
8	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント：脳血管障害	安藤
9	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント：急性腎機能障害	小原
10	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント：小児	村上
11	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント：高齢者	吉田
12	クリティカルケア領域でのフィジカルアセスメント ：救急外来受診時の精神症状	中島
13－15	課題：第１－11回で学んだ知識を活用し、フィールドで 看護師を対象としたフィジカルアセスメントの学習計画を立案する。 フィジカルアセスメントのプレゼンテーションを行い、その結果を考察する。	松本・路璐

教科書	特に指定しない。
参考書	・Bickly, LS(著)、福井次矢(監訳)(2015)：ベイツ診療法(第３版)、メデイカル・サイエンスインターナショナル ・酒井健雄編集(2017)：人体の正常構造と機能、日本医事新報社 ・その他、適宜紹介
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示された資料を読んでくること。 事後学習：疑問点を整理し、関連した文献等を調べ、理解を深めること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学特論Ⅲ（治療管理）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	松本幸枝、不動寺純明、田中美千裕、林淑朗、草薙洋、田邉大明、水上暁、関根広介、鵜澤吉宏
授業概要	クリティカル状況下にある対象者の生体侵襲を理解し、必要な治療や検査ついて学修することで、科学的根拠に基づいた高度な看護実践について修得できる。
到達目標	1．クリティカル状況下にある循環器疾患、呼吸器疾患、腎臓、消化器、脳血管障害がある対象者と、必要な治療について理解し、説明ができる。 2．クリティカル領域特有の、外傷や熱傷、急性薬物中毒によって治療が必要となった対象者とその治療について理解し、説明ができる。 3．高度侵襲手術、生命維持装置やデバイスなどの先端医療を必要とする対象者とその治療について理解し、説明できる。 4．身体侵襲を伴う対象者の回復過程を理解し、予防行動の看護実践につなげることができる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	侵襲と治療	松本
2	診察と治療　外傷	不動寺
3	診察と治療　急性薬物中毒	不動寺
4	診察と治療　熱傷	不動寺
5	診察と治療　急性脳血管障害	田中
6	診察と治療　急性呼吸不全	林
7	診察と治療　ショック	林
8	診察と治療　せん妄	林
9	開腹術/術前・術中・術後の管理	草薙
10	開心術/術前・術中・術後の管理	田邉
11	心疾患の治療と管理/デバイス	水上
12	人工呼吸器および補助循環の治療と管理	関根
13	感染管理と人工呼吸器離脱に向けたケアと管理	松本
14	ICU-AW のアセスメントと予防的リハビリテーション	鵜澤
15	課題：第１－14回で学んだ知識を活用し、クリティカルケアを必要とする事例を看護展開しプレゼンテーションする。 科学的根拠を基に自己の看護を考察する。	松本

教科書	特に指定しない。
参考書	・清水敬樹(2019)：改正版 ICU 実践ハンドブック、羊土社 ・市川幾恵(2014)：ICU 版意味づけ経験知でわかる病態生理看護過程、日総研 他、適宜紹介
評価方法・基準	討議への参加度(60%)レポート(40%)とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示された資料を読んでくること。 事後学習：疑問点を整理し、関連した文献等を調べ、理解を深めること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学特論Ⅳ（ケアの専門性）	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	松本幸枝、奥脇和男、比田井理恵、赤池麻奈美、原田恵美子、前田浩
授業概要	救急看護のサブスペシャリティ、並びに看護ケアの専門的実践力を養う。
到達目標	1．クリティカル状況下にある対象者やその家族に対して専門性の高い看護実践について学修し、専門的看護実践について探求できる。 2．クリティカル状況下にある対象者やその家族に対して、他職種との調整やチーム医療の促進など、高度実践看護師の役割を述べることができる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	クリティカルケア領域における看護モデル（Synagy model など）	松本
2	救命救急治療を受ける対象者とその家族への高度実践看護：トリアージ	奥脇
3	救命救急治療を受ける対象者とその家族への高度実践看護：熱傷患者	奥脇
4	救命救急治療を受ける対象者とその家族への高度実践看護：薬物中毒	奥脇
5	救命救急治療を受ける対象者とその家族への高度実践看護：外傷	比田井
6	救命救急治療を受ける対象者とその家族への高度実践看護：意識障害	比田井
7	救命救急治療を受ける対象者とその家族への高度実践看護 ：ドクターカー・フライトナースの役割	比田井
8	災害看護における高度実践看護	赤池
9	クリティカルケア領域で治療受ける対象者とその家族へ 高度実践看護：創部処置	原田
10	緊急手術及び高度侵襲手術・ハイリスク因子をもつ対象者への 高度実践看護：手術室看護	前田
11	緊急手術及び高度侵襲手術・ハイリスク因子をもつ対象者への 高度実践看護：術前から術後まで	松本
12	救命救急治療を受ける対象者とその家族への高度実践看護 ：CPA で搬送された患者の家族支援（グリーフケア）	松本
13	救急領域に必要な他職種連携	比田井
14－15	第１－13回で学んだことを統合し、 自己のサブスペシャリティについて展望する。	松本

教科書	指定なし
参考書	適宜紹介
評価方法・基準	討議への参加度（60%）、レポート（40%）とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示された資料を読んでくること。 事後学習：疑問点を整理し、関連した文献等を調べ、理解を深めること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学演習Ⅰ（意思決定と倫理）	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	松本幸枝、中島洋一、足立智孝、遠藤奈津美、比田井理恵、小島朗
授業概要	クリティカル状況下でおきる治療の選択や中止など、意思決定を含む倫理的問題について熟考し、解決するための実践力を身につける。
到達目標	1．クリティカルな状況にある対象者及びその家族への、倫理的調整の役割について説明することができる。 2．対象者の権利を擁護し、自己決定を支援する方略を検討し、説明することができる。 3．自己決定できない対象者とその家族を含む看護の支援について説明することができる。
履修条件	特になし
授業計画	

回	内容	担当教員
1－2	クリティカルケア領域における対象者に生じやすい倫理的問題	松本
3－4	クリティカルケア領域における家族に生じやすい倫理的問題	松本
5－6	クリティカルな状況下における権利擁護/患者とその家族を含むアドボカシー	松本
7－8	インフォーム・ド・コンセントの理論	松本
9－10	クリティカルケア領域におけるシェアードデジジョンメイキング	松本
11－12	クリティカルケア領域における倫理指針/看護師の責務と協働性	松本
13－14	クリティカルケア領域における終末期の倫理的問題	松本
15－16	クリティカル領域における道徳的理論と法律的理論	足立
17－18	脳死判定・臓器提供における倫理的問題	比田井
19－20	移植医療と補助人心臓装着の倫理的問題	遠藤
21－22	クリティカルケア領域における倫理教育/看護師の倫理的感受性	松本
23－24	クリティカルケア領域における倫理のコンサルテーションの実際	小島
25－26	クリティカルケア領域における倫理のコンサルテーションの実際	中島
27－28	倫理的課題に対するフィールドワーク	松本
29－30	課題：第1－28回で学んだ知識を活用し、倫理的問題が生じた事例について分析し、考察する。	松本

教科書	特に指定しない。
参考書	・臨床倫理臨床死生学テキスト編集委員会(2014)：テキスト臨床死生学 日常生活における「生と死」の向き合い方、勁草書房 ・Albert R. Jonsen/赤林朗監訳(2006)CLINICAL ETHICS Fifth Edition/臨床倫理学 第5版、新興医学出版社 ・Anne J. Davis/小西恵美子監訳(2008)：Essential of Teaching and Learing in Nursing Ethics/看護倫理を教える・学ぶ その他、適宜紹介
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示された資料を読んでくること。 事後学習：疑問点を整理し、関連した文献等を調べ、理解を深めること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学演習Ⅱ（疼痛緩和）	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	松本幸枝、舟越亮寛、淵本雅昭、千葉恵子、小島朗、松谷典洋
授業概要	クリティカルの状況下にある対象者やその家族を含む苦痛や苦悩を理解し、エビデンスに基づいた疼痛緩和や軽減する方法を学修する。
到達目標	1．クリティカルの状況下にある対象者やその家族にもたらす全人的な苦痛・苦悩ついて学び、説明できる。 2．苦痛を軽減、または緩和するための方法、処置を学び、効果判定についての実践力を養う。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1－2	クリティカル状況下にある患者の病の体験/苦悩について	松本
3－4	疼痛のアセスメントと疼痛尺度	松本
5－6	苦痛緩和・症状マネジメントに関する理論	松本
7－8	安楽の評価とコンフォートケア	松本
9－10	薬剤師による鎮痛管理/急性疼痛	舟越
11－12	看護師による鎮痛管理/急性疼痛	淵本
13－14	看護師による鎮痛管理/慢性疼痛	千葉
15－16	クリティカル状況下における対象者の身体的苦痛とコントロールの実際/呼吸困難感	松本
17－18	クリティカル状況下における対象者の身体的苦痛とコントロールの実際/倦怠感、浮腫	小島
19－20	クリティカル状況下における対象者の精神的苦痛とコントロールの実際/抑うつ	松谷
21－24	クリティカル状況下にある患者とその家族の苦痛と苦悩の理解（文献学習）	松本
25－28	クリティカル状況下における対象者の苦痛緩和のフィールドワーク	松本
29－30	課題：第1－28回で学んだ知識を活用し、苦痛を伴う患者及びその家族への介入事例をプレゼンテーションし、自己の看護について考察する	松本

教科書	特に指定しない。
参考書	・Arther W.Frank/鈴木智之翻訳（2002）：THE WOUNDED STORYTELLER/傷ついた物語の語り手、ゆみる出版 ・Arthur Kleinman/江口重幸訳（2015）：THE ILLESS NARRATIVES/病の語り、誠信書房 ・下地恒毅（2018）：痛みを和らげる科学、サイエンス・アイ新書 ・田口敏彦監修（2020）：疼痛医学、医学書院 ・Jenny Strong/熊澤孝郎監訳（2010）：痛み学、名古屋大学出版会 ・適宜紹介
評価方法•基準	討議への参加度（60%）、レポート（40%）とし、総合的に評価する。
事前•事後学習	事前学習：事前に提示された資料を読んでくること。事後学習：疑問点を整理し、関連した文献等を調べ、理解を深めること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学演習Ⅲ（ケアとキュアの統合）	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	松本幸枝、細萱順一、春名寛香、小島朗、古賀雄二、飯塚裕美
授業概要	クリティカル状況下にある対象者の回復に向けた、ケアとキュアが融合した介入及び家族に対する援助的介入を学び、実践力を養う。
到達目標	１．クリティカル状況下にある対象者の早期回復に向けた看護援助を検討することができる。 ２．高度実践看護師としての役割について理解し、今後の高度実践看護師としての自己の役割について考察する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
１－２	クリティカルケア領域における高度実践看護師の役割	松本
３－４	クリティカルな状況下にある対象者と家族のアセスメントと高度実践看護：援助関係論、家族看護論	松本
５－６	クリティカルな状況下にある対象者と家族のアセスメントと高度実践看護：呼吸不全	松本
７－８	クリティカルな状況下にある対象者と家族のアセスメントと高度実践看護：循環不全	松本
９－10	クリティカルな状況下にある対象者と家族のアセスメントと高度実践看護：中枢神経障害	小島
11－12	クリティカルな状況下にある対象者と家族のアセスメントと高度実践看護：侵襲・重症感染症	細萱
13－14	クリティカルな状況下にある対象者と家族のアセスメントと高度実践看護：PICS/ICU-AW の予防と看護ケア	春名
15－16	クリティカルな状況下にある対象者と家族のアセスメントと高度実践看護：せん妄	古賀
17－18	クリティカルケア領域における医療と管理	飯塚
19－20	他職種連携とチーム医療：NST・RCT・緩和ケア21-22 クリティカルケア領域におけるチーム・組織診断	松本
21－22	クリティカル領域におけるチーム・組織診断	松本
23－24	フィールドワーク（チーム及び組織診断）とプレゼンテーション	松本
25－26	クリティカルケア領域におけるスタッフ教育	松本
27－28	フィールドワーク（教育計画）とプレゼンテーション	松本
29－30	第１－28回で学んだことから、自己の今後の役割について考察する	松本

教科書	特に指定しない。
参考書	・Ann B. Hamric/中村美鈴ほか監修（2017）：高度実践看護統合的アプローチ、ヘルス出版 ・Edgar H. Schein/稲葉元吉訳（2018）：Process Consultation Revisited Buiding the Helping Relationship/プロセスコンサルテーション第16版、白桃書房 ・Avedis Donabedian/東尚弘訳（2007）：医療の質の定義と評価方法、認定 NPO 法人健康医療評価機構 ・Paul L. Marino/稲田英一監修（2015）：the ICU Book 第４班、メディカル・サイエンスインターナショナル ・清水敬樹（2019）：改正版 ICU 実践ハンドブック病態ごとの治療・管理の進め方、羊土社 他、適宜紹介
評価方法・基準	討議への参加度（60％）、レポート（40％）とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：事前に提示された資料を読んでくること。 事後学習：疑問点を整理し、関連した文献等を調べ、理解を深めること。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学実習Ⅰ（役割機能の実習）	1	後期	2	実習 90時間

担当教員	松本幸枝
授業概要	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習を基に、急性・重症患者看護専門看護師の役割と機能について学修し、急性・重症患者看護専門看護師としての実践能力の基礎を養う。
到達目標	急性・重症患者看護専門看護師の役割（実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整）について急性・重症患者看護専門看護師に同行し、指導のもとで実践することで、急性・重症患者看護専門看護師の役割理解を深めるとともに、急性・重症患者看護専門看護師としての役割を探究する。
履修条件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ・クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲを修得していること。
授業計画	1．急性・重症患者看護専門看護師の役割と機能について、急性・重症患者看護専門看護師のからオリエンテーションを受け、急性・重症患者看護専門看護師の活動に同行し、実践、コンサルテーション、調整、教育、研究、倫理調整の役割と機能について、シャドーイングを通して見識を深める。 2．実習終了時、急性・重症患者看護専門看護師とカンファレンスを実施し、急性・重症患者看護専門看護師の役割と機能について、ディスカッションを通して学びを共有する。 3．最終カンファレンスにおいて、CNS の役割と機能について学修した内容を発表し、ディスカッションを通して、学びを共有する。
教科書	特に指定しない。
参考書	・Ann B. Hamric/中村美鈴ほか監修（2017）：高度実践看護統合的アプローチ、ヘルス出版 ・Edgar H. Schein/稲葉元吉訳（2018）：Process Consultation Revisited Buiding the Helping Relationship/プロセスコンサルテーション第16版、白桃書房
評価方法•基準	討議への参加度（20%）、レポート（80%）とし、総合的に評価する。
事前•事後学習	事前学習：実習前に提示された資料を読んでおく。 事後学習：実習の後関連した文献等を含め、実践を振り返り考察する。
備考	実習場所：亀田総合病院・聖路加国際病院・千葉県救急医療センター・ かわぐち心臓呼吸病院 実習期間：2024年２月から２週間（５日/週×２週間）

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学実習Ⅱ（診断・治療学実習）		2	前期	3	実習 135時間
担当教員	松本幸枝				
授業概要	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲの学修をもとに、専門的な病態判断能力と療養生活における問題解決能力を習得する。				
授業目的・目標	ICU、ER、および手術室など、クリティカル状況下にある対象者の臨床推論やフィジカルアセスメントによる臨床診断・治療について、医師の診察・治療場面に同席し、専門的な病態判断能力と療養生活における問題解決能力を習得する。また、質の高いケアを提供するために、多職種と協働する能力を養う。				
履修条件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ・クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲを修得していること。				
授業計画	1．関心領域のクリティカル状況下にある対象者を診療する場（ICU・ER 手術室及びカテーテル室・HCU・関連病棟）で医師と供に対象者の診察を行い、診断・治療方針の決定に至る思考プロセスを説明し、医師からのコメントをもらう。 2．様々な診療技術や病態生理学の知識及び臨床薬理学の知識を活用して、クリティカル状況下にある対象者の重症度や回復の状態についてアセスメントする。 3．医学アセスメントをもとに、対象者の生活に及ぼす影響を看護の立場からアセスメントする。 4．他職種と協働し、必要に応じてカンファレンスを行いながら問題解決への方略を検討する。 5．診断・治療に必要な実践・連携等を通して、高度実践看護師として活躍する上での課題を明確にできる。 6．実習終了時、教員とカンファレンスを実施し、ディスカッションを通してクリティカル状況下にある対象者の治療や処置、診断プロセスについて理解し、医療チームにおける高度実践看護師の役割について考察する。				
教科書	特に指定しない。				
参考書	適宜紹介				
評価方法・基準	討議への参加度（20%）、レポート（80%）とし、総合的に評価する。				
事前・事後学習	事前学習：実習前に提示された資料を読んでおく。 事後学習：実習の後関連した文献等を含め、実践を振り返り考察する。				
備考	実習場所：亀田総合病院 実習期間：2024年５月～６月の間の３週間（５日/週×３週間）				

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学実習Ⅲ（地域連携に関する実習）		2	前期	1	実習45時間
担当教員	松本幸枝				
授業概要	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、クリティカルケアからシームレスな地域、在宅への移行と連携について、また、対象者を中心とした地域連携における急性・重症患者専門看護師の役割と機能について考察する。				
到達目標	プレホスピタル、また退院後にクリティカルケア看護を必要とする対象者へ直接的看護介入を実施する。医師または看護師にスーパービジョンを受けることで、患者理解とともに、クリティカルケアにおける地域連携について考察する。				
履修条件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ・クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲを修得していること。				
授業計画	１．救急自動車に同乗し、救命救急士の指導のもと、対象者に救急蘇生法を行う。 ２．突然の出来事によって緊急搬送を要請した、心理的危機的状況にある家族への看護介入を行う。 ３．プレホスピタルの役割と地域連携について考察する。 ４．在宅でクリティカルケア看護が必要な対象者に、看護師の指導のもと在宅酸素療法への看護介入、人工呼吸器装着した患者の看護介入、気道クリアランスに関連した看護介入を行う。 ５．在宅でクリティカルケアが必要な患者とその家族の生活環境を考察し、コンフォートケアについて提案できる。 ＊詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。				
教科書	指定なし				
参考書	適宜紹介				
評価方法・基準	討議への参加(20%)、レポート(80%)とし、総合的に評価する。				
事前・事後学習	事前学習：実習前に提示された資料を読んでおく。 事後学習：実習の後関連した文献等を含め、実践を振り返り考察する。				
備考	実習場所：館山消防署・亀田訪問看護センター 実習期間：2024年６月の１週間(４日/週×１週間)				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学実習Ⅳ（統合実習）	2	前期	4	実習 135時間

担当教員	松本幸枝
授業概要	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ、クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲの学修をもとに、急性・重症患者専門看護師の役割と機能を学習し、高度実践専門看護師としての役割を理解し、実践する。
到達目標	関心領域において複雑で対応困難な問題を持つクリティカル状況下にある対象者とその家族の包括的アセスメント、直接的支援、他職種との連携、病棟看護師へのコンサルテーションおよび教育活動、臨床看護師への研究指導などを実践し、高度実践看護師として活動するための実践力を育成する。また、実施した活動を内省し、急性・重症患者看護専門看護師として活躍する上での課題を探求する。
履修条件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ・クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲを修得していること。
授業計画	１．複雑で対応困難な問題を持つクリティカル状況下にある対象者とその家族への直接的支援２事例（２週間） ２．急性・重症患者看護専門看護師としての役割実践（２週間） １）病棟看護師に対するコンサルテーション ２）対象者と家族が抱える倫理的課題の調整 ３）臨床看護師への研究指導 ４）多職種との連携や調整 ５）病棟の看護の質向上を目指した学習会の企画と実施 ６）チーム医療を推進するためのコーディネーション ３．実習終了時、急性・重症患者看護専門看護師とカンファレンスを実施し、ディスカッションの中で急性・重症患者看護専門看護師として活躍する上での課題を探求する。
教科書	特に指定しない。
参考書	・Ann B. Hamric/中村美鈴ほか監修（2017）高度実践看護統合的アプローチ、ヘルス出版 ・Edgar H. Schein/稲葉元吉訳（2018）：Process Consultation Revisited Buiding the Helping Relationship/プロセスコンサルテーション第16版、白桃書房
評価方法・基準	討議への参加度（20％）レポート（80％）とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：実習前に提示された資料を読んでおく。 事後学習：実習の後関連した文献等を含め、実践を振り返り考察する。
備考	実習場所：亀田総合病院 実習期間：2024年６月～８月の間の４週間（５日/週×４週間）

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
クリティカルケア看護学課題研究	2	通年	2	講義 30時間

担当教員	松本幸枝
授業概要	クリティカルケア看護学特論およびクリティカルケア看護学演習の学びをもとに、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献検討を行う。先行研究のエビデンスをもとに、クリティカルケア看護学の実践に役立つ論文としてまとめる。
到達目標	1．関心があるテーマについて系統的な文献検察を行い、研究の動向を把握する。 2．先行研究のエビデンスをもとに、クリティカルケア看護学の実践に役立つ論文としてまとめる。
履修条件	クリティカルケア看護学特論Ⅰ～Ⅳ・クリティカルケア看護学演習Ⅰ～Ⅲを修得していること。
授業計画	回　内容　担当教員 1－15　文献検討と個別面談。　松本
教科書	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、レポート(40%)とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	特になし
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学特論Ⅰ （プライマリヘルスケアにおける NP のコンピテンシー）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	長江弘子、千葉恵子、飯塚裕美、酒井武志、黒田宏美、那須真弓
授業概要	わが国のプライマリケア看護を発展させていくために地域における医療・保健・福祉の現状と特徴を理解する。地域の生活文化に即したエンドオブライフケアを基盤としたナースプラクティショナーに必要な能力と役割、専門性について学修する。また、高度実践看護師の活動に必要な根拠ある介入方法、連携と協働の理論と応用、地域特性に応じた高度な看護実践の基盤となる能力や教育について学修する。
到達目標	1．プライマリヘルスケアにおけるエンドオブライフケア高度実践看護師の養成の必要性を理解できる。 2．プライマリヘルスケアとプライマリケア、エンドオブライフケアの概念定義とその関連性について説明できる。 3．プライマリヘルスケアにおけるエンドオブライフケア高度実践看護師の定義とコアコンピテンシーと教育を説明できる。 4．プライマリヘルスケアにおけるエンドオブライフケア高度実践看護の重要概念を列挙し説明できる。 5．プライマリヘルスケアにおいて有効と考えられる理論を説明できる。 6．わが国の生活文化にあったエンドオブライフケアの在り方と高度実践看護師の役割や専門性について説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	高度実践看護師制度の変遷と現状 オリエンテーション：本コースのねらいと人材像、課題と評価方法について	長江
2	プライマリ・ヘルス・ケアとプライマリ・ケア、エンドオブケアの概念を踏まえ、 エンドオブライフケアを基盤にしたナースプラクティショナーの存在意義について	長江
3	高度実践看護師に必要な実践能力（コアコンピテンシー）と役割、教育： 多様な場における高度実践看護師を比較して	飯塚
4	高度実践看護師に必要な実践能力（コアコンピテンシー）と役割：クリティカル ケア専門看護師の実践からプライマリケアナースプラクティショナーの役割を考える	酒井
5	高度実践看護師に必要な実践能力（コアコンピテンシー）と役割：がん看護 専門看護師の実践からプライマリケアナースプラクティショナーの役割を考える	黒田
6	高度実践看護師に必要な実践能力（コアコンピテンシー）と役割：ICU における NP としての実践からプライマリケアナースプラクティショナーの役割を考える	
7	高度実践看護師に必要な実践能力（コアコンピテンシー）と役割：ICU における NP としての実践からプライマリケアナースプラクティショナーの役割を考える	那須
8－9	イギリスや米国のナースプラクティショナーの現状と課題、 わが国での課題と展望	千葉
10－11	プライマリヘルスケアとチームアプローチ（連携と協働）の理論、 専門職連携教育と必要とされる実践能力	千葉・長江
12－13	APN の概念、自分の実践領域における APN について、なりたい APN に向けて自分に必要なコンピテンシーについて並びに我が 国におけるプライマリヘルスケアにおけるナースプラクティショナーの役割	千葉・長江
14－15	わが国のエンドオブライフケアの達成にむけてのナースプラク ティショナーの職域における課題を取り上げ、その対策について検討する。	長江・千葉

教科書	Ann B. Hamric　他（著）：高度実践看護―統合的アプローチ、へるす出版（2017）
参考書	廣井良典（2000）：ケア学，医学書院、三井さよ（2004）：ケアの社会学，勁草書房、三井さよ、鈴木智之編著（2012）：ケアのリアリティー境界を問い直すー，法政大学出版局、メイヤロフ（1993）：ケアの本質，ゆみる出版、山本多喜司/S・ワップナー（2002）人生移行の発達心理学，北大路書房、長江弘子（2016）：生きるを考える，日本看護協会出版会、E.H.エリクソン・J.M.エリクソン（2001），村瀬孝雄・近藤邦夫訳：ライフサイクル，その完結，増補版，みすず書房、長江弘子（2014）：看護実践に生かすエンドオブライフケア、日本看護協会出版会、Ebersole, P. & Hess P.（2004）: Toward Health Aging: Human Needs and Nursing Rsponse, 7th edition, Mosby
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション（50％）、討論の内容（50％）で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学特論Ⅱ（EOL 実践と理論的基盤）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	長江弘子、足立智孝
授業概要	住み慣れた地域で最期まで「自分らしく生きる」という生涯にわたる生と死の問題について、医学、看護学だけではなく、倫理学、哲学、法学、文学、歴史などを学びながら、生きる意味や Quality of Life について考察し、人間の尊厳や本質について学修する。地域の文化や規範と地域文化、社会規範の中で生きる人々の「生老病死」について考え、エンドオブライフケア実践の理論的基盤となる成人学習理論、臨床哲学、ナラティブ・アプローチ、意思決定理論などを適用し地域に特有な文化的視座に基づくエンドオブライフケアを基盤にしたナースプラクティショナーの存在意義について探求する。
到達目標	1．非がん患者のエンドオブライフケアの歴史的経緯と重要概念について説明できる 2．疾患別・療養場所・年齢の違いに見るエンドオブライフケアの臨床的課題を整理することができる。 3．エンドオブライフケアの臨床的課題に対する方法論的アプローチについて学び、アセスメントと介入、評価について説明できる。 4．わが国の生活文化に即したエンドオブライフケアの諸理論（人間学、死生学、臨床哲学）を適用した対象理解の重要性を説明できる。 5．公共政策的視座から生活行動や心理に影響を与える地域環境等の人的・物理的環境、地域とのつながりの歴史の影響について、説明できる。 6．エンドオブライフケアに関連する諸制度の現状を知り、政策的課題について検討しエンドオブライフケアを基盤にしたナースプラクティショナーの課題について説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1－2	我が国における非がん患者のエンドオブライフケアに関する動向を踏まえ、疾患別のエンドオブライフケアのエビデンスを学修する。	長江
3－4	エンドオブライフケアにおける治療やケアのエビデンスを踏まえ、家族を含めた意思表明支援（アドバンスケアプランニング）について学修する。	足立・長江
5－6	エンドオブライフケアにおける症状緩和・疼痛コントロールにおける治療やケアのエビデンスを踏まえ、家族ケア、チームアプローチについてナースプラクティショナーとしての実践について学修する。	長江
7－8	質の高いエンドオブライフケアとは何か、実践の構成要素を明確にし、ナースプラクティショナーの実践におけるチームアプローチ、組織的アプローチの方法について学修する。	長江
9－10	エンドオブライフケアにおけるグリーフケア、スピリチュアルケア、倫理的課題について検討し、ナースプラクティショナーとしてアセスメント、実践、評価のアプローチ方法を学修する。	足立
11－12	日本人の死生観や生と死をめぐる人々の価値観の変化および地域の課題を検討し、エンドオブライフケアを支えるコミュニティの意味を探求する。	足立
13－14	看護学の諸理論からエンドオブライフケアの本質や哲学的基盤について探求する。また将来に向けてプライマリケアとエンドオブライフケアとのつながりを深め、ナースプラクティショナーの役割を考察する。	足立・長江
15	各自の実践領域におけるエンドオブライフケアの方法論的アプローチとその成果や評価方法について事例をとおして探求し、地域や医療制度の在り方の視点から、エンドオブライフケアを基盤にしたナースプラクティショナーの課題を検討する。	足立・長江

教科書	
参考書	平原佐斗司監修（2016）：非がん患者のエンドオブライフケア、南山堂．長江弘子（2014）：看護実践に生かすエンドオブライフケア、日本看護協会出版会．その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション（50%）、討論の内容（50%）で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学特論Ⅲ（小児看護）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	大野知代、吉野妙子
授業概要	乳幼児期、学童期、青年期とその家族を発達学的視点でとらえ、プライマリケアニーズを予測した健康教育と小児期に罹患しやすい疾病に関する高度な看護実践と生まれ育つ環境と成長発における依存と自律の概念に基づく子どもと家族の健康増進を行う知識・技術を学修する。さらに小児の健康問題に関して病院施設と地域とをつなげ生活を基盤とした持続的なケアシステムの構築やその評価方法を学修する。
到達目標	1．国内外を対象に子どもと家族の健康課題および小児保健看護の変遷を説明できる。 2．子どもの医療・福祉・教育に関する法や制度、政策の歴史と現状を説明できる。 3．子どもの疾病予防と健康増進のための活動、育児支援の現状と課題を説明できる。 4．子どもの発達、障害に関する諸理論を用いて、子どもによくみられる疾病や症状、その対処方法とその家族を含めた看護援助を説明できる。 5．多職種連携による育児支援、発達支援、健康増進、疾病予防活動について説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	オリエンテーション	大野
2	国内外の小児医療・福祉・教育、および小児保健・看護の歴史的変遷と課題野	大野
3－4	・小児に関する法律および小児保健・医療・福祉・教育制子どもの権利の現状と課題 ・子どもの発達、家族に関する諸理論と小児保健・看護への応用の可能性と課題	大野
5－6	・子どもの成長・発達及び健康障害のアセスメントと評価	大野
7－8	・子どもによくみられる疾病の特徴と看護援助（糖尿病・気管支喘息・アレルギー・感染症・ネフローゼ症候群・白血病・てんかん） ・子どもによくみられる症状の特徴と看護援助（発熱・脱水・呼吸困難・けいれん・嘔吐/下痢・不機嫌）	吉野
9－11	・地域で生活する子どもと家族を取り巻く社会環境、多職種連携による子どもの発達支援・疾病予防・育児支援・健康増進のための現状と課題 ・病気・虐待・発達障害等の子どもの特徴とエンドオブライフケア	大野・吉野
12－14	子どもに関わる多様な対象のヘルスプロモーションと健康教育の支援の実際（企画・運営・評価方法について）	大野
15	発表・討議：地域で生活する子どもの「いのちの健康教育」の実際と今後の課題	大野

教科書	特になし
参考書	適宜必要に応じて紹介
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション（30%）、講義および討議への内容（20%）、レポート（50%）とし、到達目標の達成度を含めて総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学特論Ⅳ （成人の看護とウィメンズヘルス）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	岡本明美、千葉恵子、松本幸枝、下睦子
授業概要	成人期にある人とその家族を発達段階の視点でとらえ、がん、慢性疾患、生活習慣病や成人および女性の生涯にわたる健康支援等を含めた成人期に特有で多様な健康課題の予防および治療に関する高度な看護実践に必要な知識と技術を学修する。特に、特有の健康課題を急性期から慢性期と変化を予測的に対応するためのエビデンスに基づいた介入方法およびその評価について探求する。
到達目標	1．成人期にある人とその家族の発達課題とその特徴について、発達理論や家族理論を用いて説明できる。 2．成人期の健康支援システムとして成人保健、生活習慣病予防及び重症化予防について説明できる。 3．成人期の健康課題を解決するための看護理論やモデルをもちいて、エビデンスに基づく高度な看護実践とその評価方法について説明できる。 4．成人期に生じるがん、慢性疾患など代表的な健康課題とアセスメントおよび看護援助について説明できる。 5．女性の生涯にわたる健康課題に関して、ウーマンズヘルスの観点から健康増進、及び重症化予防について法制度を踏まえ説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	地域で暮らす成人期にある人とその家族の発達課題と健康支援システムについて学ぶ	岡本
2－3	地域で暮らす成人期にある人の保健制度や事業、生活習慣病とその重症化予防について、学修する。	岡本
4－5	成人期の発達課題と主な健康課題を解決するために必要な看護理論を用いて対象理解と看護実践とその評価までの展開を学ぶ。 （例：危機理論、ストレスコーピング理論、適応理論、健康の全体性理論など）	岡本
6－7	成人期の健康課題をもつ人と家族に対するアセスメントと看護援助：急性期疾患、救急（心疾患、脳血管疾患、ショック、外傷時）	松本
8－9	成人期の健康課題を持つ人と家族に対するアセスメントと看護援助：慢性疾患（高血圧、COPD、糖尿病、腎・肝疾患）、がん（肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がんなど）	千葉
10－11	成人期特有の健康課題を抱えた患者・家族に対する質の高いエンドオブライフケアを提供するための看護実践とチームアプローチについて学修する。	千葉
12－13	地域で生活する女性の生涯にわたる健康支援①：思春期から高齢期までの健康課題をウーマンズヘルスの観点から法制度を踏まえて学修する。	下
14－15	地域で生活する女性の生涯にわたる健康支援②：妊娠・出産・育児にかかわる地域母子保健における女性の健康課題とその支援システムを学修する。	下

教科書	
参考書	その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション（50％）、討論の内容（50％）で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学特論Ⅴ（高齢者の看護）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	長江弘子、吉田明人、原沢のぞみ、那須真弓、酒井武志
授業概要	高齢者とその家族の特徴を発達学的視点でとらえ老年期における健康問題、加齢による影響や変化を踏まえた疾病の予防と治療、そして人生の最終段階の治療やケアにおける課題を解決するための高度な看護実践の方略について学修する。さらに高齢者の健康と生活ニーズに関するアセスメントと看護実践により生活機能維持と生活の質向上に向けた支援（自立支援・リハビリテーション等）により持っている力を引き出し生きる力を維持する方略とその評価方法を学修する。
到達目標	1．高齢者とその家族の特徴と健康課題について説明できる。 2．高齢者のコモンディジーズの症状アセスメントと看護援助について説明できる。 3．高齢者の健康課題と重症化予防について説明できる。 4．高齢者のケアマネジメント及び継続看護マネジメントの理論と方法を理解し、高齢者の生活ニーズに沿ったアセスメントとその高度な看護実践について説明できる。 5．高齢者とその家族を支えるサポートシステムについて説明できる。 6．高齢者とその家族の健康課題を解決し、その人の望む生き方を支えるエンドオブライフケアの実践について説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	我が国における高齢者の特徴と健康課題、高齢者政策ならびに保健医療福祉政策についてプライマリケアの観点から整理する。	長江
2－3	高齢者のエンドオブライフケアに必要な理論や支援概念、看護実践モデルを学び、実践に適用し理解を深める。	長江
4	高齢者のフィジカルアセスメント	吉田
5－6	高齢者のコモンディジーズの症状アセスメントと看護援助：老化と老年症候群、認知症	那須
7－8	高齢者のコモンディジーズの症状アセスメントと看護援助：骨・関節系、皮膚・感覚器系、創傷管理	那須
9－10	高齢者のコモンディジーズの症状アセスメントと看護援助：高齢者の内服管理、呼吸器、消化器系、循環器系など	那須
11	高齢者の健康増進と重症化予防、地域における高齢者保健福祉政策と予防に関する支援：生活習慣病を例に	長江
12	高齢者の生活ニーズ把握の方法とアセスメント：臨床推論、ICF、健康の連続性、に基づきケアの継続性と時間軸で見据えるケア計画の展開方法について事例を通して理解する。	酒井
13	高齢者と家族のサポートシステムと地域包括ケアシステムにおける質の高い効果的な連携を探求する。	酒井
14	高齢者の健康課題とその解決方法に関するケースマネジメント及び継続看護マネジメントを活用し効果的な介入とその評価について探求する。	長江
15	日本における高齢者政策やケアシステムの将来に向けた展開についてNPとしての役割を探求する。	長江

教科書	
参考書	開講時に紹介する
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション（50%）、討論の内容（50%）で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学特論Ⅵ(メンタルヘルス)	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	田中美恵子、中島洋一、下睦子、松丸直美、松谷典洋
授業概要	あらゆる発達段階にある人々の精神的健康問題について理解し、代表的な疾患の病態、治療にいて学び、精神障害とともに生きる人々と家族が地域で安心して生活し続けるための看護援助、ならびに地域における精神保健活動について学修する。
到達目標	1．精神保健問題の現状と課題、精神保健医療福祉施策体制について理解できる。 2．精神保健の概念および精神疾患の体系を理解し、代表的な精神疾患の病態、精神保健問題の特徴について理解できる。 3．精神機能の評価とアセスメント方法について理解できる。 4．援助関係の形成技法を理解するとともに、精神看護で用いられる主要な理論・モデル、治療技法について理解できる。 5．精神科リハビリテーション訪問看護、当事者活動、家族支援について理解できる。 6．せん妄、物質依存、子どものメンタルヘルス、周産期のメンタルヘルス、災害時のメンタルヘルスなど、地域のメンタルヘルス支援について理解できる。 7．精神障害者のための地域包括ケアシステムの実際について理解できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	精神保健問題の現状と課題、精神保健医療福祉施策	田中・松丸
2	精神保健の概念、精神疾患の疾患体系(ICD/DSM)と今日の精神保健問題(ひきこもり、虐待、自傷行為等)	田中
3	主要精神疾患の理解(統合失調症・うつ病、アルコール依存症、薬物依存症、摂食障害等)	田中
4	精神機能の評価とアセスメント(MSE)	田中
5	援助関係の形成技法(対人関係論的アプローチ)	田中
6	主要な理論・モデル(ストレス―脆弱性モデル、リカバリーモデル)治療技法(精神療法・認知行動療法)	田中
7	精神科薬物療法と心理教育	中島
8	精神科リハビリテーション(SST 就労支援)、訪問看護、当事者活動(ピアカウンセリング)、家族支援	田中・松丸
9	せん妄と高齢者のメンタルヘルス	松谷
10	物質依存とセルフヘルプグループ	中島
11	自殺予防(学校・地域・職域における自殺予防)	田中
12	子どものメンタルヘルス(発達障害・学習障害等)	田中・松丸
13	周産期メンタルヘルス(マタニティーブルー、虐待)	下
14	災害時のメンタルヘルス(PTSD、グリーフケア)	田中
15	精神障害者のための地域包括ケアと多職種連携	田中・松丸

教科書	特になし
参考書	その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・基準	事前学習(20%)、プレゼンテーション(40%)、討論の内容(30%)、レポート(10%)で評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと(1時間程度)。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること(2時間程度)。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
ヘルスプロモーション学特論	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	長江弘子、鶴岡章子、川上裕子、野村浩子、田中和代、志村千鶴子
授業概要	地域社会における生活習慣病等の疾病予防管理、および次世代の社会を支える健康づくりと QOL の向上、ケアの必要性を踏まえ地域アセスメント、保健医療計画立案までのプロセスを進めるうえでの知識基盤を学修する。そのうえで、高度実践看護師として必要な健康増進、健康教育とヘルスプロモーションの方法論を学修する。
到達目標	1．健康教育とヘルスプロモーションの歴史的、理論的背景を理解できる。 2．健康教育とヘルスプロモーションに適用できる理論や概念、モデルについて理解できる。 3．プライマリケア NP の活動に活用できるヘルスプロモーションと健康増進能力向上に向けたアセスメントと介入計画とその評価方法を説明できる。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容　担当教員 1－2　オリエンテーションヘルスプロモーションと健康教育の歴史的、理論的背景、理論の適用(健康信念モデル、変化のステージモデル、社会的認知理論など)、理論と実践(プリシード・プロシードモデルなど)、ヘルスプロモーションと健康行動の理論の基礎と国内外の動向を学ぶ　川上 3－4　多様な場(家庭、学校、職場、地域等)における健康教育とヘルスプロモーションのためのコミュニティアセスメントの理論と実践－行政・学校・住民・関係者協働の健康増進計画立案と健康教育の展開、評価－　鶴岡 5－6　多様な場(家庭、学校、職場、地域等)における健康教育とヘルスプロモーションの理論と実践－生涯の健康を見据えた小児からの健康教育の展開(骨粗鬆症予防、足の健康等)－　鶴岡 7－8　多様な場(家庭、学校、職場、地域等)における健康教育とヘルスプロモーションの理論と実践－職域におけるメンタルヘルス対策を中心とした健康教育の展開－　川上 9－10　多様な場(家庭、学校、職場、地域等)における健康教育とヘルスプロモーションの理論と実践－フレイル予防のための健康教育の展開－　川上 11－12　ウィメンズヘルスに関わる多様な対象のヘルスプロモーションと健康教育の理論と実践(産後うつ、虐待予防(子育て支援)、尿失禁、更年期、骨粗しょう症等)　志村 13－14　鴨川市における健康教育とヘルスプロモーションの取り組み　野村・田中 15　地域特性を踏まえた健康づくりと QOL の向上を目指し、エンドオブライフケアを基盤としたナースプラクティショナーに求められるヘルスプロモーション・健康教育の展開に関する今後の課題と研究課題を検討する。　長江
教科書	適宜提示する。
参考書	日本健康教育士養成機構：新しい健康教育、保健同人社、2011．日本健康教育学会編、健康教育　ヘルスプロモーションの展開、保健同人社、2005．その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・基準	事前準備とプレゼンテーション(50%)、討論の内容(50%)で総合的に査定し、到達目標の達成度で評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用すること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
プライマリヘルスケア技術特論	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	長江弘子、栗栖千幸、松本幸枝、岡田唯男、岩間秀幸、鈴木崇浩、北浦幸一、鈴木早苗、佐々木真弓、吉野有美子
授業概要	プライマリケア看護におけるあらゆる発達段階にある人々を対象とした典型的にみられる疾病(common disease)およびその症状についてそのメカニズムを踏まえたうえで、問診、視診触診等を通して、臨床所見と主訴から臨床推論、鑑別診断、臨床検査、臨床判断の手法を活用し、症状に関する包括的アセスメントや症状マネジメントの方略(薬理・非薬理学的療法を含む)について学修する。また疾病治療のための薬物・非薬物療法に関する知識や既習の包括的アセスメント技法を活用し疾病予防から疾病管理までの方略を学修する。
到達目標	1．プライマリケアとは何か、臨床推論、トリアージ、家族ケアなど主要な概念を説明することができる。 2．地域のプライマリケア外来でよくみられる疾病(common disease)の症状の臨床判断、検査、治療(薬理・非薬理学的療法を含む)について説明できる。 3．地域のプライマリケア外来における急性疾患への初期対応、ならびに比較的軽い症状や慢性疾患を持つ様々な訴えに対して看護学の視点から包括的アセスメントを行い、症状マネジメントの方略について事例を用いて説明できる。 4．地域特性、文化的特徴を踏まえプライマリケア外来・クリニックにおける本人とその家族の治療や生活管理に関する意思表明支援(ACP)の看護実践の評価方法を説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	プライマリケアの基本	岡田
2	患者と家族のライフステージに応じたヘルスプロモーションと患者・家族教育と行動変容	鈴木
3	疾病予防と疾病管理：臨床推論、トリアージ	松本
4	生活習慣病・疾病予防	岡田
5	生活習慣病・慢性疾患の管理	岡田
6	コモン・ディジーズ、コモン・シンプトムへの対応認知症ケア、メンタルヘルス	岩間
7	地域連携とチーム医療及び組織マネジメント	岩間
8	画像診断：放射線診断 CT/MRI(頭部・胸部・腹部・関節疾患など)の理論と実際：典型的な症例を通して	鈴木
9	画像診断：超音波診断(腹部)の理論と実際：典型的な症例を通して	北浦
10－11	生活を基盤とした在宅で療養する人々へのケアマネジメント ：急性症状の初期対応に関する事例をもとに診療所と連携した在宅療養支援と訪問看護師の役割と必要な能力について学ぶ	栗栖
12－13	生活を基盤とした在宅で療養する人々へのケアマネジメント ：慢性疾患の病状の軌跡と生活管理を基盤にしたその人と家族の意向に即した最善の治療とケアに関する継続看護マネジメントを学ぶ	佐々木・長江
14－15	生活と医療を統合するエンドオブライフケアのプロセスにおける意思表明支援の理論的基盤を踏まえ、入退院支援における病状の軌跡に沿ったケアに関する今後の課題と研究課題を検討する。	吉野・長江

教科書	日本プライマリケア連合学会監修：プライマリケア看護学
参考書	コモンディジーズ　ブック、日常外来での鑑別と患者への説明のために、一般社団法人日本内科学会、専門部会編集、2016．新・総合診療医学、家庭医療学編、書林、2016．その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・基準	事前学習(20%)、プレゼンテーション(20%)、討論の内容(20%)、レポート(40%)で評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア管理学特論	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	休波茂子、足立智孝、高橋静子
授業概要	EOL ケアを提供するナースプラクティショナーが、専門的視点に基づきリスクを予測し対象及びその家族や関わる医療従事者の外的内的環境を整えることができるような体系的な取り組みや理論と対策を学修する。対象およびその家族や医療従事者が身体的にも精神的にも脅かされたり消耗したりすることのない状態を保証するために、医療倫理、安全管理とリスクマネジメントに関する高度な実践方法について学修する。そのうえで、対象にとって最適で最善なケアを効果的、効率的に提供するための提供体制を構築しケアの質向上に向けた方略的な実践活動について学修する。
到達目標	1．高度実践看護師の活動の基盤となる組織論、組織行動学について理解する。 2．医療倫理、安全管理とリスクマネジメントに関する高度な実践方法について理解することができる。 3．エンドオブライフケアのプロセスにおける本人とその家族のケアの質向上に向けた組織的課題と多職種との連携・協働について評価方法を説明できる。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容　担当教員 1－2　組織とマネジメント　休波 3－4　組織文化と医療文化、組織開発の理論と実際　休波 高度実践看護活動における組織開発の理論と実際 組織論、リーダーシップの理論 5－6　医療安全とリスクマネジメント　高橋 組織における安全文化の醸成と看護ケアの実践 7－8　エンドオブライフケアのプロセスにおける本人とその家族の　休波 ケアの組織的課題 エンドオブライフケアのプロセスにおける多職種との連携・協働における 評価と実際 9－10　医療倫理：看護師の倫理的課題　足立 看護管理者の役割と倫理的リーダーシップ 11－12　エンドオブライフケアに関する意思決定　足立 看護管理者の意思決定プロセスモデル 13－14　エンドオブライフケアに関する組織倫理の研究動向　足立 15　事例検討：エンドオブライフケアに関する意思決定プロセスモデルの活用　足立
教科書	特になし
参考書	リチャード・L. ダフト：(高木晴夫訳)組織の経営学、ダイヤモンド社、2016. 武村雪絵編集：看護管理に活かすコンピテンシー、メジカルフレンド社、2014. 吉武久美子：看護者のための倫理的合意形成の考え方・進め方、医学書院、2017. 勝原裕美子：組織で生きる、医学書院、2016. その他、必要に応じて紹介する。
評価方法・基準	事前学習(20%)、プレゼンテーション(40%)、討論の内容(30%)、レポート(10%)で評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
プライマリヘルスケア技術演習Ⅰ（臨床推論）	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	長江弘子、千葉恵子、橋本裕二、関根龍一、大川薫、土屋忠則、高梨弥生、大高理生、北浦寿子、小倉美輪、佐藤理子、川又幸子
授業概要	プライマリケア看護実践におけるあらゆる発達段階にある人々を対象とした典型的にみられる疾病(common disease)およびその症状について、問診、視診、触診等を通して、臨床所見と主訴から臨床推論に基づく包括的アセスメント、必要な検査の選択、エビデンスに基づく治療やケアの選択について病院や診療所などの外来患者を通して学修する。事例を用いた演習により、診断治療に関する一連の高度な実践力を身につける。
到達目標	１．典型的にみられる疾病として、主に慢性疾患のアセスメント、治療・処置、服薬指導・管理、必要なプロトコールの作成、看護援助が実施できる。 ２．病院外来や診療所での臨床推論を活用した初期症状の対応、必要な検査の選択、必要な専門職への照会ができる。 ３．地域の健康問題について、急性期医療機関においてエビデンスベースドプラクティスの概念に基づいた包括的アセスメントのもとに高度な看護実践と他職種との調整・連携活動について事例展開をもとに説明できる。 ４．継続した症状管理と自己管理能力育成のためのフォロアップに必要なシステムについて考え、活用できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	総合内科における診断学(臨床推論・トリアージほか)	
２－３	総合内科外来における症例に基づく問診・診断過程の実際	
4	急性冠症候群(ACS)/急性心不全の診断治療	
5	不整脈と心電図	
6	慢性心不全治療、心エコー	橋本
７－８	慢性疼痛と緩和ケア：診断と治療の実際(外来見学により患者の問診や所見、および治療を学ぶ)	関根
９－10	高度実践看護師の行う臨床推論②慢性疾患看護(リンパ浮腫ケア外来における実践を通して学ぶ/リンパ浮腫ケア外来演習で１例のケースレポートを作成する)	千葉
11－14	高度実践看護師の行う臨床推論①初療期・救急外来(呼吸器・心疾患・感染症・外傷・骨折など)の実践を通して学ぶ(救急外来演習半日を２回：２例のケースレポートを作成する)	土屋
15－16	高度実践看護師の行う臨床推論②慢性疾患看護(腎移植コーディネータとしての意思決定支援)の実践を通して学ぶ(透析外来演習で１例のケースレポートを作成する)	高梨
17－18	高度実践看護師の行う臨床推論②慢性疾患看護(腎不全・糖尿病など)の実践を通して学ぶ(腎臓内科外来演習で１例のケースレポートを作成する)	高梨
19－20	高度実践看護師の行う臨床推論②慢性疾患看護(遺伝性疾患、障害など)の実践を通して学ぶ(遺伝看護外来演習で１例のケースレポートを作成する)	小堀・大高
21－22	高度実践看護師の行う臨床推論②慢性疾患看護(がん化学療法など)の実践を通して学ぶ(がん化学療法外来演習で１例のケースレポートを作成する)	北浦
23－24	高度実践看護師の行う臨床推論②慢性疾患看護(外傷ケア、障害、セルフケアなど)の実践を通して学ぶ(ストマケア外来演習で１例のケースレポートを作成する)	佐藤・小倉
25－26	高度実践看護師の行う臨床推論②慢性疾患看護(腎不全・糖尿病・神経疾患・認知症など)の実践を通して学ぶ(糖尿病外来演習で１例のケースレポートを作成する)	川又
27－28	在宅診療における必要な治療とケアを提供する理論と実践(在宅診療に半日同行し見学し、患者・家族に問診や所見を聞き取り、ケースレポートを作成する)	大川
29－30	演習を通じて、EBP の概念に基づいた包括的アセスメントのもとに高度な看護実践と他職種との調整・連携活動について事例をもとに学習内容を発表し議論する。	長江

教科書	特になし
参考書	適宜紹介する。日本プライマリケア連合学会のプライマリケア看護師認定申請に用いる事例のまとめ方を参考とする。
評価方法・基準	外来演習では病院の外来もしくは在宅医療部において高度実践看護師の実践に同伴し外来指導に参画する。各診療科の講義を踏まえ講師とのカンファレンス等の質疑応答で理解を深める。各診療科の外来でそれぞれの典型的な事例についてケースレポートとしてまとめる。各診療科の外来での糖尿病、高血圧、腎不全、遺伝看護、ストマ外来、がん化学療法、在宅医療(小児と高齢者)の各１例のケースレポートを作成する。事前学習(10%)、プレゼンテーション(20%)、演習への参加度(40%)、レポート(30%)により総合的に評価する。日本プライマリケア連合学会のプライマリケア看護師の評価基準を参考とする。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んで参加する。事後には講義で学んだ技術を演習で応用する。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
プライマリヘルスケア技術演習Ⅱ （プライマリケア/コミュニティケア）	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	長江弘子、岡田唯男、岩間秀幸、鈴木早苗、野村浩子、田中和代、佐々木真弓、吉野有美子
授業概要	プライマリケア看護において求められる一般的な症状や健康増進に関する対象のヘルスリテラシーをアセスメントし、患者及び家族のセルフケア能力を高め、健康管理能力の向上への働きかけを学修する。また地域包括ケアにおける福祉制度や病院と地域をつなぐ医療・ケア提供のための関連法規や制度について理解するとともに地区組織活動や住民活動、ボランティアなど、公助、自助、互助、共助の在り方について考え、人々の生活と健康を支えるヘルスケアシステムについて事例を通して学ぶ。
到達目標	１．地域のアセスメントモデルを用いて地域の健康課題について説明できる。 ２．地域住民の健康課題を見出すための疫学的データの収集・分析し、包括的な課題を見出す。 ３．地域の保健・医療・看護の課題解決に必要な計画を立案することができる。 ４．患者及び家族の健康増進のための症状アセスメントと健康課題を見出すとともに、ヘルスリテラシーのアセスメントのもとに、個人あるいは集団のセルフケア能力を高め、健康管理能力の向上への働きかけの計画を立案する。 ５．地域で必要なエンドオブライフケア看護活動が説明できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
１－２	疾病予防と疾病管理に必要な理論と実践への適用 健康教育立案に向けての計画	長江
３－４	地域のアセスメントモデル理論と実際 館山市の地区診断に向けて計画立案	長江
５－６	以下、２日間の外来フィールドワークを実施する。 １）プライマリケア外来での臨床推論を活用した初期症状の対応、必要な検査の選択、必要な専門職への照会について学修する。 ２）当該地域の特性及び課題を踏まえ、診療に訪れた患者の包括的アセスメントのもとに高度な看護実践と他職種との調整について事例展開をもとに学修する。	岡田・岩間・鈴木
７－９	EBP に基づいた地域におけるプライマリケア看護活動における健康課題に関する方略や疾病予防に関する健康教育計画を立案する。 典型的な事例を提示し、臨床推論に基づく包括的なアセスメント、EBP に基づいた看護実践（予防、治療、ケア）、多職種との共同（住民含む）等を想定した看護援助や健康教育の方略について、小児から成人、高齢者の事例を基に展開する。	岡田・岩間・鈴木
10－13	館山市のフィールドワークで地区診断を実施する。 １）地域のアセスメントモデルに基づき保健・医療・福祉の既存資料を小児、成人、高齢者の視点で収集する。 ２）選定した地域の疫学データ（人口動態統計、人口静態統計など）の収集、分析方法、解釈及び図表の作成を行う。包括的な当初のアセスメントを行うことで、マンパワーの少ない中での住民を含めたケア調整・協働連携体制のあり方を考察する。	長江
14－17	以下、フィールドワークで実施する。 １）第１～４回で概要を把握した地域の訪問計画を立案する。 ２）当該地域の地区踏査を実施する。 ３）２）にて既存資料の照合及びデータを追加し当該地域の特性及び課題を小児、成人、高齢者のライフステージで整理し、地域全体の包括的な課題を把握する。	長江
18－19	地域の多様な健康問題のある事例を EBP に基づいた看護実践と多職種との連携・調整を踏まえた解決策及び評価について事例をまとめ、報告し討議する。	長江
20－21	高度実践看護師の行う臨床推論②訪問看護実践の同行訪問演習 （１例のケースレポートを作成する）	佐々木
22－23	高度実践看護師の行う臨床推論②入退院支援室の同行訪問演習 （１例のケースレポートを作成する）	吉野
24－25	鴨川市の保健医療政策と保健事業（講義・フィールドワーク）地域における保健・医療・看護の課題とその解決に向けた実践地域包括ケアシステムにおける保健師活動：必要とされる援助技術（コンサルテーション技術・ネットワーク・多職種連携・情報処理・専門職間のコンサルテーション技術等）	野村・田中
26－28	EBP に基づいた地域における保健看護活動における健康教育（講義・フィールドワーク）介護予防・リハビリテーション：栄養摂取/嚥下障害、運動機能保持増進：EBP とケーススタディ例）高齢者の骨折予防のための運動機能向上のための技術・肺炎予防のための口腔ケアの技術	野村・田中
29－30	地域の多様な健康問題のある事例を EBP に基づいた看護実践と多職種との連携・調整を踏まえた解決策及び評価について事例をまとめ、報告し討議する。	長江

参考書	適宜紹介する。
評価方法・基準	亀田ファミリークリニック館山の見学（4－5日）、地区踏査を行い地域アセスメントをし、健康課題を見出し健康増進に向けた計画を立案する。外来における患者トリアージ、緊急対応のケースレポートを作成する。鴨川市総合福祉会館（ふれあいセンター）における保健事業を理解し、市民福祉部 健康推進課における保健師活動の理解、保健活動に必要な援助技術を学び、健康教育に関するケースレポートを作成する。事前学習（10%）、プレゼンテーション（30%）、演習への参加度（20%）、レポート（40%）により総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用すること。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学実習Ⅰ (NursingCaseManagement：継続看護マネジメント/TransitionalCare の実践)	2	後期	4	実習 180時間

担当教員	長江弘子、那須真弓、酒井武志
授業概要	プライマリケア看護の実践能力として二次予防・医療、三次予防・医療を実践する。とりわけ、老いや病状変化期、治療の変化期、療養の場の変更を必要とする移行期にある個人と家族を対象に外来診療、病棟、社会支援部など退院支援部門における相談支援による意思表明支援技術の実践とそのアウトカム評価を行う。さらに、移行後の継続的支援を行い相談支援の効果や改善点を把握し地域の多職種との連携しながら症状のアセスメントと対応、医師との連携を様々な実習施設を関連させ、看護実践を行う。病院から地域へ療養の場が移行しても在宅診療部門、訪問看護ステーション等とが一体となりヘルスケアシステムを有機的に機能するよう看護実践を展開する。
到達目標	1．病院から地域への療養環境の移行に際し、医療保険と介護保険、保健医療福祉制度の現状と課題の全体像を述べることができる。 2．コモンディジーズを基盤としたあらゆる健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者へのエンドオブライフケアを基盤としたナースプラクティショナーの役割を把握し、その特徴について述べることができる。 3．様々な健康レベルにある小児から高齢者を対象にエンドオブライフケアを基盤としたナースプラクティショナーの役割(連携・調整・相談を含む)とその特徴を生かし、特に退院支援に焦点を当てた看護援助が実践できる。
履修条件	特論・演習をすべて合格した者
授業計画	事前準備 (1)　学生が各自の関心や目的に応じて実習計画を立案するため、以下の情報収集を行う。 (2)　実習前に、フィールドに出向き、実習施設の看護部、および診療科の医師および実習指導者と調整し実習施設の概要を把握するための基礎データ、組織体制、診療科等について把握し、実習施設の特徴を理解する。 (3)　実習施設概要、フィールド調査における情報を踏まえ、実習目的に応じた実習計画を作成する。 (4)　循環器疾患、特にその診療科で特有な疾患、および心不全の治療、看護実践における課題を先行研究および、フィールドの特色に応じて各自の関心を深める。 実習内容 実習地域における保健医療福祉の現状と課題の全体像を把握し、急性期病院の外来、病棟、入退院調整部門、訪問診療、訪問看護と地域との連携における看護師、多職種の役割を把握し、患者の移行に合わせた患者中心のプライマリ・ヘルスケアを基盤としたエンドオブライフケア看護実践として高度な看護実践を行う。 (1)　急性期病院の外来や病棟、退院支援部門等で展開される循環器疾患を基盤としたさまざまな健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある移行に焦点を当て小児から高齢者への看護援助を実習指導者(高度実践看護師)のもとで実践する。 (2)　様々な健康レベルを対象にした、小児・成人・高齢者の各事例を1事例以上選択し、看護援助として、外来、病棟、入退院支援や調整、訪問診療、訪問看護等一連の移行期のケアマネジメントについて受け持ち事例を通して実践する。 (3)　看護援助過程に用いるプライマリケア技術として、問診やヘルスアセスメントによる臨床推論を活用し情報収集・アセスメントによる問題の明確化、看護計画、実践、評価を行う。 (4)　対象者の健康レベルに応じて、医師・看護師・理学療法士等・栄養士・福祉関係者等との調整(倫理調整含む)や協働連携(相談含む)のあり方について、地域性、エンドオブライフケアを意識した看護職の役割や特徴について学修する。 (5)　実習記録として「行動計画」を作成し、実習した内容については「日々の実習記録」で整理する。本実習のまとめとして「実習レポート」(到達目標に沿う)を提出する。 (6)　カンファレンスを開催し、助言を得る。 ①実習カンファレンス：外来指導医、専門看護師、認定看護師、入退院調整看護師、訪問診療医師、訪問看護師、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス ②全体カンファレンス：中間カンファレンス(大学内の各領域の教員)、最終カンファレンス(実践施設の看護部長、施設の実習指導者など)
教科書	特になし
参考書	適宜紹介する。
評価方法・基準	実習への参加度(60%)、レポート(40%)により総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。
備考	【実習場所】亀田総合病院：総合内科、救急外来、総合内科病棟、入退院支援部、在宅診療部門、訪問看護ステーション等 【実習指導者】野木真将（医師)、大川薫（医師)、平野美樹（ICU/CCU 病棟看護師)、吉野有美子（入退院調整看護師)、佐々木真弓（訪問看護師 / 訪問看護センター師長)、土屋忠則（NP）

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学実習Ⅱ （プライマリケアの実践）	2	後期	4	実習 180時間

担当教員	長江弘子、那須真弓、酒井武志
授業概要	プライマリケア看護の実践能力として地域の一次医療を担う家庭医診療科における一般的な病気・症状・相談に対して問診、視診、触診等を通して、臨床所見と主訴から臨床推論に基づく包括的アセスメント、必要な検査の選択、エビデンスに基づく治療やケアの選択について外来患者を通して学修する。患者の生活背景や人生に対する価値観・自律性・主体性を考慮し、継続的な関係に基づき患者中心の医療を提供する一連のプロセスを学修する。また患者と共に生きる家族の健康にも留意し地域で暮らす患者とその家族、また病気の有無にかかわらず一人ひとりが自分自身の健康に関心を持ち自己の健康に関心を持ち自己の健康管理能力の向上に寄与できる看護実践を展開する。
到達目標	1．地域におけるプライマリ・ヘルス・ケアのスペシャリストとしての役割と高度な看護実践の技能について述べることができる。 2．地域で生活する患者を対象に、Care と Cure を融合した高度な看護実践、専門職間の連携・調照・相談役割を意識して実践できる。 3．地域の特色や文化を理解し地域の健康課題との関連を述べることができる。
履修条件	特論・演習すべて合格した者
授業計画	内容 1）実習概要と実習場 ①地域に存在する家庭医、および各専門の看護師等から活用できる小児から老年までの Care と Cure を融合したミニマムエッセンスを学び、エンドオブライフケア実践としてのプライマリ・ヘルス・ケアのスペシャリストの役割について学ぶ。 ②家庭医診療科における一般的な病気・症状・相談に対して問診、視診、触診等を通じて、臨床所見と主訴から臨床推論に基づく包括的アセスメント、必要な検査の選択、エビデンスに基づく治療やケアの選択について外来患者を通して学修する。小児、母性、成人、老年、精神を通して学習する。 ③さらに、困難事例のアセスメント能力の強化、専門職との連携・調整・相談活動を学ぶ。 ④実習地域の地区路査や人口動態統計等の統計資料分析を行い、地域の健康課題や地域性や文化を学び、その特性を理解する。その上で、地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割や機能を理解する。 2）家庭医診療所等で展開されるコモンデイジーズを基盤としたさまざまな健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある小児から高齢者への看護援助、健康予防・増進活動など、実習指導者：岡田唯男（医師）、岩間秀幸（医師）、鈴木早苗（看護師/師長）などのもとで、プライマリケア看護師、研修医やリハビリスタッフとともに実践する。 ①家庭医のもとで、外来通院している患者の事例を受け持ち、Care と Cure を融合した高度な看護実践を展開する。小児、母性、成人、老年、精神に関する各事例（1事例以上）を受け持ち、看護援助を展開する。 ②医療・保健・福祉の多職種との連携。調整・相談活動に関する実践を展開する。 ③①、②で展開した事例をケースレポートとしてまとめ、カンファレンスで発表し実践と評価を行う。 (2) 実習記録として、「アセスメント表」「看護計画」を作成し、実践した内容を記録する。 (3) 本実習のまとめとして「実習レポート」（到達目標に沿う）を提出する。 (4) カンファレンスを開催し、助言を得る。 ①実習カンファレンス：各専門看護師、医師、多職種、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス ②全体カンファレンス：中間カンファレンス（大学内各領域の教員）、最終カンファレンス（実習施設の管理者、施設の実習指導者など）
教科書	
参考書	適宜紹介する
評価方法・基準	実習最終日に臨床指導者・担当教員とともに、まとめのカンファレンスの内容を評価する。 学生は主体的に実習担当教員と実習指導者と調整し、指導の下に計画、実施する。但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。 事前学習（20%）、実習内容（50%）、レポート（30%）で総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んで学修する。事後には講義で学んだ技術を実習で応用する。
備考	【実習場所】 亀田ファミリークリニック館山（KFCT）の外来、リハビリテーションセンター、訪問診療、透析センター、歯科センター等で実習する。 【臨床指導者】 岡田唯男（医師）、岩間秀幸（医師）、鈴木早苗（看護師/師長）

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学実習Ⅲ（地域包括ケアの実践）	2	後期	4	実習90時間

担当教員	長江弘子、那須真弓、酒井武志
授業概要	プライマリケア看護の実践能力として一次予防を担う行政保健におけるあらゆる発達段階にある人と家族を対象とした疾病予防、健康増進に向けての健康教育、健康相談、生活指導を実践する。また地域アセスメントを通して地域の健康課題を明確化し、保健事業としての各種検診、予防接種の必要性のアセスメントと実施、評価、疾病予防や管理に関する相談支援や専門的医療機関への紹介など一次医療につなぐ有機的ヘルスケアシステムの構築を目指し実践する。
到達目標	１．地域の健康課題を明らかにし、その解決に向け、保健医療福祉の専門職及び住民等との協働連携ができる。 ２．地域の保健所の相談や検診を受診する様々な健康レベル（予防、急性期、回復期、慢性期、終末期）にある小児から高齢者に対し、その地域の健康課題に応じた特徴的な困難事例や実践課題を導き出し、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護援助の工夫や開発ができる。 ３．エンドオブライフケア看護実習Ⅰ及びⅡでの学修に基づき地域における保健・医療・福祉の現状を比較し、他の地域の共通性と相違性とその背景について説明できる。 ４．地域の健康課題の解決に向けて、新しいサービスの企画を提案することができる。
履修条件	特になし
授業計画	内容 ⑴　既存資料や地区路査を通して、地域アセスメントを行い、地域の健康課題を明らかにする。実施されている保健事業の必要性のアセスメントを実施、評価と改善点について考察する。 ⑵　地域の健康課題の中でエンドオブライフケア上の困難事例や実践課題（１事例以上）に関して、保健所、区役所、ならびに地区担当保健師との情報共有を徹底し、相談・調整を行い、実践する。 ⑶　担当事例の看護援助として、問診やヘルスアセスメントによる情報収集・アセスメント、看護計画の立案、実践、評価を行う。この一連の過程は、課題解決するまで繰り返し実践する。この実践課程を要約しケースレポートとしてまとめ、カンファレンスで報告し省察的実践と評価を行う。実習期間中に課題解決できない場合は、看護師又は保健師に引き継ぐ。 ⑷　事例を通して既存のサービスでは対応できないニーズに対し、新しいサービス事業について考案し企画、提案する。 ⑷　実習記録として「アセスメント表」「看護計画」を作成し、実践した内容を記録する。 ⑸　比較するほかの地域（これまでの実習地域）を選択する。 ⑹　カンファレンスを開催し助言を得る。 ①実習カンファレンス：主任保健師、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス ②全体カンファレンス：中間カンファレンス（大学内の各領域の教員）・最終カンファレンス（看護管理者施設の実習指導者など） ⑺　本実習のまとめとして「実習レポート」（到達目標に沿う）を提出する
教科書	
参考書	
評価方法・基準	実習最終日に臨床指導者・担当教員とともに、まとめのカンファレンスの内容を評価する。 学生は主体的に実習担当教員と実習指導者を調整し、指導の下に計画、実施する。 但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。 事前学習（20％）、実習内容（50％）、レポート（30％）で総合的に評価する。
事前・事後学習	事前に示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみること。
備考	【実習場所】鴨川市総合福祉会館（ふれあいセンター） 【臨床指導者】高橋由希子（主任保健師）、笹子洋子（保健師）

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学課題研究	2	通年	2	実習30時間

担当教員	長江弘子
授業概要	エンドオブライフケア学特論およびプライマリケア技術特論・演習の学びをもとに、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献レビューを行う。先行研究のエビデンスをもとに、エンドオブライフケア学の実践・教育・研究の発展に資する論文としてまとめる。
到達目標	1．関心があるエンドオブライフケア学に関するテーマについて文献検索を行い、研究の動向を説明することができる。 2．自分の目的にあった系統的なレビューの方法を選び、その手法を参考にレビューを進めることができる。 3．課題研究のテーマに関する系統的レビューを行いエンドオブライフケア学の発展に資する論文を作成することができる。
履修条件	エンドオブライフケア学特論Ⅰ～Ⅵ・プライマリヘルスケア技術特論・プライマリヘルスケア演習Ⅰ～Ⅱを修得していること。
授業計画	回　内容　担当教員 1－15　文献検討と個別面談　長江
教科書	大木秀一編著、文献レビューの基本、医歯薬出版、2013.
参考書	適宜紹介する。
評価方法・基準	討議への参加度(60%)、課題研究論文(40%)とし、総合的に評価する。
事前・事後学習	事前学習：面談前に自己の関心テーマに関する研究の動向や前回の面談で出された課題に関する結果、あるいは行った文献レビューに関する結果をまとめ、資料を作成する。資料は面談前日に指導教員に提出する。 事後学習：面談の指摘事項をまとめ、それに対する対策を記述し面談後2日以内に指導教員に提出する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
ウィメンズヘルス特論	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	志村千鶴子、下睦子、潮田千寿子、毛利多恵子
授業概要	女性のライフサイクル全般の健康とリプロダクティブヘルスに関する主要な理論や概念を学ぶ。また、周産期継続ケアにおける地域支援システムとエビデンスに基づく継続ケアの必要性について理解を深める。
到達目標	1．リプロダクティヴ ヘルス及び、ウェルネス、エンパワメントの概念を理解できる。 2．女性のライフサイクル各期におけるエビデンスの基づく健康支援について理解できる。 3．エビデンスに基づくケアの改革や変革のための政策提言や助産教育、卒後教育について考えることができる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	妊娠・出産・育児期の女性をエンパワメントする助産師の役割	毛利
2	妊娠・出産と育児期のケアを担う助産師に必要な力	毛利
3	リプロダクティブ・ヘルス / ライツに関する主要な理論	志村
4	健康支援と自己決定	志村
5	周産期のケアとエビデンス①	志村
6	周産期のケアとエビデンス②	志村
7	周産期の継続ケア	志村
8	助産ケアのエビデンスとシステマティックレビュー	志村
9	女性のライフサイクル各期における助産ケアのエビデンス(思春期)	下
10	女性のライフサイクル各期における助産ケアのエビデンス(成熟期)	下
11	女性のライフサイクル各期における助産ケアのエビデンス(更年期)	潮田
12	女性のライフサイクル各期における助産ケアのエビデンス(老年期)	潮田
13	周産期継続ケア・地域支援システムにおける助産ケアのエビデンス	志村
14	ウィメンズヘルスにおける健康支援・助産ケアの改革・変革(政策提言)	志村
15	ウィメンズヘルスにおける健康支援・助産ケアの改革・変革(助産・卒後教育)	志村

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、次回のテーマに沿って事前学習資料を提示する。
評価方法・基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・レポート課題に対する成績(70%)
事前・事後学習	毎回の授業終了時に次回のテーマに沿った資料を提示する。学生はそれを事前学習し、授業ではその内容理解とそれに関する討議によって、学習を深める。授業の中間期には、各学生に関心のある文献(著書・研究論文・その他)の提示を求め、11回目の授業からはそれを話題とする学習とし、学生が担当教員とディスカッションポイント等の事前準備を行った上で授業を進める。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
周産期ケア特論	1・2	後期	2	講義 30時間

担当教員	田嶋敦、林正路、門岡みずほ、末光徳匡、清水清美、三谷尚弘、松浦拓人、櫻井基一郎、櫻井裕子
授業概要	ハイリスク妊娠・分娩・産褥及び新生児ケアの基本的知識とエビデンスに基づくケアを学び、ハイリスクを対象とした実践的助産活動を主体的に行える能力および緊急時に対応できる基礎的能力を培う。また、ハイリスク予備軍に対する健康向上のための科学的根拠に基づいた助産ケアについて、基礎知識・技術・理論を学ぶ。
到達目標	1．周産期のハイリスク女性に関する病態及び救急的対処に関するケア能力を身につける。 2．新生児の異常について、病態及び救急的対処に関するケア能力を身につける。 3．不妊患者のケアについて理解を深める。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	周産期の救急医療体制	門岡
2	母体搬送時の対処	三谷
3	産科異常出血	松浦
4	超音波診断	末光
5	周産期メンタルヘルス	門岡
6	MFICU 患者のケア：ハイリスク・異常妊娠	田嶋
7	MFICU 患者のケア：母体合併症管理治療	田嶋
8	MFICU 患者のケア：胎児異常管理治療	田嶋
9	新生児総論	櫻井(基)
10	正期産児の生理	櫻井(基)
11	早産児の生理	櫻井(裕)
12	不妊と不妊治療	林
13	高度生殖医療について	林
14	不妊症をめぐる現状	清水
15	不妊患者の助産ケア	清水

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・レポート課題に対する成績(70%)
事前・事後学習	必要時、事前に提示する文献・資料を読んで授業に参加する。産科救急に関する技術の習得については、授業後の時間を使って熟達レベルに達するように自己学習を行い、求められる基準に達するよう反復練習を行う。(事前学習 2 時間、事後学習 1 時間)
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産マネジメント特論	1・2	前期	2	講義30時間

担当教員	志村千鶴子、柳村直子、河村洋子
授業概要	周産期医療機関における人材管理や人材育成、システム運用、及び、ハード面の環境、資金の有効活用について、組織マネジメント理論を応用した運用の実際を学ぶ。また、助産業務のリスクマネジメント、医療事故防止等のより安全で快適な出産ケアの提供について、教育・管理の視点を深める。更に、地域連携における母子の健康に関するシステムマネジメントについて、現状の分析と改革の視点から考察し、課題を明確にする力を身につける。
到達目標	1．助産管理の実際を理解し、質保証システムやその具体的内容･方法について理解を深める。 2．助産管理の実際を理解し、現状における課題やその解決について、改善･変革を目指す具体的な視点を見出せる。 3．周産期医療におけるの経営管理について理解を深める。 4．助産管理におけるリスクマネジメントについて理解する。 5．災害に関する助産師の役割と対象のおかれた状況および支援について理解する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	周産期医療施設の助産管理一般について	柳村
2	助産業務管理とは	柳村
3	助産業務管理と人材開発	柳村
4	周産期医療施設の助産管理の実際と課題	柳村
5	医療施設における経営管理	河村
6	医療施設におけるマーケティング	河村
7	周産期医療におけるサービス提供	河村
8	周産期医療における財務管理	河村
9	周産期医療における管理分析	河村
10	周産期医療における管理分析	河村
11	医療事故の防止とリスクマネジメント	志村
12	被災地の妊産婦支援	志村
13	被災地における助産師の役割	志村
14	母子に配慮した避難時設営	志村
15	母子に配慮した避難時設営	志村

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法･基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・レポート課題に対する成績(70%)
事前･事後学習	事前に提示される資料または視聴覚教材による事前準備によって、テーマに関する自己の関心と課題を明確にしたうえで授業に臨む。授業終了後は、テーマごとに課される課題について考えをまとめ、指定日までに必ず提出する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
ウィメンズヘルス特論演習	1	後期	2	演習 60時間

担当教員	下睦子、潮田千寿子、大野知代、小出加代子、矢島藍、瀧真弓、三國和美、御手洗幸子
授業概要	各学生の背景や専攻に応じて、地域で生活する妊産褥婦・新生児及びその家族のニーズに対応するケアシステムの創造と運営、又、組織改革に向けた業務分析や新たな人材育成計画・院内教育の実施等、改善や改革に向けた基礎的能力を養う。更に高度実践を目指す学生は、妊産褥婦と胎児・新生児におけるハイリスクやそのメカニズムを理解した緊急時の対応、対象支援に必要な助産ケアの知識・技術を習得する。更に新生児蘇生や産科救急の技術について理解を深める。また、教育分野を目指す学生は、ウィメンズヘルス・助産学の基礎的教育の内容・方法について習熟を目指す。
到達目標	1．母子及び女性の健康教育実践リーダーとしての知識を身につける。 2．社会的ハイリスクな状況にある妊産婦とその家族の支援の実際について理解を深める。 3．妊産褥婦と胎児・新生児における緊急時の対応、医療連携と助産師の役割について理解する。 4．ハイリスク状況にある妊産婦婦と新生児のアセスメントと助産ケアの知識・技術を習得する。 5．助産活動を発展させるための専門職団体の諸活動や政策提言について理解を深める。 6．母性看護学･助産学の教育について理解し、基礎教育及び、院内教育を含む人材育成システムについて理解する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	地域で生活する母子とその家族のニーズの把握	大野
2-3	プロフェッショナル助産技術①	矢島
4-5	産後の心理支援と助産師の役割①	大野
6	社会的ハイリスクな状況にある妊産婦の支援の実際	瀧
7	社会的ハイリスクな状況にある妊産婦の支援における地域連携	瀧
8	NICU における母子とその家族の支援	瀧
9	NICU との連携と助産師の役割	瀧
10	妊娠分娩に関連する泌尿器・生殖器への影響	三国
11	妊娠分娩に関連する骨盤ケア	三国
12	教育の計画立案(小集団、院内教育等)①	潮田
13-16	小集団指導の計画立案(小集団、院内教育等)④	潮田
17-18	小集団指導の実際(小集団、院内教育等)①	潮田
19-21	ハイリスク助産ケア演習(妊婦)①	下
22-24	ハイリスク助産ケア演習(産婦)①	下
25-26	ハイリスク助産ケア演習(褥婦)①	潮田
27-28	ハイリスク助産ケア演習(新生児)①	小出
29-30	遺伝看護の基礎／遺伝看護の実際	御手洗

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法･基準	・目標達成に関する授業時の行動達成レベルと討議参加状況(70%) ・レポート課題に対する成績(30%)
事前･事後学習	・事前に提示する資料による学習や視聴覚教材による予習を必ず実施して授業に参加すること。 ・授業テーマごとに授業後の課題を指定の期日までに指定場所に提出する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
ウィメンズヘルス研究論	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	志村千鶴子、下睦子、潮田千寿子
授業概要	ウィメンズヘルスに関連する論文の検索、クリティーク、統合・解釈のプロセスを学び、エビデンスに基づく助産ケアを探求できる能力を身につける。
到達目標	1．ウィメンズヘルスの対象となる人々の健康支援に向けた研究の概念、理論について理解する。 2．研究のプロセスについて説明できる。 3．クリティークの基準に基づき研究論文のクリティークができる。 4．文献レビューの概要と方法について理解できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	ウィメンズヘルスの対象となる人々の健康支援に向けた研究における概念、理論	志村
2	研究のプロセス	志村
3	クリティークの方法	志村
4	量的研究のクリティーク①	潮田
5	量的研究のクリティーク②	潮田
6	量的研究のクリティーク③	潮田
7	量的研究のクリティーク④	潮田
8	質的研究のクリティーク①	下
9	質的研究のクリティーク②	下
10	質的研究のクリティーク③	下
11	質的研究のクリティーク④	下
12	文献レビューの概要	志村
13	文献レビューのプロセス	志村
14	文献レビュー：文献の内容検討と統合・解釈	志村
15	文献レビューをまとめる	志村

教科書	特に指定しない。
参考書	テーマに沿って提示する。
評価方法･基準	プレゼンテーション(準備・発表)40%、講義討論への参加度20%、レポート40%
事前･事後学習	事前学習：提示された事前学習について調べておく(2時間)。 事後学習：提示された課題について考察し、レポートを作成・提出する(1時間)。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産学概論	1	前期	2	講義30時間

担当教員	志村千鶴子、吉田広美
授業概要	助産学の概念、意義について理解し、母子保健の動向と助産の歴史、制度、関連法規について学習する。また、助産師の役割、助産師業務の活動範囲・責務・職業倫理、生命倫理への理解を深める。また、国際的な母子保健の動向、助産の役割・機能・活動を学ぶとともに、今後の課題と助産師の在り方について考察する。
到達目標	1．助産学の意義・概念について理解する。 2．母子保健と助産の歴史、動向、制度、関連法規について理解する。 3．助産師の専門性、責務、職業倫理を理解する。 4．助産師に必要な姿勢や態度を身につける。 5．国際的な母子保健における動向と助産の役割・機能・活動を知り、今後の在り方を考えることができる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	助産学の概念と意義・歴史	志村
2	助産師の教育	志村
3	母子保健の歴史と変遷	志村
4	母子保健の動向と今後の課題	志村
5	母子保健の動向と今後の課題	志村
6	母子保健・助産に関連する制度と関連法規	志村
7	母子保健・助産に関連する制度と関連法規	志村
8	助産師の定義と業務範囲	志村
9	活動場所の特性と業務：助産の場	志村
10	助産師の責務	志村
11	助産活動と生命倫理	志村
12	助産専門職団体の意義と活動	志村
13	海外の助産師活動	志村
14	周産期施設における助産業務管理	吉田
15	周産期施設における運営	吉田

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・試験・レポート課題に対する成績(70%)
事前・事後学習	事前学習：提示された事前課題について調べておく。 事後学習：授業内容を振り返り、提示された課題について考察し、レポートを作成し、提出する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産学展開論	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	大野知代、大塚伊佐夫
授業概要	女性のライフサイクルを通じたリプロダクティブヘルス・ライツと健康問題、及び女性と子ども、パートナー、その他の家族を対象としたエビデンスに基づくケアの改革や変革の方策を探求する。更に、助産学の専門性の深化に向けて、実践知の形成や変革に向けた活動の構造を分析的に理解する。
到達目標	1．女性のライフサイクルを通した性と生殖の健康と健康問題について理解する。 2．女性と子ども、パートナーその他の家族を対象とした健康支援の基礎となる知識・理論を理解する。 3．女性のライフサイクルに応じた健康問題やその家族を対象とした健康支援活動を理解する。 4．リプロダクティブヘルスに関連する諸外国の現状と課題について理解できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	女性のライフサイクルと健康	大野
2	リプロダクティブヘルス・ライツの歴史的背景と概念	大野
3	リプロダクティブ・ヘルス / ライツとセクシャルヘルス	大野
4	ウィメンズヘルスと助産学実践における理論の活用	大野
5	プレコンセプションケアの実際	大野
6	暴力被害に関する女性への支援	大野
7	SOGI の人々への支援	大野
8	在留外国人への助産ケア	大野
9	性感染症とその予防	大野
10	生殖に関連する解剖生理	大塚
11	人体発生学	大塚
12	諸外国におけるリプロダクティブヘルスに関する現状と課題	大野
13	諸外国におけるリプロダクティブヘルスに関する現状と課題	大野
14	母子保健における国際活動の実際	大野
15	母子保健における国際活動の実際	大野

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法･基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言・課題等の発表内容による評価(40%) ・試験・レポート課題に対する成績(60%)
事前･事後学習	事前学習：提示された事前課題について調べて授業に臨む。 事後学習：授業内容を振り返り、提示された課題について考察し、レポートを提出する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
ウィメンズヘルス教育論	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	下睦子、大野知代、潮田千寿子
授業概要	性と生殖の健康のためのセルフケア能力を高めるためのエンパワメントや自己効力感の概念・理論について、女性学に基づくケアの考え方を深める。具体的には、思春期の性教育やエンパワメントを高める妊娠中の健康教育、家族計画のための参加型教育活動、中高年のセルフケア行動や疾病予防活動としての助産ケアの視点を深める。
到達目標	1．性と生殖の健康に関するセルフケア能力を高めるための概念・理論について理解する。 2．思春期の性教育やエンパワメントを高める妊娠中の健康教育、家族計画のための参加型教育活動、中高年のセルフケア行動や疾病予防活動としての助産ケアについて理解する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	助産師活動と教育	大野
2	教育・相談・援助の基本	大野
3	女性の特性とエンパワメント支援	大野
4	カウンセリングとファシリテーション	大野
5	個人・集団に対する助産師の関わり	潮田
6	助産師活動における健康教育の展開方法①	潮田
7	助産師活動における健康教育の展開方法②	潮田
8	思春期の健康教育活動①	下
9	思春期の健康教育活動②	下
10	成熟期の健康教育活動①	下
11	成熟期の健康教育活動②	下
12	更年期女性の健康教育活動①	潮田
13	更年期女性の健康教育活動②	潮田
14	老年期女性の健康教育活動①	潮田
15	老年期女性の健康教育活動②	潮田

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・レポート課題に対する成績(70%)
事前・事後学習	事前学習：ウィメンズヘルスに関連する健康課題と健康教育についての事前課題について学習し記述する(2時間)。 事後学習：ウィメンズヘルスの関連する健康課題と健康教育について考察しレポートを作成し、提出する(2時間)。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
周産期診断治療論	1	後期	2	講義 30時間

担当教員	大塚伊佐夫、古澤嘉明、門岡みずほ、末光徳匡、三谷尚弘、松浦拓人、櫻井基一郎、櫻井裕子
授業概要	妊娠期、分娩期、新生児に起こりやすい異常とその病態と診断、異常への対応や治療について学ぶ。また、手術療法及び、薬物治療に使用される医薬品について、基礎的な知識と薬理作用・用法用量・副作用・注意事項などについて学ぶ。更に、母乳育児と薬物使用についても理解を深める。
到達目標	1．妊娠期、分娩期、新生児に起こりやすい異常とその病態と診断、異常への対応や治療を理解する。 2．周産期における婦人科合併症の診断・治療について理解する。 3．薬物治療に使用される医薬品と避妊薬について、基礎的な知識と薬理作用・用法用量・副作用・注意事項などについて理解する。 4．薬物の妊婦や胎児、及び母乳への影響について理解する。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	妊娠期のスクリーニング：妊娠初期・中期	末光
2	妊娠期のスクリーニング：妊娠後期	門岡
3	妊娠期に起こりやすい異常の病態と診断、異常への対応・治療 （流早産、切迫流早産、妊娠貧血等）	門岡
4	妊娠期に起こりやすい異常の病態と診断、異常への対応・治療 （妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病等）	門岡
5	妊娠期に起こりやすい異常の病態と診断、異常への対応・治療 （胎児機能不全等）	末光
6	分娩異常の病態と診断・治療概要（前置胎盤、常位胎盤早期剥離等）	三谷
7	分娩異常の病態と診断・治療概要 （誘発・促進分娩、分娩時出血、分娩時裂傷等）	末光
8	分娩異常の病態と診断・治療概要（吸引分娩・鉗子分娩、会陰縫合等）	末光
9	分娩異常の病態と診断・治療概要（帝王切開、無痛分娩等）	松浦
10	正期産児の疾患	櫻井（基）
11	早産児の疾患	櫻井（裕）
12	周産期における婦人科合併症：病態	古澤
13	周産期における婦人科合併症：管理と治療	古澤
14	更年期・老年期女性の健康 （更年期障害、骨盤臓器脱、尿失禁、尿失禁 H、RT 療法等）	大塚
15	母乳育児と薬剤使用	門岡

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価（30%） ・試験・レポート課題に対する成績（70%）
事前・事後学習	事前学習：次回の授業内容についての提示された資料やテキストを確認しておく（２時間）。 事後学習：授業内容について復習を行い、理解を深める（１時間）。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産診断・技術論Ⅰ（妊婦の助産ケア）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	下睦子
授業概要	正常な妊娠の経過について、そのメカニズムと解剖・生理を学び、胎児の成長発達・健康状態について学ぶ。また、さらに、妊婦とその家族の心理社会的特徴についても理解を深める。
到達目標	1．妊婦および胎児の助産診断に必要な知識と技術を習得する。 2．妊娠期の助産診断過程が展開できる。 3．妊娠期に必要な保健指導が展開できる。。
履修条件	特になし
授業計画	回　内容 1　助産診断過程について 2　妊娠期の助産診断の特徴と妊娠期の助産診断類型・マイナートラブル 3　妊娠確定診断に必要な基礎知識・妊娠初期の助産診断 4　妊娠期の助産診断に必要な基礎知識（胎児及び付属物） 5　妊娠初期の助産診断まとめ 6　妊娠中期の事例助産診断＜経過診断＞ 7　妊娠中期の事例助産診断＜健康生活診断＞ 8　妊娠期の健康生活診断（妊娠期の心理・母親役割過程） 9　妊娠中期事例助産診断＜関連・予測＞ 10　妊娠中期事例展開まとめ 11　妊娠末期事例助産診断＜経過診断・健康生活診断＞ 12　教育計画の考え方 13　保健指導案立案について 14　保健指導の評価 15　ハイリスク妊婦の助産ケア
教科書	特に指定なし
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価（30%） ・試験・レポート課題に対する成績（70%）
事前・事後学習	事前学習：毎回の授業で提示された事前学習課題を調べ次回の授業の準備を行う。 事後学習：授業内容について復習を行い、理解を深める。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産診断・技術論Ⅱ（産婦の助産ケア）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	下睦子
授業概要	分娩経過に沿った分娩のメカニズムを理解し、産婦及び家族の心理社会的状態に沿って、安全・安楽・快適な出産ケアを支援できるための理論やエビデンスに基づく知識・技術を学ぶ。
到達目標	1．正常な分娩経過について、そのメカニズムと解剖・生理を理解する。 2．安全・安楽・快適な出産を支援できるための理論やエビデンスに基づく知識・技術を身につける。 3．ハイリスク状況にある産婦への助産ケアについて理解する。
履修条件	
授業計画	回　内容 1　分娩期における助産診断の必要性と特徴 分娩３要素と分娩機転 2　診断に必要な基礎知識 3　診断の時期と進行判断 4　入院時の助産診断 5　産婦の心理・社会的支援 6　分娩期の助産診断過程の展開（入院時） 7　産痛の発生機序と種類 産痛緩和法・産痛に対する援助 8　正常分娩介助技術　分娩介助手順 9　分娩期の助産診断過程の展開（分娩第１期） 10　分娩各期の診断と助産ケア 11　分娩各期の診断と助産ケア 12　分娩各期の診断と助産ケア 13　分娩体位の工夫 14　フリースタイル分娩 15　分娩期のフィジカルアセスメント
教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価（30％） ・試験・レポート課題に対する成績（70％）
事前・事後学習	事前学習：毎回の授業で産婦のケアについて提示された事前学習課題を調べ、次回の授業の準備をする。 事後学習：授業内容について復習を行い、理解を深める。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産診断・技術論Ⅲ（褥婦と新生児の助産ケア）	1	前期	2	講義 30時間

担当教員	潮田千寿子
授業概要	褥婦の生理的変化と新生児の母体外生活への適応と生理的変化、及び褥婦とその家族の心理社会的状況について、適切な技術を用いて情報収集、アセスメント、ケアの実践ができるための学習をする。
到達目標	1．褥婦の生理的変化と新生児の母体外生活への適応と生理的変化、および褥婦とその家族の心理・社会的状況について理解する。 2．褥婦と新生児の生理的状況、心理・社会的状況について情報収集、アセスメント技術を身につける。 3．褥婦と新生児のアセスメントから必要なケアを立案することができる。 4．ハイリスクな状況にある褥婦と新生児のケアについて理解する。 5．退院後の生活への適応に向けた母子とその家族への助産ケアについて理解する
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	産褥経過と褥婦の身体的変化と助産ケア	潮田
2	産褥経過と褥婦・家族の心理社会的状況と助産ケア	潮田
3	ハイリスクな状況にある褥婦と助産ケア	潮田
4	産褥期の助産診断（事例）	潮田
5	産褥期の助産診断（事例）	潮田
6	産褥期の助産診断（事例）	潮田
7	母乳育児支援	潮田
8	産褥期の保健指導	潮田
9	出生直後の新生児の観察・新生児の経過と身体的変化	潮田
10	新生児の診察とスクリーニング	潮田
11	新生児期の助産診断（事例）	潮田
12	新生児期の助産診断（事例）	潮田
13	出生後１～４か月児の成長・発達と助産診断	潮田
14	ハイリスクな状況にある新生児と助産ケア	潮田
15	死産を体験する家族（ペリネイタルロス）の支援	潮田

教科書	特に指定なし
参考書	テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	授業に対する準備状況や授業内の発言状況による評価（30％） 試験・レポートに対する成績（70％）
事前・事後学習	事前学習：授業で提示された事前学習課題を調べる 事後学習：授業内容について復習し、理解を深める
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産診断・技術演習	1	前期	2	演習 60時間

担当教員	下睦子、潮田千寿子、小出加代子、吉田美和
授業概要	妊婦・産婦・褥婦及び胎児・新生児の健康状態把握のアセスメントのために必要な知識やフィジカルアセスメント技術を習得する。また、安全・安楽・快適な出産ケア技術及び分娩介助技術を身につける。妊娠期から産褥期における妊婦とその家族を対象とした保健指導技術を習得する。
到達目標	1．妊婦・産婦・褥婦及び胎児・新生児の健康状態把握のアセスメントのために必要な知識とフィジカルアセスメント技術を習得する。 2．妊婦・産婦・褥婦・および新生児の助産過程の展開ができる 3．安全・安楽・快適な出産および主体的な出産のケア技術及び分娩介助技術を身につける。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1	妊娠初期の助産診断	下
2	妊娠期のフィジカルアセスメント：レオポルド腹部触診、骨盤外計測	下
3－4	妊娠中期の助産過程の展開(事例)	下
5	保健指導案の立案	下
6	妊娠期の保健指導の実際	下
7－8	妊娠末期の助産過程の展開(事例)	下
9	妊娠期の助産ケア	下
10	妊婦健診に用いる診断技術(演習)	下・吉田
11-12	分娩期の助産過程の展開	下
13-16	正常分娩介助技術実際	下
17-20	分娩期のフィジカルアセスメント	下
21	産褥期のフィジカルアセスメント：全身、退行性変化	潮田
22	産褥期のフィジカルアセスメント：乳房	潮田
23-25	産褥期の助産過程の展開(事例)	潮田
26	出生直後の新生児のアセスメントと助産ケア	小出
27	新生児のアセスメントと助産ケア	小出
28	新生児期の助産過程の展開(事例)	潮田
29-30	産婦と出生直後の新生児の観察とケアの実際①(亀田総合病院)	小出

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	・目標達成に対する行動実践の程度の評価(70%) ・レポート課題に対する成績(30%)
事前・事後学習	事前学習：毎回の授業で褥婦と新生児の助産ケアについて提示された事前学習課題を調べ次回の授業の準備をする。 事後学習：授業内容について復習を行い、理解を深める。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
地域母子保健論	2	前期	2	講義30時間

担当教員	下睦子、志村千鶴子、潮田千寿子、根岸雄子、國吉祐史、吉田文子、長谷川咲千香
授業概要	地域で生活する妊産褥婦・新生児とその家族を対象とした、集団や地域のケアに関する概念・理論を理解し、地域母子保健の現状と課題、保健医療福祉の連携、助産師の役割について考察する。
到達目標	1．地域で生活する女性及び、妊産褥婦・新生児とその家族を対象とした集団や地域のケアに関する概念・理論を理解できる。 2．地域母子保健の現状と課題、保健医療福祉の連携、地域母子保健事業の創出・事業運営における助産師の役割について考察することができる。
履修条件	特に指定しない。

授業計画

回	内容	担当教員
1	地域母子保健の概念	志村
2	地域で生活する母子とその家族の現状	志村
3	地域母子保健の現状と課題	志村
4	地域母子保健事業における行政の助産師の役割	長谷川
5	子育て世代包括支援センターの取り組み	吉田
6	産後ケアにおける助産師の役割	根岸
7	産後ケアの現状と課題	根岸
8	地域で生活する妊産婦の産前産後のマイナートラブル	國吉
9	産前・産後のケアの実際	國吉
10	３－４か月の母子のアセスメント①	潮田
11	３－４か月の母子のアセスメント②	潮田
12	３－４か月の母子の助産計画の立案	潮田
13	地域診断と母子健康の課題及び課題解決システムの立案①	下
14	地域診断と母子保健の課題及び課題解決システムの立案②	下
15	地域診断と母子健康の課題及び課題解決システムの発表	下

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法･基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・試験・レポート課題に対する成績(70%)
事前･事後学習	事前学習：地域母子保健に関するについて課題を提示し、課題について調べ授業でグループ討議ができるよう準備する(１時間) 事後学習：地域母子保健の現状と課題と助産師の役割について考察し、レポートを作成する(２時間)
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産管理論	2	前期	2	講義30時間

担当教員	志村千鶴子、武田智子
授業概要	周産期施設(病院と助産所)における助産業務管理、運営、周産期医療システムの連携機能を学ぶ。また、周産期における医療安全に必要な基本的理論、安全確保体制の整備と事故防止に向けた管理システム及び、事故対応の原則等について学びを深める。
到達目標	1．周産期医療システムの連携機能と医療施設(病院・助産所)における助産業務管理、運営を理解する。 2．周産期施設における安全確保体制の整備と事故防止に向けた管理システム及び、事故対応の実際を知る。 3．病院の助産師活動分野及び助産所運営に必要な資源、人材、経営的視点について考察できる。
履修条件	
授業計画	

回	内容	担当教員
1	助産師活動と自律	志村
2	周産期医療における感染管理と医療安全	志村
3	周産期の保健医療システム	志村
4	周産期の保健医療における連携活動	志村
5	周産期のチーム医療の理論	志村
6	周産期のチーム医療の実際	志村
7	周産期における医療事故・医療過誤について	志村
8	周産期における医療事故・医療過誤事例の検討	志村
9	産科医療補償制度の仕組みと分析	志村
10	関連法規と助産師の義務・責任	志村
11	外来・院内助産院の管理	志村
12	助産所開業について(武田助産院)	武田
13	助産所開業の実際(武田助産院)	武田
14	助産所経営(武田助産院)	武田
15	助産所における助産業務管理(武田助産院)	武田

教科書	特に指定しない
参考書	毎回の授業で、テーマに沿って提示する。
評価方法・基準	・授業に対する準備状況や授業中の発言内容等による評価(30%) ・試験・レポート課題に対する成績(70%)
事前・事後学習	事前学習：周産期施設(病院と助産所)における助産業務管理について課題を提示し、授業でグループ討議ができるよう準備する。 事後学習：授業内容を踏まえ、周産期施設(病院と助産所)における助産業務管理についてレポートを作成し、提出する。
備考	特になし

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産学実習Ⅰ		1	後期	2	実習 90時間
担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、下睦子、小出加代子、吉田美和				
授業概要	妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面を統合的に理解し、必要な助産ケアを実践し、助産実践に必要な基本的理論、知識、技術、態度を習得する。受け持ち産婦の助産過程を展開し、分娩経過の診断、対象の健康状態のアセスメント、ケア、実施、評価を行い、出産時の助産実践に必要な能力を養う。				
到達目標	１．妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、ケア計画の立案と助産ケアを実践できる。 ２．助産実践に必要な基本的理論、知識、技術、態度を身につける。				
履修条件	特になし				
授業計画	・正常分娩で分娩第１期から分娩第３期終了２時間までの産婦を受け持つ。 ・正常経過の産婦を受け持ち（３例）、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。受持ち産婦の、助産診断とケアの一連の助産過程を実施・評価する。 ・１－３例目までの受け持ち産婦・褥婦に関し、基本的な理論・知識の活用、基本的な産婦の支援・分娩介助技術を実施し、自己評価できる。 ・妊婦の健康診査と保健指導を見学し、妊婦のスクリーニング・フィジカルアセスメント・保健指導の一連を理解する。				
教科書	特に指定しない				
参考書	特に指定しない				
評価方法･基準	・目標達成行動による総合的評価（60％） ・実習記録による学習成果（40％）				
事前･事後学習	事前学習：既習の妊産褥婦と胎児・新生児及びその家族について、生理的側面、心理・社会的側面について復習しておく。 事後学習：受持ち事例に実施した基本的な産婦の支援・分娩介助技術について自己評価し記述する。				
備考	特になし				

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産学実習Ⅱ		1	後期	4	実習180時間
担当教員	下睦子、志村千鶴子、潮田千寿子、小出加代子、吉田美和				
授業概要	助産学実習Ⅰでの助産ケア実践における自己の課題を明確にし、引き続き分娩介助を中心とした対象への助産ケア実践を学ぶ。				
到達目標	１．実習における自己の課題を明確にできる。 ２．産婦が安全で安楽な分娩介助技術を身につける。				
履修条件	特になし				
授業計画	・正常分娩で分娩第１期から分娩第３期終了２時間まで５事例及び正常分娩で分娩第１期から産褥入院期間まで２事例を受け持つ。 ・受け持ち産婦の、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。 ・受持ち産婦の分娩から産褥までの助産診断とケアの一連の過程を実施・評価する。 ・４－10例(内１例は継続事例)目までの受け持ち事例に関し、産婦・褥婦の個別性に応じた助産計画の立案・ケア実施・評価を行う				
教科書	特に指定しない				
参考書	特に指定しない				
評価方法･基準	・目標達成行動による総合的評価(60%) ・実習記録による学習成果(40%)				
事前･事後学習	事前学習：毎回の助産ケア・分娩介助の課題克服に向けた事前学習・技術練習を行う。 事後学習：分娩介助の振り返りを指導者と共に行い、自己の課題を明確にしておく。				
備考	特になし				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産学実習Ⅲ	1	後期	2	実習 90時間

担当教員	志村千鶴子、下睦子、潮田千寿子、小出加代子、吉田美和
授業概要	軽度の合併症や心理・社会的課題を持つ妊産婦及び、その家族を受け持ち、助産課程の展開を通して助産ケアを主体的に実践できる能力を身につける。周産期母子医療センターにおける助産管理について理解する
到達目標	1．軽度の合併症や心理・社会的課題を持つ妊産婦及び、その家族のアセスメントができる。 2．アセスメントの結果から、必要なケアを考えられる。 3．周産期母子医療センターの助産管理について考えることができる。
履修条件	特になし
授業計画	・軽度の合併症や心理・社会的課題を持つ妊産婦及び、その家族を対象とした実習を行う。 ・分娩第１期から産褥入院期間までの３事例を受け持ち、軽度の合併症や心理・社会的課題を持つ対象の助産診断と助産過程を実施・評価し、個別的継続的支援について学ぶ。 ・分娩期の助産ケア、分娩介助、産後ケアや退院後の育児支援(家庭訪問を含む)、健康診査についても継続的に関わる。 ・周産期母子医療センターの助産管理について考察する ・11－12例目の受け持ち事例に関し、産婦・褥婦の個別性に応じた助産計画の立案・ケア実施・評価を行う。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
評価方法･基準	・目標達成行動による総合的評価(60%) ・実習記録による学習成果(40%)
事前･事後学習	事前学習：妊娠・分娩・産褥の合併症における病態と治療及び妊産婦及びその家族の心理・社会的課題について復習しておく。 事後学習：受持ちに関する助産家庭の実施評価に関する記録を整理し、個別的・継続的支援につなげる。
備考	特になし

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
継続事例実習		1・2	後期・前期	2	実習 90時間
担当教員	志村千鶴子、下睦子、潮田千寿子、小出加代子、吉田美和				
授業概要	妊娠期から妊婦を受け持ち、分娩期および産後の育児期までの継続した助産ケア実践し、地域で生活する対象への助産ケアについて、必要な理論、知識、技術、支援システムについて学習する。また、出産後の受け持ち事例では、地域での育児に助産師が出産を通して、継続的にかかわることの意義と助産ケアの在り方を修得する。				
到達目標	1．継続事例について、妊娠期から育児期までのアセスメントができる。 2．アセスメントの結果から必要なケアを考えることができる。 3．必要とされるケアについて、指導を受けながら実践することができる。 4．妊娠期からの継続支援の意義について考えることができる。				
履修条件	特になし				
授業計画	・妊娠中期から産後４か月までの継続事例を１名受け持つ。 ・継続事例の妊娠中、毎回の健診及び、保健指導に立ちあい、助産計画の立案・ケア実施・評価を通して、個別的継続的支援について学ぶ。 ・継続事例の出産時には、産婦の、生理的側面、心理・社会的側面をアセスメントし、必要な助産ケアを実践する。 ・出産後、産後ケアや退院後の育児支援(家庭訪問を含む)に継続的に関わる。 ・カンファレンスを通し、学生間の学びを共有し、継続支援について考察を深めることができる。 ・妊娠期から助産計画の立案・ケア実施・評価を行う。				
教科書	特に指定しない				
参考書	特に指定しないが、事例に応じて必要な文献資料等を提示する。				
評価方法･基準	・目標達成行動による総合的評価(60%) ・実習記録による学習成果(40%)				
事前･事後学習	事前学習：既習の周産期助産ケアに関する学習全般について復習する。受け持ち決定後は、状況に応じて健診時期に対応する経過内容を予習し、個別的なケアに対応できるために、実習前に指導教員と相談の機会を持つ。 事後学習：当日のうちに、健診内容やケアの状況を記録として整理し、その後の経過予測に基づき次回健診結果に生かせるようにする。同時に自身の学びについて考察を深めるために記録を残しておく。				
備考	特になし				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
地域助産実習	2	前期	1	実習 45時間

担当教員	志村千鶴子、下睦子、潮田千寿子、小出加代子、吉田美和
授業概要	地域における妊産婦及び、新生児のケアの実際について学ぶ。具体的には、地域における助産師の活動範囲や業務管理、安全管理のための施設運営・関連機関との連携等について理解を深め、地域における助産活動の特徴を理解する。
到達目標	1．出産施設と保健センターや育児支援施設との連携活動を通して、地域における母子およびその家族へのケアの特徴を考察できる。 2．母子およびその家族を対象とした、地域における妊娠期・産褥期の助産ケアや保健指導の具体的展開を考察できる。
履修条件	特になし
授業計画	・妊娠中から育児期の地域における妊産婦と新生児及びその家族とのかかわりを通し、出産後の育児支援に向け、出産施設と保健センター、育児支援施設との具体的連携を学ぶ。 ・保健センターや育児支援施設との連携活動や妊婦及び母子を対象とした保健指導(母親学級・両親学級・退院指導など)を計画し、実施・評価できる。 ・妊娠中から育児期の地域における妊産婦と新生児及びその家族とのかかわりを通し、出産後の育児支援に向け、出産施設と保健センター、育児支援施設との具体的連携を学ぶ。 ・保健センターや育児支援施設との連携活動や妊婦及び母子を対象とした保健指導(母親学級・両親学級・退院指導など)を計画し、実施・評価できる。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
評価方法･基準	・実習中の目標達成行動の総合的評価(60%) ・実習記録による学習成果(40%)
事前･事後学習	事前学習：妊婦及び母子を対象とした保健指導(母親学級・両親学級・退院指導など)計画立案に向け、必要な情報や資料を収集する。 事後学習：実施した保健指導について、評価し記述する。
備考	特になし

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
周産期ハイリスク実習	2	前期	1	実習 45時間

担当教員	潮田千寿子、志村千鶴子、下睦子、小出加代子、吉田美和
授業概要	周産期のハイリスク状態にある母児とその家族の特徴やケア、新生児医療システムの現状や課題について理解を深める。特に MFICU・NICU・GCU におけるハイリスク母児の実習を通して、対象のアセスメント能力を高めるための知識・技術を修得し、高度医療に対応できる基本的能力を身につける。
到達目標	1．MFICU・NICU・GCU におけるハイリスク母児のアセスメントができる。 2．受け持ち対象となるハイリスク妊産婦に必要なケアを指導の下に実践できる。 3．ハイリスク状態にある母児の特徴やケア、新生児医療システムの現状や課題を明確にできる。
履修条件	特になし
授業計画	・MFICU に入院中の妊婦を 1 例受け持ち、治療を必要とする妊婦の生活に即した助産過程を通して、異常妊婦のケアを学ぶ。 ・NICU 入院児の病態・ケアを理解すると共に、妊娠中の健康管理および、分娩時のケアの意義、入院児の親に対する家族支援、新生児医療システムについて考察する。 ・不妊治療の実際を見学し、治療中患者の学習場面の参加やカウンセリング事例に関する臨床講義等を通して、個別的・継続ケアの意義や倫理的側面の課題についての実際を学ぶ。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
評価方法・基準	・目標達成行動による総合的評価(60%) ・実習記録による学習成果(40%)
事前・事後学習	事前学習：受持ちに関する、身体的・心理的状況について事前に学習し、ケア計画を立案する。不妊治療や、MFICU、NICU における助産ケアの特徴について復習しておく。 事後学習：受持ち事例を通して、ハイリスクな妊産婦・新生児とその家族のケアを考察する。
備考	特になし

授業科目名		開講年次	開講期間	単位数	授業形態
助産管理実習		2	前期	1	実習 45時間
担当教員	志村千鶴子、下睦子、潮田千寿子、小出加代子、吉田美和				
授業概要	助産所における助産業務管理、物理的・人的環境の整備と調整、ケアシステムの維持管理等の実践を通して学び、対象者のニーズに沿った質の高い管理の基本的特徴を把握する。				
到達目標	1．助産所における助産師の活動範囲や業務管理、安全管理のための施設運営・関連機関との連携等について理解できる。 2．出産施設における助産業務管理、対象のニーズに沿った物理的・人的環境の整備と調整、ケアシステムの維持管理等について考察できる。				
履修条件					
授業計画	・助産所での助産管理に関する実習を１週間行う。 ・助産所の実習を通し、助産所における助産業務管理、連携活動、対象のニーズに沿った物理的・人的環境の整備と調整、ケアシステムの維持管理を知り、考察する。 ・助産所ですぐれたケアを実践している助産師とともに、妊婦健診、分娩時のケア、母乳ケア、家庭訪問などを見学し、周産期ケアの課題及び理想像について討議・考察する。 ・助産所における分娩の実際を見学し、質の高い助産ケアのあり方について考察する。				
教科書	特に指定しない				
参考書	特に指定しない				
評価方法･基準	・目標達成行動による総合的評価(60%) ・実習記録による学習成果(40%)				
事前･事後学習	事前学習：周産期施設における助産管理を理解するために既習の「助産管理論」を踏まえ、自己の実習目標を記述する。 事後学習：対象のニーズに沿った物理的・人的環境の整備と調整、ケアシステムの維持管理、質の高い助産ケアの在り方についてについて考察し、レポートを作成する。				
備考	特になし				

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
ウィメンズヘルス·助産学特別研究	1・2	後期・通年	8	演習 240時間

(概要)
学生個々の関心のあるテーマに沿って、女性の性と生殖に関する健康課題について研究指導を行う。

(志村千鶴子)
ウィメンズヘルス及び、妊産婦ケアに関する研究、熟練助産師や助産師教育に関する研究等について指導を担当する。

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
ウィメンズヘルス・助産学課題研究	2	通年	2	講義 30時間

担当教員	志村千鶴子
授業概要	ウィメンズヘルスや助産ケアに関する問題を取り上げ、エビデンスに基づく助産実践を明らかにすることを目的とした系統的な文献レビューを行う。
到達目標	1．ウィメンズヘルスや助産ケアに関するテーマを発見し、系統的な文献検討を行い、テーマに関する研究動向を把握する。 2．テーマについて文献的に実証し、論文としてまとめる。
履修条件	看護研究履修済みのこと
授業計画	回　内容　担当教員 1－15　文献検討と個別相談　志村
教科書	指定せず
参考書	指定せず
評価方法･基準	課題研究の達成度によって評価する。
事前･事後学習	事前学習２時間程度 事後学習２時間程度
備考	特になし